

# 上町遺跡 7

2018

飛驒市教育委員会







か　ん　ま　ち　い　せ　き  
上　町　遺　跡　7

2018

飛驒市教育委員会



# 序

岐阜県の最北端に位置する飛騨市は、北は富山市、南東は高山市、西は白川村に接し、面積792.31㎢、内、森林が約92%を占める山間地域に4町（古川町・河合町・宮川町・神岡町）から成る自治体として、平成30年3月現在、約25,000人の人々が生活しています。

この4町において最も多くの人口を擁する古川町は、町の西寄りを清流宮川が貫流し、その周囲に形成されている市街地には、古墳や古代寺院跡などの古代遺跡が数多く分布しています。これは、旧国府町（現高山市国府町）とともに古代飛騨の中心であったことを物語っています。

さて、本報告書は、市道上町線の道路拡幅工事に伴い2012年度・2015年度・2016年度の3ヶ年度に実施した「上町遺跡：第26次・27次・45次・49次調査結果」をまとめたものです。今回の特筆すべき成果は、合計16軒の竪穴建物跡が発見され、当時の集落の様子がより明確になったことと、27次調査で発見された上幅3m・深さ1mを超える巨大溝跡が、官衙関連の区画溝を究明する上での極めて大きな手がかりとなったことです。

本報告書を刊行・公開することによって、今後の調査研究の資料として活用され、遺跡の全容のさらなる解明に結びつきますとともに、市民の皆さんのが「ふるさと飛騨市」の先人の生きた足跡に思いを巡らせ、貴重な財産である文化財の保護への関心を高めていただく一助になることを願っています。

結びに、本発掘調査の実施に対しまして深いご理解とご協力をいただきました飛騨市古川町上町地区の皆様はじめ、多くの市民の皆様、そして、本報告書の作成等に多大なるご指導・ご支援を賜りました関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

平成30年3月

岐阜県飛騨市教育委員会

教育長 山本 幸一

## 例　言

- 1 本書は、岐阜県飛騨市古川町上町・南成町・大野町に所在する上町遺跡（岐阜県遺跡番号21217-06433）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、社会资本整備総合交付金事業市道上町線道路改良工事に伴うものであり、飛騨市役所基盤整備部建設課から飛騨市教育委員会が委任を受けた。発掘調査及び整理作業は、飛騨市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査及び一次整理作業は、平成24年度に第26・27次調査として、平成27年度に第45次調査として、平成28年度に第49次調査として実施し、二次整理作業は平成29年度に実施した。
- 4 本書の執筆は、三好清超が行った。また、編集は有限会社毛野考古学研究所富山支所に委託し、三好の監督のもと常深尚が行った。
- 5 第26・27次調査は株式会社玉川文化財研究所に委託して実施した。第45・49次調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量、景観写真などの業務は、株式会社上智岐阜支店に委託して実施した。
- 6 遺物実測等の二次整理作業は有限会社毛野考古学研究所富山支所に委託して実施した。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して実施した。
- 8 土壌分析・樹種同定・年代測定は、株式会社上智岐阜支店、有限会社毛野考古学研究所富山支所及びパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して実施した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。  
秋元陽光、内堀信雄、賀来孝代、柏木善治、野村伊佐衛門、馬場伸一郎、町川克巳、森島一貴  
上町区
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第VII系を使用する。水準はT. P. である。
- 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2007『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、飛騨市教育委員会で保管している。

## 目 次

序・例言		第3章 調査成果	.....15
目次		第1節 層序	.....15
第1章 調査の経過	1	第2節 第26次調査	.....15
第1節 調査に至る経緯	1	第3節 第27次調査	.....21
第2節 調査の方法と経過	7	第4節 第45次調査	.....41
第3節 これまでの上町遺跡の調査次数と 刊行済みの報告書	9	第5節 第49次調査	.....51
第2章 遺跡の環境	11	第4章 総括	.....61
第1節 地理的環境	11	引用・参考文献	.....62
第2節 歴史的環境	11	写真図版・報告書抄録	
		奥付	

## 挿図目次

第1図 上町遺跡位置図・大グリッド図	1	第22図 SD02 平面・断面図、出土遺物図	31
第2図 第25次調査I地区遺構図	3	第23図 SP01~18平面・断面図、出土遺物図	32
第3図 第25次調査I地区出土遺物図	4	第24図 SP19~34平面・断面図、出土遺物図	33
第4図 第25次調査II地区遺構図、出土遺物図	5	第25図 SP35~54平面・断面図、出土遺物図	34
第5図 第41次調査遺構図、出土遺物図	6	第26図 SP56~60平面・断面図、出土遺物図	35
第6図 遺構平面・断面・堆積分類図	7	第27図 包含層・表土出土遺物図	35
第7図 上町遺跡と周辺の遺跡分布図	14	第28図 表土・表採出土遺物図	36
第8図 第26次調査区全体図	16	第29図 第45次調査区全体図	41
第9図 SI01 平面・断面図、出土遺物図	17	第30図 SI01 平面・断面図、出土遺物図	43
第10図 SI02 平面・断面図、出土遺物図	18	第31図 SI02 平面・断面図、出土遺物図	44
第11図 SK01・SP01~05平面・断面図、出土遺物図	19	第32図 SI03 平面・断面図	46
第12図 遺構外出土遺物図	19	第33図 SI04 平面・断面図、出土遺物図	47
第13図 第27次調査区全体図	22	第34図 SK06・SP08 平面・断面図	48
第14図 SI01 平面・断面図	23	第35図 遺構外出土遺物図	49
第15図 SI02 平面・断面図、出土遺物図	24	第36図 第49次調査区全体図	51
第16図 SI03 平面・断面図、出土遺物図	25	第37図 SI01 平面・断面図	53
第17図 SI04 平面・断面図、出土遺物図	26	第38図 SI01 出土遺物図	54
第18図 SB01 平面・断面図、出土遺物図	27	第39図 SI02 平面・断面図	55
第19図 SD01 平面・断面図	28	第40図 SI02 出土遺物図	56
第20図 SD01 出土遺物図(1)	29	第41図 SI03 平面・断面図	57
第21図 SD01 出土遺物図(2)	30	第42図 SP04・05平面・断面図、遺構外出土遺物図	58

## 挿表目次

第1表	発掘調査並びに整理作業の体制	…2	第12表	第27次調査遺物観察表(1)	…38
第2表	第25次調査I地区遺物観察表	…4	第13表	第27次調査遺物観察表(2)	…39
第3表	第25次調査II地区遺物観察表	…5	第14表	第27次調査遺物観察表(3)	…40
第4表	第41次調査遺物観察表	…6	第15表	第45次調査出土遺物集計表	…42
第5表	上町遺跡発掘調査報告書一覧表	…9	第16表	第45次調査遺構一覧表	…49
第6表	上町遺跡調査次数一覧表	…10	第17表	第45次調査遺物観察表(1)	…49
第7表	第26次調査出土遺物集計表	…15	第18表	第45次調査遺物観察表(2)	…50
第8表	第26次調査遺構一覧表	…20	第19表	第49次調査出土遺物集計表	…52
第9表	第26次調査遺物観察表	…20	第20表	第49次調査遺構一覧表	…59
第10表	第27次調査出土遺物集計表	…21	第21表	第49次調査遺物観察表(1)	…59
第11表	第27次調査遺構一覧表	…37	第22表	第49次調査遺物観察表(2)	…60

## 写真図版目次

図版1	第26次 壊穴建物跡SI01遺物出土状況(北から) 第26次 SI01-柱穴P1遺物出土状況(北東から) 第26次 壊穴建物跡SI01床面検出状況(北から) 第26次 壊穴建物跡SI01-02完掘状況(北から) 第26次 完掘状況(北西から)	図版8	第49次 全景(西から)
図版2	第27次 完掘状況(北から) 第27次 溝跡SD01完掘状況(北から)	図版9	第49次 壊穴建物跡が切り合う状況(東から) 第49次 壊穴建物跡SI01カマド完掘状況(東から) 第49次 壊穴建物跡SI01カマド遺物No.221・222・ 227・229・237出土状況(東から)
図版3	第27次 溝跡SD01断面層位(北東から) 第27次 溝跡SD01遺物No.85・86・87・92出土状況 (南東から)	図版10	第49次 壊穴建物跡SI01完掘状況(東から) 第49次 壊穴建物跡SI02完掘状況(東から) 第49次 壊穴建物跡SI02遺物出土状況(北から) 第49次 壊穴建物跡SI02断面層位(北から) 第49次 壊穴建物跡SI02遺物No.245出土状況近 接(北から)
図版4	第27次 遺物No.117出土状況(東から) 第27次 壊穴建物跡SI03遺物No.74・75出土状況 (南から)	図版11	第49次 壊穴建物跡SI02遺物No.241出土状況(北から) 第49次 壊穴建物跡SI03完掘状況(北から) 第49次 壊穴建物跡SI03カマド検出状況(北から) 第49次 柱穴跡SP04縫出土状況(北から) 第49次 壊穴建物跡SI03カマド完掘状況(北から) 第49次 柱穴跡SP04完掘状況(北から)
図版5	第27次 壊穴建物跡SI04完掘状況(北から) 第27次 壊穴建物跡SI04検出状況(北から) 第27次 壊穴建物跡SI03完掘状況(南から)	図版12	試掘確認調査 第25次I・II、第41次出土遺物 第26次調査 出土遺物
図版6	第45次 遺構検出状況(西から) 第45次 壊穴建物跡SI02-1・2完掘状況(南東から)	図版13	第27次調査 出土遺物(1)
図版7	第45次 壊穴建物跡SI02-2カマド断面層位(東から) 第45次 壊穴建物跡SI03完掘状況(南東から)	図版14	第27次調査 出土遺物(2)
		図版15	第45次調査 出土遺物
		図版16	第49次調査 出土遺物

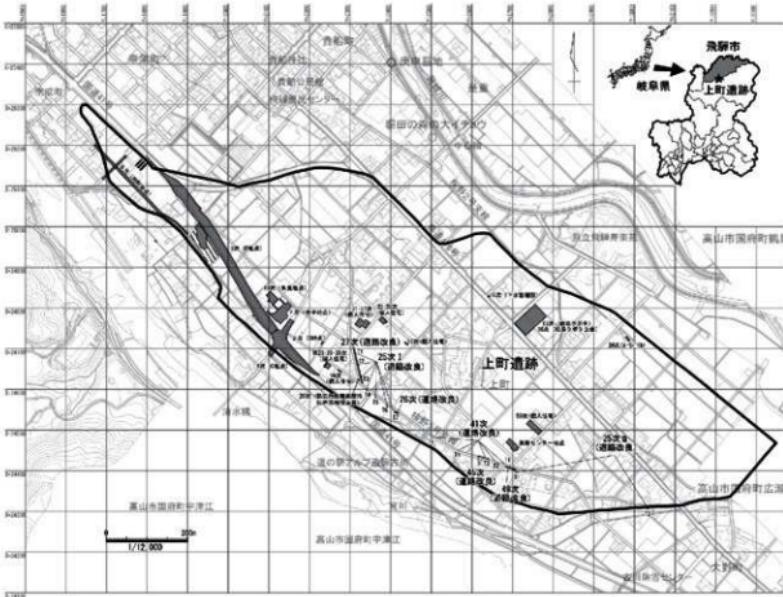
# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

### (1) 調査に至る経緯

**事業計画の概要と試掘確認調査** 上町遺跡は、岐阜県飛騨市古川町上町・南成町・大野町に所在する（第1図）。当遺跡が発掘調査の対象となったのは、平成24・25年度事業として計画された社会资本総合整備事業市道上町線道路改良工事による道路拡幅に伴うものであった。飛騨市教育委員会では、飛騨市役所基盤整備部建設課と協議調整を重ね、平成23年10月25日付けで試掘確認調査の依頼を受け、遺構の有無等を検討することとなつた（第25次）。試掘確認調査の結果、260mにわたる道路拡幅のうち3地点120mの範囲で遺構への影響があると想定された。なお、調査は平成23・24年度に分けて実施し、今回の報告ではI地区・II地区と整理した。

**調整と文化財保護法（以下、法とする）94条の通知** 工事対象地は道路拡幅範囲のため、掘削範囲は狭小である。しかし、試掘確認調査で遺構密度が高いことを確認したため、工事立会では対応が難しいと考えられ、本発掘調査を実施する方針で調整を行なつた。その協議を経て、岐阜県教育委員会教育長宛の埋蔵文化財発掘の通知が、平成24年5月8日付け飛建第141号によりになされた。



第1図 上町遺跡位置図・大グリッド図

**本発掘調査実施の指示** 岐阜県教育委員会では平成24年5月11日付け社文第4号の7にて、飛騨市長宛に必要範囲とされる3地点について本発掘調査を実施するよう指示した。本発掘調査は、飛騨市役所基盤整備部建設課から委任を受けて飛騨市教育委員会が実施することとなった（第1表）。飛騨市教育委員会では、平成24年7月27日付け飛市教第1082号にて法99条による報告を岐阜県教育委員会に提出した。

**事業計画変更に伴う調整と範囲の決定** 平成24年5月8日付けで委任のあった工区について第26次調査として10m<sup>2</sup>、平成24年9月3日付けで委任のあった工区について第27次調査として180m<sup>2</sup>の本発掘調査を実施した。その後、3地点目の計画が遅れることとなった。平成26年度には当初計画に無かった範囲で拡幅工事を行なう計画が発生し、平成27年度に試掘確認調査を実施した（第41次）。その結果、遺構へ影響がある30mにわたり新たに本発掘調査を実施することになり、平成27年7月21日付けで法94条通知がなされた。

建設課では、追加部分の本発掘調査を平成27年9月3日付けで飛騨市教育委員会に委任し、平成27年9月15日付け社文第54号の85による岐阜県教育委員会からの本発掘調査の指示を受けて同年度中に23m<sup>2</sup>の発掘調査を実施することとした（第45次）。飛騨市教育委員会では平成27年10月19日付けで法99条による報告を行った。

当初計画からの残りの地点については、平成28年6月27日付けで委任を受けて57m<sup>2</sup>の本発掘調査を実施した（第49次）。最終的に調査面積は合計270m<sup>2</sup>となった。

## （2）試掘確認調査の結果

**第25次調査**（第2～4図、第2・3表） 対象面積260m<sup>2</sup>に対し、平成23年11月28・29日にI地区として7ヶ所のトレンチ40m<sup>2</sup>、平成24年4月13日にII地区として2ヶ所のトレンチ8m<sup>2</sup>の試掘確認調査を実施した。I地区では1～7号トレンチのうち、1号トレンチにて柱穴等3基、2号トレンチにて竪穴建物跡1軒等、3号トレンチにて溝1条、7号トレンチにて竪穴建物跡1軒を確認した。4～6号トレンチでは地山面が削平を受けていることを確認した。遺物は須恵器片・土師器片82点が出土した。II地区では、1・2号トレンチのうち、1号トレンチで須恵器片・土師器片とともに竪穴建物跡と想定される遺構を確認した。2号トレンチでは遺構・遺物の確認はなかった。

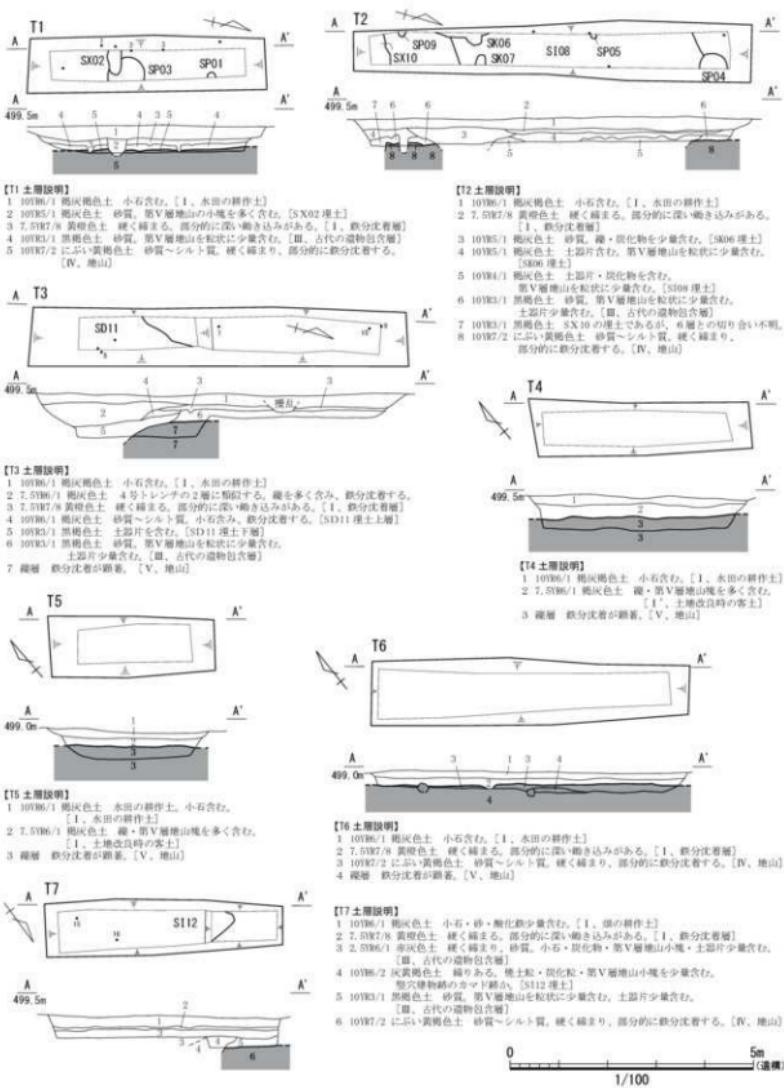
調査の結果、I地区の1～3・7号トレンチ、II地区の1トレンチでは工事掘削が遺構に及ぶと判断されたため、事前の本発掘調査として、第26・27・49次調査を実施することとなった。

**第41次調査**（第5図、第4表） 対象面積100m<sup>2</sup>に対し、平成27年4月30日・5月1日に5ヶ所のトレンチ5m<sup>2</sup>の試掘確認調査を実施した。3号トレンチにて柱穴1基を須恵器・土師器とともに確

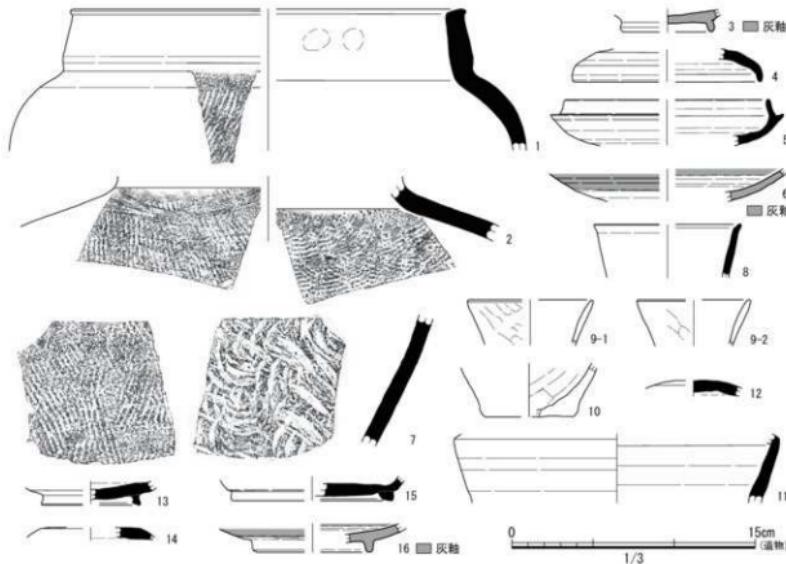
第1表 発掘調査並びに整理作業の体制

作業(年度)	2012(平成24)	2015(平成27)	2016(平成28)	2017(平成29)
教育長	山本 幸一			
事務局長	藤井 義昌	石橋 豊	清水 實	
生涯学習課長(2017年度より文化振興課長)	田中 吉久	清水 實	森瀬 誠	大庭 久幸
課長補佐	鈴木 茂樹(放人)(～H28.4)			—
文化財係長	—		水口 晃	清水 利久
担当		清水 利久(文化財係)		
調査担当	三好 清超	三好 清超 (總務部税務課)	三好 清超 (生涯学習係)	三好 清超
委託業者	発掘調査委託 26・27次:㈱玉川文化財研究所 26次管理技術者:迫 和希 27次管理技術者:北平朝久	発掘調査支援業務委託 45次:㈱上智岐阜支店 49次:㈱上智岐阜支店 管理技術者:片山博道	発掘調査支援業務委託 45次:㈱上智岐阜支店 49次:㈱上智岐阜支店 管理技術者:片山博道	報告書作成支援業務委託 ㈱毛野考古学研究所富山支所 管理技術者:常深 尚

認した。1・2・4・5号トレンチでは遺構遺物の確認はなかった。結果、3号トレンチ付近では工事掘削が遺構に及ぶと判断されたため、事前の本発掘調査として、第45次調査を実施することとなった。



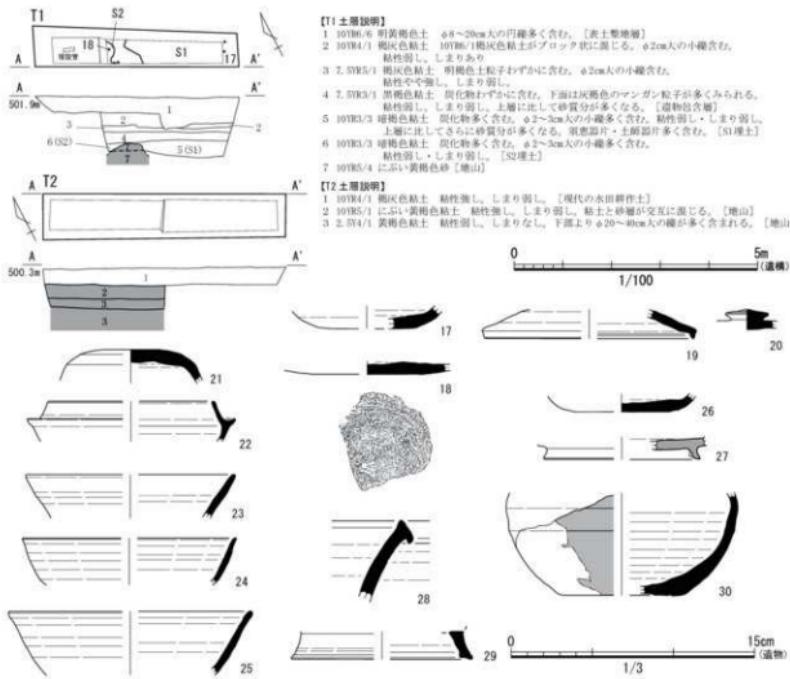
第2図 第25次調査I地区遺構図



第3図 第25次調査I地区出土遺物図

第2表 第25次調査I地区遺物観察表

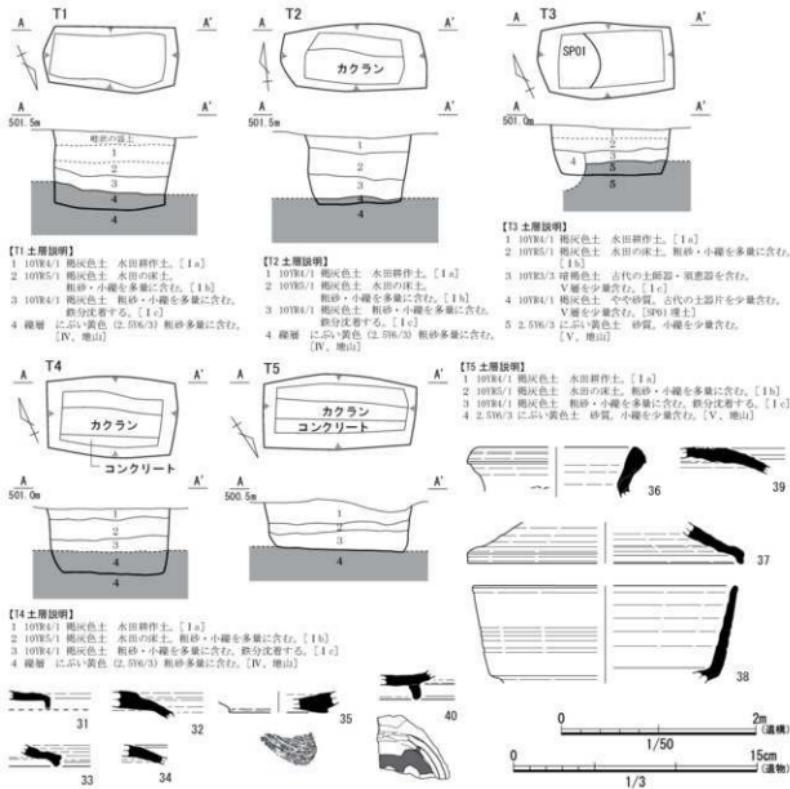
目録番号 登録番号	トレンチ名	層位	出土遺物種類	種別	法量(cm)	破損状況	地 土	像 似	色調		成形・調整等		備考	因 数 番 号
									外 面	内 面	外 面	内 面		
1 1 III	直底器 盤	(23.8)	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 を多く含む。	良 好	黄灰	2.5W/4	0.9H/4 灰	口縁部コナザ。脚部 平行タキ後コナザ。	口縁部コナザと脚 部凹窓。脚部ナザ。 同心円文当て具。 後にナザ。	-	12
2 1 III	直底器 盤	-	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	灰白	10H7/1 通	10H6/1 灰	平行タキ。	外曲自然軸。	-	12
3 1 I	灰焼陶器 碗 or 盆	(5.4)	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	灰白	10H7/1 通	10H7/1 灰	回転タキ。底部回転系 切り。高台貼付。	回転ナザ。	-	-
4 2 表 土	直底器 盤 H 高	(11.4)	-	-	1	直径1mm以下の砂粒をわず かに含む。	良 好	灰白	10H7/1 通	10H7/1 灰	回転ナザ。	回転ナザ。	-	12
5 2 表 土	直底器 盤 H 高	(12.4)	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英・ 赤色粘土をわざわざに含む。	良 好	黄灰	2.5W/6	2.5W/2 通	回転ナザ。	回転ナザ。	-	12
6 2 表 土	灰焼陶器 盤	-	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	灰白	2.5W/2 通	2.5W/2 通	回転ナザ。	回転ナザ。	-	12
7 3 SH11	直底器 盤	-	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	黄灰	10H5/1 通	10H5/1 灰	格子目タキ。	同心円文当て具。 同様。	87 同一箇 所	-
8 3 III	直底器 長颈瓶	(9.0)	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	灰白	10H5/2 通	10H5/2 灰	回転ナザ。	外曲自然軸。	-	-
9-1 3 III	土師器 小型壺	(7.6)	-	-	1	直径1mm以下の長石をわず かに含む。	良 好	明褐色	7.5H5/6 通	7.5H6/6 通	ナザ。	古墳時代前 期。	-	-
9-2 3 III	土師器 小型壺	(6.8)	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	明褐色	7.5H5/4 通	7.5H5/6 通	ナザ。	古墳時代前 期。	-	-
10 3 III	土師器 甕	(5.4)	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	明褐色	10H5/3 通	10H6/4 通	ナザ。	ナザ。	-	-
11 5 表 土	直底器 長颈瓶	-	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	黄灰	2.5W/2	2.5W/1 通	回転ナザ。	外曲削に自 然軸。	-	-
12 6 表 土	直底器 杯 H 高	-	-	-	1	直 直径1mm以下の砂粒をわず かに含む。	良 好	黄灰	2.5H/3	10H7/1 通	天底部回転ヘタケシリ。	回転ナザ。	-	12
13 7 SH12	直底器 杯 H	(6.0)	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英 を多く含む。	良 好	黄灰	10H6/2 通	10H7/2 通	底部回転ヘタケシリ。	回転ナザ。	-	-
14 7 SH12	直底器 杯 H 高	-	-	-	1	直径1mm以下の砂粒をわず かに含む。	良 好	黄灰	10H7/2 通	10H7/2 通	底部回転ヘタケシリ。	回転ナザ。	-	-
15 7 表 土	直底器 杯 H	(9.8)	-	-	1	直 直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	黄灰	10H7/2 通	10H7/2 通	天底部回転ヘタケシリ。	回転ナザ。	内面平滑で、 周辺用ひし。	12
16 7 表 土	灰焼陶器 碗	(6.8)	-	-	1	直 直径1mm以下の長石・石英 をわざわざに含む。	良 好	黄灰	10H7/2 通	10H7/2 通	脚部貼付後 に周縁ナザ。	回転ナザ。	崩毛塗り。	12



第4図 第25次調査II地区構造図、出土遺物図

第3表 第25次調査II地区遺物観察表

遺物番号	層位名	出土地点	種別	法量(cm)	破片数	地土	焼成	色調		成形・調整等		備考	因縁番号	
								口径	底径	器高	外面	内面		
17 1 6 32	裏窓2F 坪A	-	(6, 2)	-	1 直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	普通	灰黄	2. 5M/S/2	2. 5M/S/2	直筒筒状切り。同軸ナヂ。				
18 1 5 31	裏窓2F 坪	-	(7, 0)	-	1 直径1mm以下の長石・石英を多く含む。	良好	灰白	2. 5M/S/1	5M/S/1	底面へラöz切り後に同軸ナヂ。				
19 1 4 -	裏窓2F 坪B塗	(12, 8)	-	-	1 直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	普通	灰黄	2. 5M/S/2	1036/7/2	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。	外側重ね焼痕。		
20 1 4 -	裏窓2F 坪B塗	-	-	-	1 直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	灰白	2. 5M/S/1	1036/7/1	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。			
21 1 4 -	裏窓2F 坪B塗	-	-	-	1 直径1mm以下の長石・石英を多く含む。	普通	暗灰	2. 5M/S/1	5M/S/1	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。	内面に隕坑。		
22 1 4 -	裏窓2F 坪B塗	(10, 0)	-	-	1 磨。直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	灰白	2. 5M/S/1	5M/S/1	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。	体部外側に隕坑(重ね焼き跡)。		
23 1 4 -	裏窓2F 坪	(12, 8)	-	-	1 磨。直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	灰白	1036/7/2	1036/7/3	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。			
24 1 4 -	裏窓2F 坪	(13, 0)	-	-	1 磨。直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	灰黃	1036/4/2	3M/S/1	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。	12		
25 1 4 -	裏窓2F 坪	(14, 8)	-	-	1 直径2mm以下の長石・石英を多く含む。	良好	灰白	2. 5M/S/2	7. 5M/S/2	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。			
26 1 4 -	裏窓2F 坪B塗	(5, 8)	-	-	1 直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	灰白	2. 5M/S/2	2. 5M/S/2	直筒筒状切り。同軸ナヂ。	同軸ナヂ。			
27 1 4 -	灰褐色陶器 塗	(9, 0)	-	-	1 磨。直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	灰白	1036/7/1	1036/7/1	同軸ナヂ。高有點窓。	同軸ナヂ。			
28 1 4 -	裏窓2F 塗	-	-	-	1 磨。直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	灰白	2. 5M/S/2	2. 5M/S/2	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。	内面に隕坑。	12	
29 1 4 -	裏窓2F 塗	(11, 0)	-	-	1 磨。直径1mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	灰白	2. 5M/S/2	5. 5M/S/2	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。	外側自然。		
30 1 4 -	裏窓2F 塗	(7, 2)	-	-	2 磨。直径1mm以下の長石・石英を多く含む。	良好	暗灰	2. 5M/S/2	5. 5M/S/2	同軸ナヂ。	同軸ナヂ。	灰→底部外側に灰子(リード色)の自然。	12	



第5図 第41次調査遺構図、出土遺物図

第4表 第41次調査遺物観察表

遺物番号	トレンチ番号	層位	出土位置	種類	法量(cm)			破片数	施土	備考	色調				成形・調整等		備考	
					口径	底径	高さ				外面	内面	外面	内面	成形・調整等			
31	3	I	環状器 BII面	—	—	—	—	1	直。直径1mm以下の石英を 多く含む。	良 好	N8/ 暗灰	回転ナギ。	回転ナギ。	—	—	—	—	
32	3	I	環状器 BII面	—	—	—	—	1	直。直径1mm以下の長石を わずかに含む。	良 好	N6/1 灰	10YR6/1 灰	天端部回転へラケズリ。	回転ナギ。	—	—	—	—
33	3	I	環状器 BII面	—	—	—	—	1	直。直径1mm以下の長石を わずかに含む。	普通	10YR6/1 灰	10YR6/1 灰	回転ナギ。	回転ナギ。	—	—	—	—
34	3	I	環状器 BII面	—	—	—	—	1	直。直径1mm以下の長石を わずかに含む。	良	N6/1 灰	10YR6/1 灰	天端部回転へラケズリ。	回転ナギ。	—	—	—	—
35	3	I	環状器 塊A	—	(6.0)	—	—	1	直径1mm以下の石英をわずかに含む。	普通	10YR6/1 灰白	10YR6/1 灰白	底端回転系切り。	回転ナギ。	—	—	—	—
36	3	I	環状器 塊	(9.6)	—	—	—	1	直径1mm以下の長石・石英を わずかに含む。	良	10YR6/1 灰	10YR6/1 灰	回転ナギ。	回転ナギ。	—	—	—	—
37	3	III	質器 BII面	(16.8)	—	—	1	1	直。直径1mm以下の石英を 多く含む。	良 好	2.5M/4/6 水赤	2.5M/4/6 水赤	回転ナギ。	回転ナギ。	内面に隙隙。外 面に重ね焼痕。	12	—	—
38	3	III	質器 BII面	(16.0)	—	—	1	1	直。直径1mm以下の石英を 多く含む。	良	5.57/2 灰	5.57/2 灰	回転ナギ。	回転ナギ。	内面に隙隙。外 面に重ね焼痕。	12	—	—
39	—	表 様	質器 BII面	—	—	—	1	直。直径1mm以下の長石を わずかに含む。	良	7.05/1 灰	7.05/1 灰	天端部回転へラケズリ。	回転ナギ。	—	—	—	—	
40	—	表 様	質器 BII面	—	—	—	1	直。直径1mm以下の長石を わずかに含む。	良	7.57/2 灰	7.57/2 灰	回転ナギ。高台部剥離。	回転ナギ。	外底部に墨痕。	—	—	—	

## 第2節 調査の方法と経過

### (1) 調査の方法

**グリッドの設定** 調査区画は世界測地系座標を基に  $100\text{m} \times 100\text{m}$  の大グリッドを設定し、その中に  $5\text{m} \times 5\text{m}$  の小グリッドを設定した。小グリッドは北から南へA～T、西から東へ1～20とし、調査区画の呼称は北西隅の番号を用いた。

**掘削** 表土掘削は、第26次調査では人力で、第27・45・49次調査では重機で行った。遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削の各作業はすべて人力で行った。

**記録作成** 遺構番号は、第26・27次調査では遺構種別ごとに通番を付し、第45・49次調査では検出順に通番を付した。遺構記号は『発掘調査のてびき』(平成22年、文化庁)に準拠した。当報告書内では各次数の種別と検出番号が重複するため、必要に応じて次番号を頭に付して「26SI01」などのように記す。平面図・断面図は三次元測量図化システムにより作図した。一部の断面図は手実測によるものをデジタルトレースして作図した。遺構調査にあたっては、原則として全て平断面図を作成した。計測は最大幅を長軸とし、それに直行する軸を短軸とした。深さは最も深い位置で計測した。搅乱や他遺構に切られている場合、調査区外に及ぶ場合は残存値を計測し、括弧書きで記載した。

平面形状と底面形状は、円形・方形・不定形の3種に分類した。埋土堆積状況は、単層・水平堆積・中央がレンズ状に壅む堆積・片側の壁に偏る堆積・その他の5種に分類した。断面形状は、半円形・方形・逆三角形・プラスコ形・2段掘り込み形の6種に分類した(第6図)。

記録写真は35mmカメラ(モノクロ・カラー)、中判カメラ(モノクロ・カラー)、デジタルカメラで撮影した。景観写真は、第26・27次調査では脚立で、第45次調査では檜で、第49次調査では高所作業車で撮影した。

**遺物の取り上げ** 検出作業時及び遺構内出土遺物については2cm以上の破片を一点上げとし、その他は一括取り上げとした。遺物包含層出土遺物は残りが良い資料を一点取り上げとし、ほとんどを小グリッド単位の一括取り上げとした。

### (2) 発掘作業・整理等作業の経過

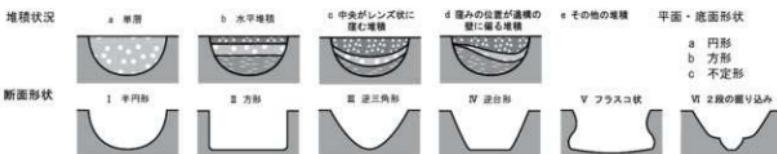
第26次 平成24年6月18日 上層より人力にて掘削開始。

6月20日 壴穴建物跡2軒、土坑等を検出。

6月22日 遺構掘削開始。

6月23日 遺構完掘。

6月24日 写真撮影。現場引渡し。



第6図 遺構平面・断面・堆積分類図

- 第27次 平成24年10月29日 重機による表土掘削の開始。
- 11月5日 遺構検出の開始。岐阜県教育委員会・松野晶信氏来跡。
  - 11月7日 遺構掘削の開始。大型の溝遺構SD01及びSP。
  - 11月10日 遺構実測作業の開始。
  - 11月16日 SI03より竪穴建物跡の掘削を開始。
  - 11月17日 現地説明会、30名が参加。飛騨考古学会・町川克巳氏来跡。
  - 11月18日 下呂市教育委員会・馬場伸一郎氏来跡。
  - 11月19日 完掘した遺構から写真撮影の開始。
  - 11月30日 現場片付け、埋め戻し開始。
  - 12月3日 現場引渡し。
- 第45次 平成27年10月19日 重機による表土掘削の開始。ほぼ全面に遺構が重複していた。
- 10月20日 4軒の竪穴建物跡と想定して検出作業を行なったが、幅70cmの調査区では平面での判断が難しく、サブトレチを設定して断面で確認をすることとした。
  - 10月21日 SI01は単独、SI02は2軒重複うち1軒にカマド、SI03はカマド、SI04は3軒重複していることを確認。
  - 10月22日 遺構掘削を完了し、櫓から全景写真撮影。
  - 10月23日 埋め戻し、現場引渡し。
- 第49次 平成28年11月9日 工事による側溝撤去に立会。
- 11月10日 側溝撤去が完了し、その下層から人力による遺構検出を開始。
  - 11月11日 竪穴建物跡を3軒確認した。うち1軒ではカマドが伴う。
  - 11月12日 実測開始。日本考古学協会員・秋元陽光氏、(有)毛野考古学研究所・賀来孝代氏、(公財)かながわ考古学財団・柏木善治氏、閑市教育委員会・森島一貴氏が来跡。
  - 11月14日 竪穴建物跡の掘削開始。現場公開21名来跡。
  - 11月15日 岐阜市教育委員会・内堀信雄氏、飛騨考古学会・町川克巳氏来跡。現場公開37名来跡。
  - 11月17日 高所作業車による景観写真撮影。
  - 11月18日 遺構完掘。現場引渡し

### (3) 整理等作業の経過

**一次整理作業** 一次整理作業は各次の本発掘調査が終了後すぐに開始した。第26次調査では平成24年7月18日まで、第27次調査では平成25年1月24日まで㈱玉川文化財研究所が実施した。第45次調査では平成27年11月20日まで、第49次調査では平成29年2月28日まで㈱上智岐阜支店が実施した。内容は、遺構図面デジタルトレース、遺物洗浄・注記・分類とした。注記は手書きで行い、遺跡略号(上町遺跡:KM)・調査次数・取り上げ番号を原則とし、第26・27次調査では出土遺構も記載した。

**二次整理作業** 平成29年4月14日付けて建設課より委任を受けた飛騨市教育委員会が実施した。

作業は（有）毛野考古学研究所富山支所に支援業務委託して実施した。作業にあたり、委託先の整理作業場へ出土遺物を持ち出した。出土遺物は遺構内出土と遺構外出土に分け、遺構内出土のものは遺跡の時期や性格を決定する資料と考えて報告書掲載遺物を選別した。遺構外出土遺物は、遺跡の性格を反映するもの、資料的価値が高いもの、分類別の代表的なものを選別して掲載した。

普及活動として現地説明会を実施している（写真）。第27次調査では平成24年11月17日に実施し、30名の参加があった。第49次調査では平成28年11月14・15日に実施し、両日で58名の参加があった。また、2015（平成27）年11月27日～12月5日の期間で飛騨市図書館において上町遺跡発掘速報展として第26・27・45次調査の遺物展示を行なった。最終日の12月5日には飛騨市高度情報センターにおいて第1回飛騨の歴史講座「上町遺跡の近年の調査成果から」と題した報告会を行い、16名の参加があった。

報告書は2017年度に印刷した。

### 第3節 これまでの上町遺跡の調査次数と刊行済みの報告書

上町遺跡では、これまで50次に及ぶ18,000m<sup>2</sup>以上の調査を実施し、6冊の報告書を刊行している（第5表）。これまで調査地点を開発原因者から名称をとり「トヨタ地点」などと称していた。しかし、市道拡幅に伴う調査が数ヵ年度・数次にわたるなど混乱が想定されたため、平成24年度より調査次数を数字で表すこととした（第6表）。さらにこれまで6冊刊行されている上町遺跡の発掘調査報告書に加えて今後も継続して刊行が見込まれることから、現状で刊行済みの報告書を把握しやすくなるために、当報告書より巻次を書名に入れることとする。

第5表 上町遺跡発掘調査報告書一覧表（平成28年度末現在）

新巻次	刊行年度	書名	シリーズ名	編集機関等
1	1989	上町遺跡C地点発掘調査報告書	—	上町遺跡C地点発掘調査団
2	1991	上町遺跡D地点発掘調査報告書	—	上町遺跡C地点発掘調査団
3	1994	上町遺跡トヨタ地点・O地点・栗原センター地点 発掘調査報告書	古川町埋蔵文化財調査報告書第4集	上町遺跡トヨタ地点・O地点・栗原センター地点発掘調査団
4	2001	上町遺跡金子地点・木見地点発掘調査報告書	古川町埋蔵文化財調査報告書第6集	上町遺跡金子地点・木見地点発掘調査団
5	2013	上町遺跡向町地点	飛騨市文化財調査報告書第6集	飛騨市教育委員会
6	2016	上町遺跡第28～33・37次	飛騨市文化財調査報告書第9集	飛騨市教育委員会



第27次調査現場説明会（平成24年11月17日）



第49次調査現場公開（平成28年11月15日）

第6表 上町遺跡調査次数一覧表（平成28年度末現在）

新次数	地点名称	調査期間	調査種別	報告年度
1	C地点	昭和62年8月1日～昭和63年3月31日	本調査	1989
2	O地点	昭和62年11月20日～昭和62年11月30日	本調査	1994
3	D地点	昭和63年9月17日～平成1年12月14日	本調査	1991
4	栗原センター地点	平成2年5月14日～平成2年6月19日	本調査	1994
5	向町地点	平成2年6月1日～平成2年12月27日	本調査	2013
6	トヨタ地点	平成2年9月12日～平成2年12月5日	本調査	1994
7	金子地点	平成3年7月24日～平成3年11月29日	本調査	2001
8	コスモ石油	平成4年12月25日調査依頼	試掘調査	未
9	丸住建設株式会社	平成5年1月18日調査依頼	試掘調査	未
9 II	開発計画に伴う埋蔵文化財の試掘調査	平成9年8月28日～9月6日	試掘調査	未
9 III	柳不動産	平成10年7月7日～9日	試掘確認調査	未
10	水見地点	平成10年8月5日～平成10年9月22日	本調査	2001
11	工場建設	平成16年9月1日	試掘調査	未
12	衛古川不動産	平成17年10月24日	立会調査	未
13	㈱岐阜クボタ	平成18年12月7～9日	試掘調査	未
14	個人住宅	平成19年3月16日	立会調査	未
15	下水道管理設	平成19年5月18日	立会調査	未
16	㈱岐阜クボタ	平成19年6月4日	立会調査	未
17	個人住宅	平成20年5月30日	立会調査	未
18	個人住宅	平成20年8月29日	立会調査	未
19	個人住宅	平成20年9月9日	立会調査	未
20	防災行政無線屋外扩声器増設工事	平成20年12月9日	立会調査	未
21	宅地造成	平成22年2月18日	立会調査	未
22	㈱トヨタ	平成22年5月17～21日	試掘確認調査	未
23	農道整備	平成22年7月26～27日	試掘確認調査	未
24	イーモバイル携帯電話アンテナ	平成23年4月14～15日	試掘確認調査	未
25	I上町線道路改良工事	平成23年11月28～29日	試掘確認調査	本報告
	II上町線道路改良工事	平成24年4月13日	試掘確認調査	本報告
25 III	宮川漁業	平成24年6月	立会調査	未
26	上町線道路改良工事	平成24年8月	本調査	本報告
27		平成24年10～11月	本調査	本報告
28	個人住宅	平成24年12月	試掘確認調査	2016
29	個人住宅撤壁工事	平成25年3月	立会調査	2016
	上町下水道敷設		立会調査	未
30	個人住宅	平成25年5月	本調査	2016
31	個人住宅	平成25年5月	試掘確認調査	2016
32	個人住宅	平成25年5月	試掘確認調査	2016
33	個人住宅	平成25年6月	本調査	2016
34	個人住宅	平成25年8月	試掘確認調査	未
35	個人住宅	平成25年8月	試掘確認調査	未
36	個人住宅	平成25年9月	立会調査	未
37	個人住宅	平成26年3月	本調査	2016
38	下水道管理設・市道	平成26年2月	立会調査	未
39	宅地造成	平成26年4月	立会 試掘確認調査	未
40	宅地造成	平成26年10月	立会調査	未
41	I上町線道路改良工事	平成27年4月30日～5月1日	試掘確認調査	本報告
42	宅地造成	平成27年5月	立会調査	未
43	店舗解体	平成27年7月	立会調査	未
44	倉庫建設	平成27年8月	立会調査	未
45	I上町線道路改良工事	平成27年10月	本調査	本報告
	II上町線拡幅に伴う電柱移設	平成28年4月	工事立会	未
46	集合住宅	平成28年5月	立会調査	未
47	集合住宅	平成28年6月	立会調査	未
48	個人住宅	平成28年7月	試掘確認調査	未
49	市道拡幅	平成28年10月	本調査	本報告
50	個人住宅	平成28年11～12月	本調査	未

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

上町遺跡は、岐阜県飛騨市古川町上町周辺に所在する。

飛騨市は岐阜県最北端に位置し、北は富山県と県境を接し、南と東は高山市、西は白川村と接する。2004(平成16)年2月に古川町・河合村・宮川村・神岡町の2町2村が合併して誕生した。人口は約25,000人(平成30年2月)、面積は792.31km<sup>2</sup>である。周囲は3,000mを越える北アルプスや飛騨山脈などの山々に囲まれ、市域の約92%は山地・森林である。山々の間には小河川や支谷が形成され、宮川や高原川などに注ぐ。これらの河川が深いV字谷を刻みながら浸食による幾階層もの河岸段丘を形成している。市内唯一のまとまった平地は飛騨市古川町から高山市国府町へ広がる盆地である。

盆地を取り囲む山地は、船津花崗岩類や手取層、濃飛流紋岩により形成される。船津花崗岩類は本遺跡の北側に広がる。手取層は礫岩・砂岩・頁岩等からなり、本遺跡の南側において宮川を東西に横切るように分布する。濃飛流紋岩は、大規模な火山活動によって形成された火碎流の堆積物であり、溶結凝灰岩である。岐阜県の3分の1に及ぶ広大な範囲に分布しており、本遺跡周辺に広がっている。

古川町では、盆地のやや西寄りを北西から南東へ宮川が貫流する。本遺跡はその宮川中流域の右岸の下位段丘に位置する。さらに遺跡北側にはその支流荒城川が流れ、本遺跡は両河川に挟まれた微高地に立地する。荒城川は本遺跡の西側で宮川と合流する。標高は約490mである(第7図)。宮川は高山盆地に、荒城川は高山市国府町の通称荒城谷から流れる。高山盆地と荒城谷の双方に通じる位置としても、本遺跡の位置は重要であったと考えられる。

本遺跡の地山として確認した第IV・V層は河川由来の砂礫である。第V層は礫層で、その凹凸を埋めるように第IV層砂層が堆積する。河川の氾濫の影響を受けなくなり、最終的に離水して安定した土地に変化したのである。本遺跡では弥生時代末から古墳時代の方形周溝墓が見つかっているため、土壤生成が進行する過程において弥生時代末頃に人々の生活が営まれるようになったと考えられる。

### 第2節 歴史的環境

飛騨市古川町から高山市国府町にかけて、宮川に沿って形成された盆地内の段丘上や微高地上に多くの遺跡を確認している。とくに古墳時代以降では、古墳及び古代寺院推定地が数多く分布しており、高山盆地とともに古代飛騨の中心を形成していたと考えられている。

**縄文時代** 盆地内の麓に広がる上位段丘上には縄文時代の遺跡が多く分布している。これまで古川町内で発掘調査された縄文時代の遺跡には、岡前遺跡(2)、御番屋敷遺跡(3)、黒内細野遺跡(4)、中野山越遺跡(5)、沢遺跡(6)などがある。最も古い遺跡は沢遺跡(6)である。古川町上気多字沢に所在する。1964(昭和39)年の予備調査に続き、1967・1986(昭和42・61)年の2次にわたり調査が行われ、竪穴建物跡や土坑などを発見している。縄文時代早期前葉の「沢式土器」の標識遺跡として知られており、調査範囲は1988(昭和63)年に飛騨市指定史跡となっている。最も多くの竪穴建物跡を確認したのは中野山越遺跡(5)である。古川町中野字山越に所在し、1976～1979(昭和51～54)

年に発掘調査が行われ、縄文中期から晩期にかけて32軒の竪穴建物跡を確認した。1988(昭和63)年には調査範囲が飛騨市指定史跡となっている。また、出土遺物のうち土器・土製品・石器・石製品362点が、1996(平成8)年に国重要文化財の指定を受けた。岡前遺跡(2)は盆地の北西に位置する遺跡で、岐阜県文化財保護センターにより発掘調査が実施され、縄文中期後半を中心とする竪穴建物跡が8軒調査されている。黒内細野遺跡(4)は古川町黒内字細野に所在する遺跡で、1998(平成10)年に町道建設に伴い調査された。縄文中期から後期の竪穴建物跡5軒と多数の土坑を発見している。御番屋敷遺跡(5)は1954(昭和29)年に開田工事の際に縄文時代中期の竪穴建物跡を発見し、1959(昭和34)年に「御番屋敷遺跡先史時代住居跡」として岐阜県指定史跡となった。高山市国府町域では、本遺跡北側の山麓から荒城谷にかけて森ノ木遺跡(10)・立石遺跡(9)・荒城神社遺跡(11)が分布し、高山盆地にかけては村山遺跡(13)が分布する。村山遺跡(13)は飛騨地域で最初に発掘調査報告書が出された学史上重要な遺跡である。上町遺跡では遺構の確認はないものの、縄文土器・石器の散布が認められる。

**弥生時代** 古川町内では弥生時代の遺跡は少ない。発掘調査により遺構を検出した遺跡として中野大洞平遺跡(8)がある。古川町中野字大洞平に所在し、農道整備に伴い岐阜県文化財保護センターにより発掘調査が行われた。弥生時代後期の竪穴建物跡4軒、弥生時代後期の方形周溝墓1基が調査されている。遺物では弥生中期後半の横羽状文甕等が出土している。また、杉崎庵寺跡(67)の中柱部において横羽状文甕や北陸系の弥生土器が出土した。国府町では、立石遺跡(9)・半田垣内遺跡(14)で遺物が出土する。さらに、深沼遺跡(55)では飛騨地域で初めて水田遺構を確認した。上町遺跡向町地点では弥生時代末の竪穴建物跡を確認している。

**古墳時代** 宮川の河岸段丘を中心に、古川町から国府町にかけて古墳が点在している。前期の遺跡は少なく、上町遺跡と中野大洞平遺跡(8)で方形周溝墓を調査している。前方後円墳では6世紀前半と考えられる信包八幡神社跡古墳(19)が著名である。宮川左岸の段丘端部に位置し、全長77.8m、前方部の最大幅は56mを有する。埋葬施設は横穴式石室で、奥壁には巨石を上下二段に積み、側壁は割石や扁平な自然石による小口積みである。遺物では金銅製の馬具類等が出土している。巨大な切石を用いた横穴式石室として、高野光泉寺古墳(53)や高野水上古墳(52)、中野大洞平第1・2号墳(46)などがある。墳形は前者2つは円墳で後者2つは方墳である。また、国府町には前方後円墳として県内最大級の横穴室石室を持つこう岬口古墳(20)や、飛騨地域で最古段階に位置づけられている三日町大塚古墳(18)がある。さらに荒城谷と高山盆地の合流地点に亀塚古墳(17)があった。大正期に取り壊されたが大型円墳であったと考えられており、甲冑の出土が注目されている。高山盆地では前方後円墳が確認されていないため、古墳時代の主体は古川国府盆地であったと考えられる。上町遺跡の南側には、遺跡を見下ろすように方墳の海貝江古墳(79)がある。

集落跡については、上町遺跡において古墳後期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が調査され、また太江遺跡(7)では後期の竪穴建物跡や溝跡が、杉崎庵寺跡(67)では中期の竪穴建物跡を確認している。

**古代** 古代の集落跡は、上町遺跡や岡前遺跡(2)、中野大洞平遺跡(8)などで竪穴建物跡や掘立柱建物跡が調査されている。岡前遺跡(2)では飛騨で初となる「和同開珎」(銅鏡)が出土する。また、飛騨地域の古代を特長付けるのが古代寺院である。古川・国府盆地内における古代寺院については、古川町域では杉崎庵寺跡(67)、寿楽寺庵寺跡(68)・沢庵寺跡(69)・古町庵寺跡(70)・上町庵寺跡(71)、国府町域では塔ノ腰庵寺跡(72)・堂前庵寺跡(73)・安国寺庵寺跡(74)・石橋庵寺跡(75)・

光寿庵跡(76)・名張庵寺跡(77)などの11ヶ寺を数える。瓦散布地全てを古代寺院とするかの判断は難しいが、高山盆地の飛驥国分寺・飛驥国分尼寺跡・三仏寺廃寺跡・東光寺跡・大幢寺跡の5ヶ寺に比べ、飛驥の古代寺院造営の主体は古川・国府盆地であったことが分かる。古川・国府盆地の古代寺院のうち発掘調査が行われたのは杉崎廃寺跡(67)、寿楽寺廃寺跡(68)、古町廃寺跡(70)、石橋廃寺跡(75)である。

杉崎廃寺跡(67)は、伽藍中枢部が調査された唯一の事例である。礎敷きに金堂・塔・講堂・鐘楼が配置された法起寺式伽藍であった。「見寺」と墨書きされた須恵器が出土し、寺名が判明している。寿楽寺廃寺跡(68)は、7世紀後半の創建と推測され、飛驥地方で最古の寺院と考えられている。このため、『日本書紀』朱鳥元年(686)10月丙申(29日)条に、新羅僧行心が大津皇子の謀反に関わったとして「飛驥国伽藍」に配流されたとあるが、その伽藍が寿楽寺廃寺跡だと考えられている。遺構は講堂跡とそれに取り付く回廊跡が検出されている。遺物は「高家寺」と墨書きされた須恵器が注目される他、鶴尾・塑像などの寺院に関わるものが多く出土している。創建時の瓦は、3kmほど西へ離れた信包中原田古窯跡(57)で生産されたと判明している。

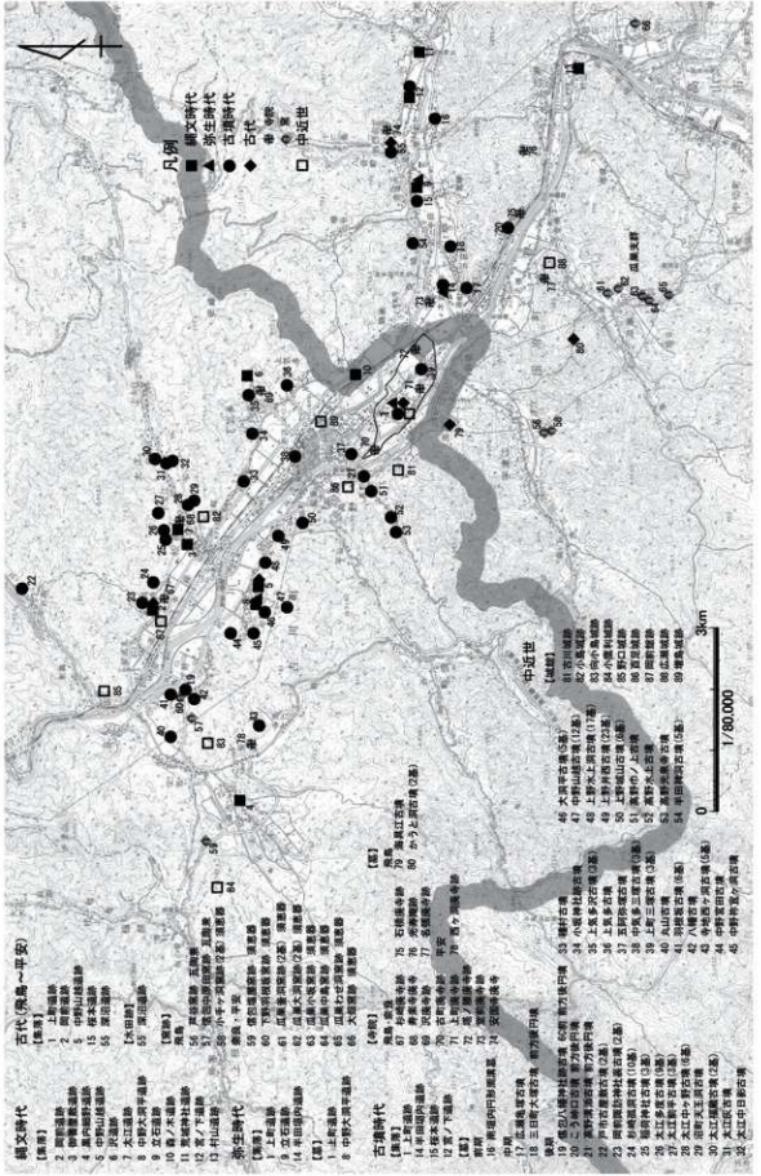
上町遺跡内には古町廃寺跡(70)・上町廃寺跡(71)・塔ノ腰廃寺跡(72)が含まれる。これらの寺院遺跡で出土する軒丸瓦の文様は共通する。上町廃寺跡・塔ノ腰廃寺跡の瓦は釜洞窯跡(61)で、古町廃寺跡の瓦は芦谷古窯跡(丸山窯跡)(56)で生産されたと判明している。

平安期の遺構としては、西ヶ洞廃寺跡(17)において鍛冶関連遺構が確認されている。他にも「十能寺」と線刻された灰釉陶器が採集されており、古代寺院跡と考えられている。上町遺跡(7)・中野山越遺跡(1)・岡前遺跡(2)・太江遺跡(15)では平安時代の堅穴建物跡が調査されている。しかしながら、奈良時代の遺構数と比べると当該期には少なくなるため、平安時代には高山盆地に飛驥の中心が移ったものと考えられる。

**中世・近世** 盆地を取り囲む山々の山頂や尾根上には山城が分布する。飛驥国司であった姉小路氏との関連で知られる山城には古川城跡(81)、小島城跡(82)、向小島城跡(83)、小鷹利城跡(84)、野口城跡(85)がある。向小島城跡(83)・小鷹利城跡(84)・野口城跡(85)には歓状堅堀群が認められ、国府町の広瀬城跡(88)とともに姉小路氏の名跡を継いだ三木氏との関連がうかがわれる。また、古川城跡(81)・小島城跡(82)には巨石を用いた石垣が認められ、三木氏を滅ぼした金森氏との関連がうかがわれる。さらに、古川町杉崎字館には姉小路氏の館跡と推定される岡前館跡(87)が所在する。なお、三木氏は飛驥市神岡町域を拠点とした江馬氏を1582(天正10)年に破っている。この時に持ち帰ったとする大般若経が古川町太江の寿楽寺に伝わっており、岐阜県重要文化財に指定されている。上町遺跡でも中世の遺構・遺物が散見できる。古川城跡(81)から川を隔てて見下ろす位置にあるため、密接な関係があったものと推測される。

増島城跡(89)は古川町片原町に所在する飛驥では珍しい平城である。金森長近が1585(天正13)年に飛驥に侵攻した後に築城し、養子の可重に治めさせた城とされる。本丸・二之丸曲輪を中心に1997(平成9)年・2004(平成16)年・2005(平成17)年・2008~09(平成20~21)年と4次の発掘調査を行い、石垣・堀割など曲輪の状況が明らかになった。1959(昭和34)年に天守櫓台は岐阜県指定史跡となっている。

古川・国府盆地の中世・近世遺跡は、姉小路氏・三木氏・金森氏へと領主が移り変わる飛驥の当該時期の歴史の重層性を提示できる点が特長といえよう。



第7図 上町遺跡と周辺の遺跡分布図

## 第3章 調査成果

### 第1節 層序

上町遺跡では、これまでの発掘調査で大きく5層の基本層序を確認している（古川町教育委員会1989・1991、飛驒市教育委員会2013・2016）。今回の調査でも、既往調査の基本層序に対応させて調査を実施し、層名も準拠した。調査面は1面であり、検出面を第IV層か第V層の上面とした。

**第I層** 表土層である。水田や畑作の耕土、道路の造成土等が該当する。水田では、上層の作土であるI a層と、下層の床土であるI b層、土地改良前の土層で鉄分を含むI c層とする。

**第II層** 平安時代以降中近世までの遺物包含層である。中世から近世にかけての遺物を包含するII a層と、平安時代の遺物を包含するII b層に細分される。II層上辺には鉄分の堆積やマンガン斑点など水田層に起因すると想定される堆積がある。

**第III層** 弥生時代以降奈良・平安時代にかけて堆積した土層である。古墳時代から奈良・平安時代の遺物を包含する上層のIII a層と、IV層にかけての漸移層でありC地点で縄文時代中期から弥生時代後期の遺物を包含したIII b層に細分できる。

**第IV層** 宮川に由来する黄橙色砂の無遺物層である。第V層の河岸礫層を覆う地山であり、全面に認められない。

**第V層** 宮川に由来する無遺物層の河岸礫層であり、地山である。遺跡内で起伏が認められ、その僅みに第IV層の砂層が堆積している。

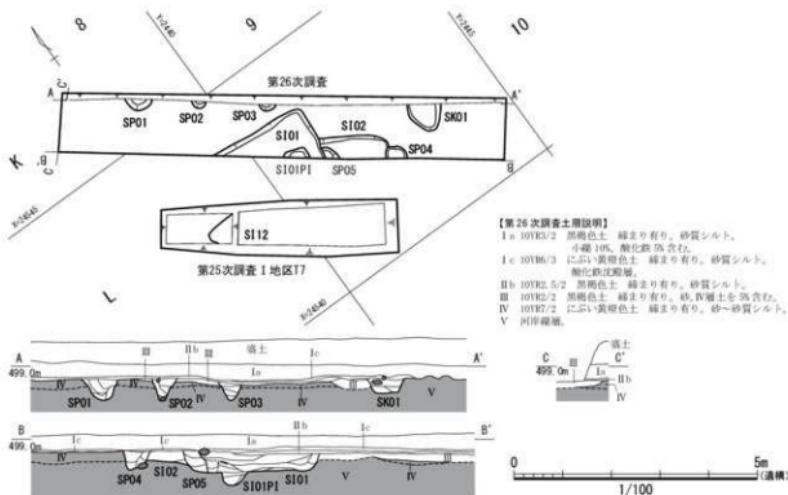
### 第2節 第26次調査

#### (1) 遺構と遺物の概要

遺構は、堅穴建物跡2軒、土坑1基、柱穴5基を確認した（第8図、第8表）。遺構検出面は第IV層としたが、断面で堅穴建物跡と柱穴2基は第III層より掘り込むことを確認した。遺物は第I層表土掘削時から多くの遺物が出土し、堅穴建物跡からも時期決定が可能な遺物が出土した。合計で須恵器90点、土師器33点、縄文土器2点、石器・石製品5点、陶器1点を確認した（第7・9表）。

第7表 第26次調査出土遺物集計表

種別 器種	遺構器										土師器						灰釉陶器		その他		計					
	坪H 面	坪G 身	坪A 面	坪B 身	坪 類	面	壁	高 坪	鉢	壺 ・瓶	甕	破片	手 鉢	坪 鉢	壺 高 鉢	鉢	甕	破 片	焼 田	板 組	点 数	種類				
S101					2	1											13			2	打制石斧1、 砾石1	18				
S102		!			5	1	!		2	1				1				2					14			
SP04	1																						1			
遺構外 Ⅱ層					18	1			1	11			1				11					5	縄文土器2、 石器削片3	48		
遺構外 Ⅰ層	1			4	2	17	2	1	5	12		2				3					1	陶器1	50			
器種計	1	1	0	1	4	0	2	42	5	0	2	0	6	25	1	0	3	1	0	0	0	29	0	0	8	131
割合	1%	1%	0%	1%	3%	0%	2%	32%	4%	0%	2%	0%	5%	19%	1%	0%	2%	1%	0%	0%	0%	22%	0%	0%	6%	100%
埋蔵計								90									33			0		8			131	
割合								69%									29%			0%		6%			100%	



第8図 第26次調査区全体図

## (2) 竪穴建物跡

SI01 (第9図、写真図版1・12)

位置層位 調査区の中央に位置し、第III層上面より掘り込む。

重複関係 SI02・SP05を切る。

遺存状況 北東隅1/5を確認したが、ほとんどが調査区外である。

平面形状 北東隅の状況から、方形と推測される。

規模 検出範囲で長径2.04m、短径1.19mを測る。

主軸方位 北壁より求めると、N-0°-Eである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がり、深さ0.29mを測る。

床面 掘り込み面をならした直床式構造と判断したが、8層の縦まりから上面を床面とした可能性も想定された。

柱穴 1基を確認した。4隅に配置したと想定した場合には北東隅にあたる。

壁溝 確認しなかったが、8層上面を床面とした場合には7層が壁溝埋土となる可能性もある。

埋土 黒褐色～暗褐色土がほぼ水平に堆積するため、自然堆積と考えられる。

厨房施設 確認しなかった。

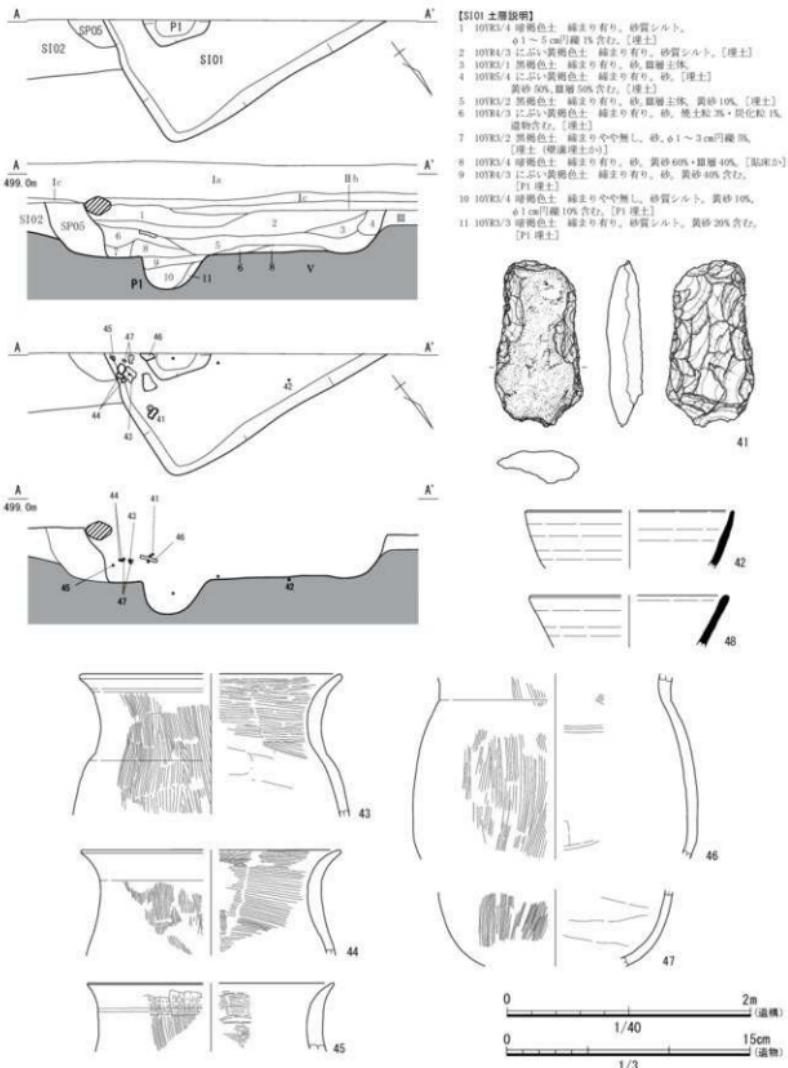
出土遺物 須恵器壺類2点・蓋1点、土師器甕13点、打製石斧1点・砥石1点を確認した。

42は床直上から出土した須恵器の壺か塊である。また床面に近い6層から土師器甕43～47が出土した。いずれも外面に縦ハケメを施し、内面の口縁部から頸部にかけては横ハケメ、体部には横板ナデを施す。

所見 SI01は掘り込み面をならして床面とし、壁溝がないと判断した。しかし、断面では8層に縦まりがあることを確認したため、その上面を床面にした可能性も想定された。その場

合7層が壁構造と考えることもできる。調査時には判断することができなかつた。

時期は、坏か塊の42が出土し、SI02を切ることから、8世紀後半とひろく考えておきたい。



第9図 SI01 平面・断面図、出土遺物

**S102** (第10図、写真図版1・12)

**位置層位** 調査区の中央東寄りに位置し、第IV層上面で確認した。

**重複関係** SI01・SP04・SP05に切られる。

**遺存状況** 北東隅1/5を確認したが、ほとんどが調査区外である。

**平面形状** 北東隅より方形と考えられる。

**規模** 検出範囲で、長径1.43m、短径0.49mを測る。

**主軸方位** 北壁より求めると、N-35°-Eである。

**壁** ほぼ垂直に立ち上がり、深さ0.16mを測る。

**床面** 2層に締まりがあったため、2層が掘方埋土で、その上面を床面と判断した。平面的な広がりを把握できなかった。

**柱穴** 確認しなかった。

**壁溝** 確認しなかった。

**埋土** 分層に至らなかった。

**厨房施設** 確認しなかった。

**出土遺物** 須恵器坏G1点・坏類5点・蓋1点・高坏1点・甕2点・不明1点、土師器皿1点・甕2点を確認した。49は掘方埋土から出土した坏Gであり、すぐ隣で須恵器高坏54も出土する。さらに下層から須恵器坏50・51及び坏B蓋52が出土する。

**所見** 坏G49や高坏54より、7世紀後半と考えられる。

## (3) その他の遺構 (第11図)

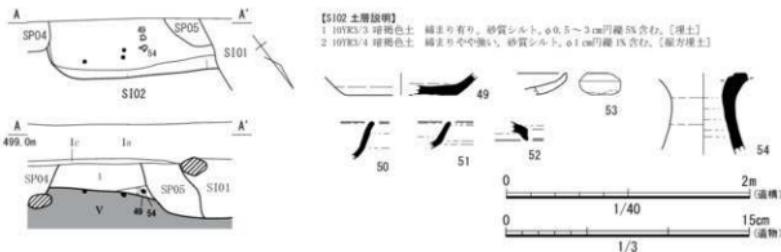
**土坑 SK01** 調査区の東端に位置し、第III層より掘り込む。壁はやや開き気味に立ち上がり、底面は平坦である。重複する遺構はない。1/2は調査区外に及ぶが、確認範囲では不整形を呈し、径0.69m・深さ0.21mを測る。出土遺物はなく、時期は不明である。

**柱穴** 5基確認し、SP01～03は調査区北壁に、SP04・05は調査区南壁にかかる。

SP01～03は調査区壁を軸として一直線に並び、深さもSP01が0.24m、SP02が0.23m、SP03が0.20mと揃う。このため、掘立柱建物跡か柵列の可能性を想定しておく必要がある。

SP04からは須恵器坏H身257が出土した。55は受け部の端部が内湾し、立ち上がりは長く内傾する。6世紀後半のものと考えられる。SP04はSI02を切りため、55は混入と考えられる。

SP05は、7世紀後半のSI02を切り、8世紀以降のものと考えられる。

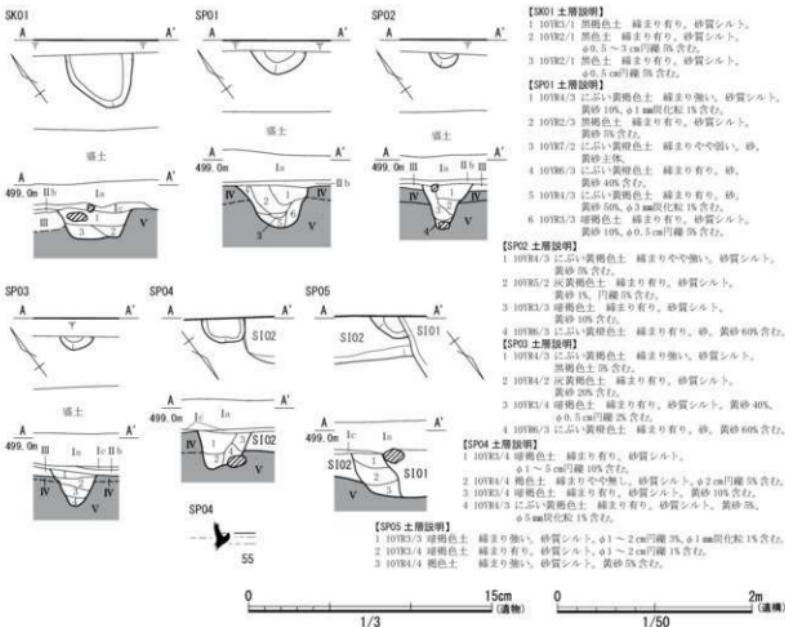


第10図 SI02 平面・断面図、出土遺物図

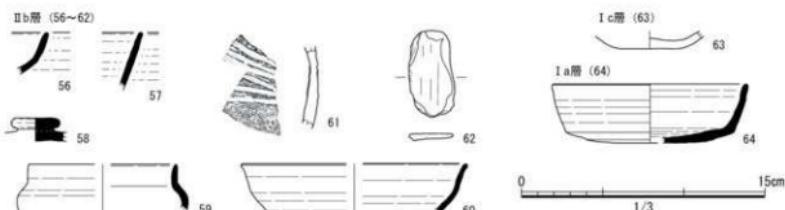
## (4) 遺構外出土遺物 (第12図、写真図版12)

II層からは、須恵器壺18点・蓋1点・壺瓶類1点・甕11点・土師器壺1点・甕11点・繩文土器2点、石器剥片3点、合計48点が出土した。58は須恵器壺B蓋で、扁平な摘みから8世紀頃のものと考えられる。62は表面に線状痕を確認できるため、粘板岩製の砥石破片と考えた。

I層からは、須恵器壺A4点・壺B身2点・壺類17点・蓋2点・高壺1点・壺瓶5点・甕12点、土師器壺2点・甕3点、陶器1点、合計50点が出土した。63は土師器甕底部である。64は赤褐色の須恵器壺Aであり、底部切り離し後に回転ヘラケズリを施す。



第11図 SK01・SP01～05平面・断面図、出土遺物図



第12図 遺構外出土遺物図

第8表 第26次調査構造一覧表

構造名	グリッド	棟出面	堆積	形状			法量 (m)	出土遺物	備考	
				平面	断面	長径	短径	深さ		
SI - 01	SI, 9L	III	壁面	方形	方剖	(2.04)	(1.19)	0.29	瓦底器 (坪10・基1)、土師器 (塗130)、打削石斧1、石器1	SI02・SP05を切る。
施設 P1	-	III	壁面	小字形	半円形	0.54	-	0.26		
SI - 02	9L	III	水平	方形	方剖	(1.43)	(0.49)	0.16	瓦底器 (坪10・基1)、土師器 (塗1・樂2)	SI01・SP04・05に切られる。
SK - 01	9L	III	水平	不定形	逆台形	0.69	-	0.21		
SP - 01	9R	IV	壁面	円形	半円形	0.56	-	0.24		
SP - 02	8R, 8L	IV	壁面	円形	逆三角形	0.29	-	0.23		
SP - 03	9L	IV	水平	円形	逆三角形	0.35	-	0.12		
SP - 04	9L	IV	壁面	円形	逆台形	0.44	-	0.09	瓦底器 (坪30)	SI02を切る。
SP - 05	9L	IV	レンズ	円形	逆台形	(0.32)	-	0.32		SI02に切られ、SI02を切る。

第9表 第26次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺物	法量 (cm)			破片数	地土	色調		成形・調整等		備考	回収場所				
			口径	高さ	幅			外面	内面	外面	内面						
41 2層	SI01	石器 打削石斧	10.2	5.4	2.2	1	重さ 127.86g。安山岩製。表面に錐皮残る。						12				
42 底	SI01	瓦底器 IFor 磨	(12.6)	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰黄 褐色	10W7/1	回転ナデ。	回転ナデ。	外面上自然 風化。				
43 6層	SI01	土師器 燒	(15.8)	-	-	1	直径 3mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	10W7/3	口縁部コナヂ。頭部 ~側縁部方向ハケメ。 頭部ナヂ。		12				
44 6層	SI01	土師器 燒	(15.8)	-	-	2	直径 3mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	10W7/4	口縁部コナヂ。頭部 ~側縁部方向ハケメ。 ケメ。		12				
45 6層	SI01	土師器 燒	(15.0)	-	-	1	直径 3mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	10W7/4	口縁部コナヂ。頭部 ~側縁部方向ハケメ。 ケメ。		12				
46 6層	SI01	土師器 燒	-	-	-	1	直径 3mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	10W7/4	頭部~側縁部方向ハケ メ。頭部横方向ハケメ。頭 部ナヂ。		12				
47 6層	SI01	土師器 燒	-	-	-	2	直径 3mm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰 褐色	10W7/1	頭部~側縁部方向ハケ メ。頭部横方向ハケメ。		12				
48 上	SI01	瓦底器 环	(12.0)	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	2.5W6/2	回転ナデ。	回転ナデ。	12				
49 2層	SI02	瓦底器 环	(7.0)	-	-	1	直径 1cm以下の長石を わずかに含む。	良 好	灰 褐色	2.5W6/1	回転ナデ。底部回転~ 半切り。	回転ナデ。	12				
50 下	SI02	瓦底器 环	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	10W6/1	10W6/2	回転ナデ。	-				
51 下	SI02	瓦底器 环	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰 褐色	10W6/1	10W6/2	回転ナデ。	-				
52 下	SI02	瓦底器 环	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	10W7/1	10W7/2	回転ナデ。	-				
53 下	SI02	土師器 燒	-	-	-	2	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	7.5W7/6	7.5W7/7	磨減。	-				
54 2層	SI02	土師器 燒	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	SYW1	SYW1	回転ナデ。	12				
55 2層	SP04	瓦底器 环 B	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰 褐色	SYW1	SYW1	回転ナデ。	-				
56 II b	-	土師器 IFor 磨	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰 褐色	2.5W7/1	2.5W7/2	回転ナデ。	-				
57 II b	-	土師器 环	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	2.5W7/1	2.5W7/2	回転ナデ。	-				
58 II b	-	土師器 环 B	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰 褐色	2.5W7/1	2.5W7/2	回転ナデ。	-				
59 II b	-	土師器 环 B	-	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰 褐色	2.5W7/1	2.5W7/2	回転ナデ。	-				
60 II b	-	土師器 环	(9.0)	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰 褐色	2.5W4/1	2.5W4/2	回転ナデ。	-				
61 II b	-	土師器 环	(13.8)	-	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	10W5/1	10W7/1	回転ナデ。	-				
62 II b	-	土師器 环	-	-	-	2	直径 1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良 好	灰 褐色	10W5/3	10W7/3	機械的平行沈殿と無鉛 鉛の剥離。	12				
63 I c	-	土師器 燒	-	3.6	-	1	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	10W8/3	10W8/4	回転ナデ。	12				
64 I a	-	瓦底器 环 A	(11.8)	-	3.6	1	直径 1cm以下の長石・ 石英を多く含む。	良 好	灰 褐色	2.5W5/4	2.5W5/6	回転ナデ。明赤鉛 と後回転へラケタジ。	12				

## 第3節 第27次調査

## (1) 遺構と遺物の概要

堅穴建物跡4軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡2条、柱穴60基を確認した(第13図、第11表)。掘立柱建物跡は、調査区の制約から全容を把握していないものの、4基の柱穴が並ぶことから建物跡と判断した。溝跡のうちSD01は上幅3.45mを測り、上町遺跡のこれまでの調査の中でも最大幅をもつものである。遺物は、第1層表土掘削時から多くの遺物が出土する状況であり、堅穴建物跡の遺構からも時期決定が可能な遺物が出土した。合計で須恵器229点、土師器353点、灰釉陶器3点、瓦1点、繩文土器10点、石器1点、中近世の施釉陶器11点、合計608点を確認した(第10・12~14表)。

## (2) 堅穴建物跡

## S101(第14図、写真図版5)

位置層位 8PにおいてIV層上面で確認した。

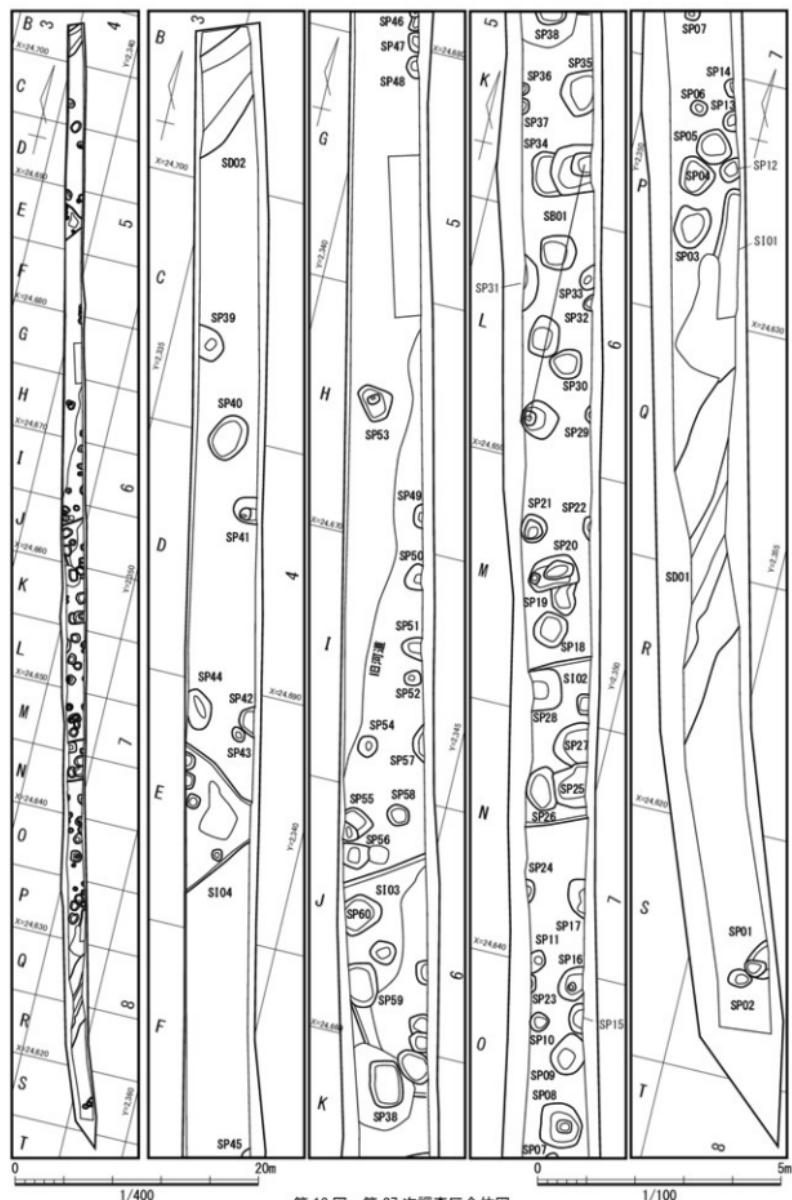
重複関係 確認はなかった。

遺存状況 西壁付近を検出し、4/5は調査区外に及ぶ上、南西隅部は擾乱を受けている。

平面形状 隅丸方形である。

第10表 第27次調査出土遺物集計表

種別 器種	遺物源										土師器						灰釉陶器		その他		計						
	坪H 面 身 縫	坪G 面 身 縫	坪A 面 身 縫	坪B 面 身 縫	灰 錫 面 縫	面 縫	錫 面 縫	灰 錫 面 縫	面 縫	錫 面 縫	面 縫	灰 錫 面 縫	面 縫	錫 面 縫	面 縫	灰 錫 面 縫	面 縫	錫 面 縫	面 縫								
S101																					0						
S102	1				2	1	1				2	1	1			17	6	1	1	純文土器 1	34						
S103	1	1			1		1		3		2					9	5				23						
S104			1	3				1									2				7						
SB01	1										2			2	6	14					25						
SD01	1	1			2	1		1	1	39	6	10		1	2	94	14		2	柒付鏡 1, 陶器 1	175						
SD02											1	1				23	6				31						
SP08																1					1						
SP18																6	2				8						
SP19																1	2				3						
SP20											3		1	3	1						8						
SP25											2			4	2						6						
SP26					1									1	1						3						
SP28											1			3	1						5						
SP01					2	1								1							4						
SP34														1							1						
SP35		1												2	3						6						
SP38														3							3						
SP45												1			2						3						
SP47														1				3	純文土器 2, 打削石斧 1	4							
SP48																		3	純文土器 3	3							
SP59			2								1			7	9						19						
遺構外	7	5	1	3	4	9	18	8		5	3	76	8	5	3		47	15	1	15	純文土器 4, 丸瓦 1, 円壺瓶 1, 瀬戸美濃 1, 陶器 8	234					
器種計	10	8	3	5	4	3	9	26	11	1	1	6	5	118	18	1	27	0	4	1	5	232	83	2	1	24	608
割合	2%	1%	0%	1%	1%	0%	1%	4%	2%	0%	0%	1%	1%	19%	3%	0%	4%	0%	1%	0%	1%	38%	14%	0%	0%	4%	100%
種類計																						353		3		24	608
割合																						58%		0%		4%	100%

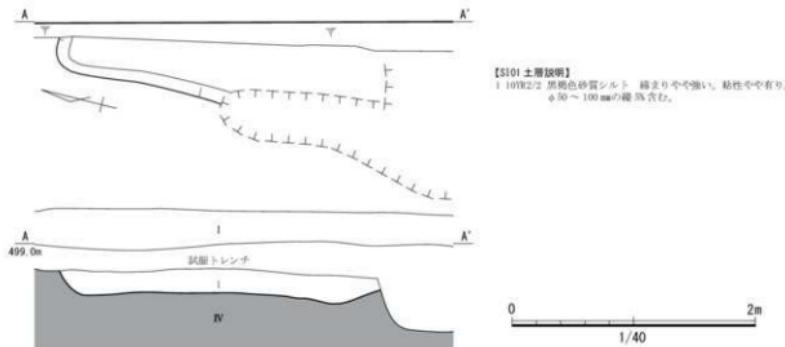


第13図 第27次調査区全体図

- 規 模** 一边の長さも把握できなかった。
- 主軸方位** 西壁より求めると、N - 0° - Wである。
- 壁** 開き気味に立ち上がり、北壁で壁高 0.2 m を測る。
- 床 面** 貼床は確認できず、掘り込み面をならした直床式の構造である。
- 柱 穴** 確認しなかった。
- 壁 溝** 掘られていない。
- 埋 土** 単層であり、締まりがあり粘性もある黒褐色シルト層である。
- 厨房施設** 調査範囲では確認しなかった。
- 出土遺物** 確認はなかった。
- 所 見** 北・南壁の立ち上がりから竪穴建物跡と判断した。残存状況が悪く、遺物の出土もなかつたため詳細な時期は不明である。

**S102 (第15図、写真図版4・13)**

- 位置層位** 6M・6Nに位置し、南壁はIII層より、北壁ではIV層より掘り込む。
- 重複関係** SP25・26・27・28に切られる。
- 遺存状況** 竪穴建物跡を横断するように調査区が設定され、全体の 1/2 は調査区外及ぶ。
- 平面形状** 角部を確認できなかったため不明である。
- 規 模** 南壁から北壁まで 3.25 m を測る。
- 主軸方位** 北壁から求めると、N - 22° - Wである。
- 壁** 北・南壁ともほぼ垂直に立ち上がり、最も残りが良い南壁付近で壁高 0.15 m を測る。
- 床 面** 貼床は確認できず、掘り込み面をならした直床式の構造である。
- 柱 穴** 1 基を確認した。対する柱穴は位置的に SP25 により切られたと想定される。
- 壁 溝** 掘られていない。
- 埋 土** 単層であり、締まりと粘性がある黒褐色シルト層である。
- 厨房施設** 調査範囲では確認しなかった。



第14図 S101 平面・断面図

**出土遺物** 須恵器坏II蓋1点・坏類2点・蓋1点・盤1点・破片2点、土師器坏類1点・高坏1点・甕17点・破片6点、灰釉陶器1点、繩文土器1点、合計34点が出土した。65は須恵器坏II蓋である。天井部と口縁部の境に稜と凹線を施す。口縁端部は丸く上げる。7世紀前半のものと推定される。66は須恵器坏である。内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと推測される。67～70は土師器甕であり、67が胴部、68・69が頭部、70が口縁部破片である。68の頭部内面には横方向のハケメを、69の胴部外面には横方向のハケメを施し、ともに口縁部と胴部の境に稜を有する。70は口縁部が外湾し、外面頭部には縱方向のハケメを施す。68～70は7世紀代と推定される。71は土師器高坏である。

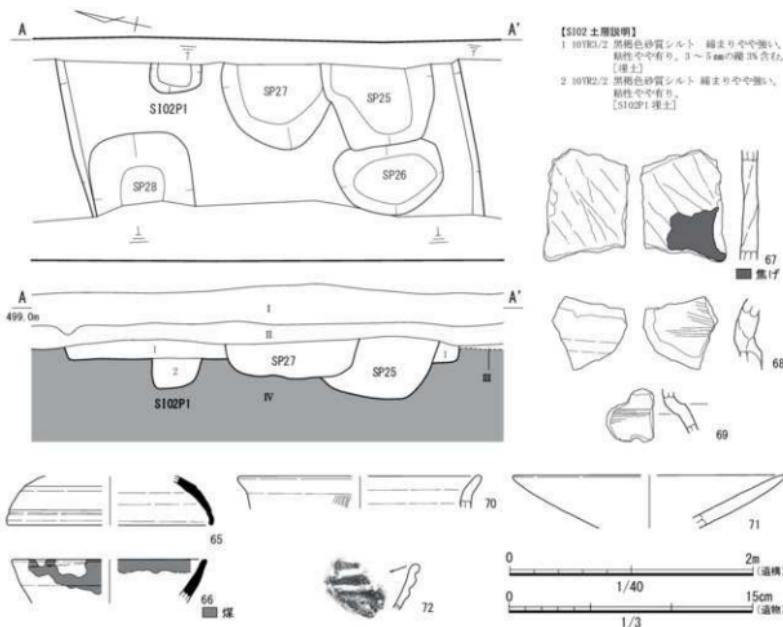
**所 見** 須恵器坏II蓋65及び土師器甕68～70の年代観により、7世紀前半の遺構と考えられる。須恵器坏66は他の遺物と時期が異なる。SP26出土の破片と接合したため、SP26からの混入の可能性が高いと考えられる。

#### S103 (第16図、写真図版4・13)

位置層位 J5・6からK5・6において、第IV層上面で確認した。

重複関係 SP38・59・60に切られる。

遺存状況 西側1/3ほどを確認し、大半は調査区外に及ぶ。



第15図 S102 平面・断面図、出土遺物図

**平面形状** 隅部を確認できなかつたため不明である。

**規模** 南壁から北壁まで 5.00m を測る。

**主軸方位** 西壁から求めると、N - 34° - W である。

**壁** 開き気味に立ち上がり、壁高 12 cm を測る。

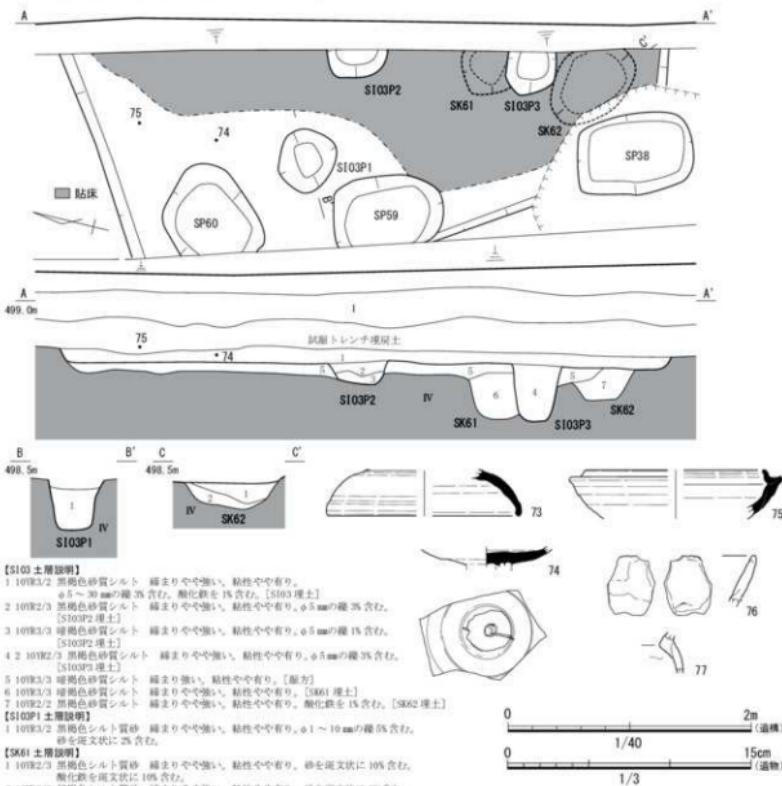
**床面** 暗褐色シルト層で貼床を施す。貼床と掘り方埋土の下層からは、土坑 SK01・02 の 2 基を確認した。

**柱穴** 3 基を確認した。P1 と P3 は 4 基に配置された柱穴のうち西側の 2 基と推測される。P1 は深さ 0.41 m、P3 は深さ 0.44 m を測る。また、P2 は中央に位置し、深さも 0.20 m 程度と浅い。いずれも隅丸方形を呈する。

**壁溝** 掘られていない。

**埋土** 分層には至らなかつた。

**厨房施設** 調査範囲では確認しなかつた。



第16図 S103 平面・断面図、出土遺物図

**出土遺物** 須恵器壺口蓋1点・壺口身1点・壺類1点・高壺1点・甕3点、土師器壺2点・甕9点・破片5点、合計23点を確認した。73は須恵器壺口蓋である。天井部と口縁部の境に凹線を有する。口縁端部は丸く仕上げる。7世紀前半のものと考えられる。74は高壺の壺部破片である。壺部と脚部の境に2カ所の透孔が認められる。75は須恵器壺口身である。端部はゆるく外反し、端部は方形を呈する。立ち上がりは短く内傾し、端部は丸く仕上げる。6世紀後葉から7世紀前葉のものと考えられる。76は土師器甕の口縁部であり、77は土師器甕のくの字状に呈する頭部破片である。

**所見** 須恵器壺口蓋73と壺口身75の年代観と、土師器甕の年代観に齟齬は生じない。遺構の年代は73・75から7世紀前葉と考えられる。

#### S104 (第17図、写真図版4・5・13)

**位置層位** 9Pにおいて、南側が第III層、北側が第IV層上面で確認した。

**重複関係** 確認はなかった。

**遺存状況** 中央部から東寄りの一部を確認し、3/4以上が調査区外に及ぶものと推測される。

**平面形状** 方形と推測される。

**規模** 全容は把握できなかった。

**主軸方位** 南側の壁より求めると、N=52° -Wである。

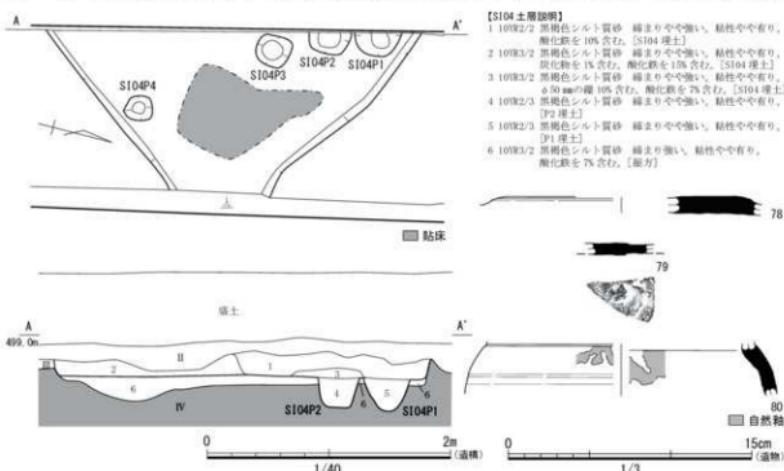
**壁** ほぼ垂直に立ち上がり、最も残りが良い北壁付近で壁高12cmを測る。

**床面** 締まりが強い黒褐色土で貼床を施す。

**柱穴** 4基を確認したが、並びを明らかにすることはできなかった。

**壁溝** 確認しなかった。

**埋土** 3層に分かれるが、いずれも酸化鉄混じり黒褐色シルトの土質である。1層と2層の層界



第17図 S104 平面・断面図、出土遺物図

は強く立ち上がることから、人為的埋土と考えられる。

**厨房施設** 確認しなかった。

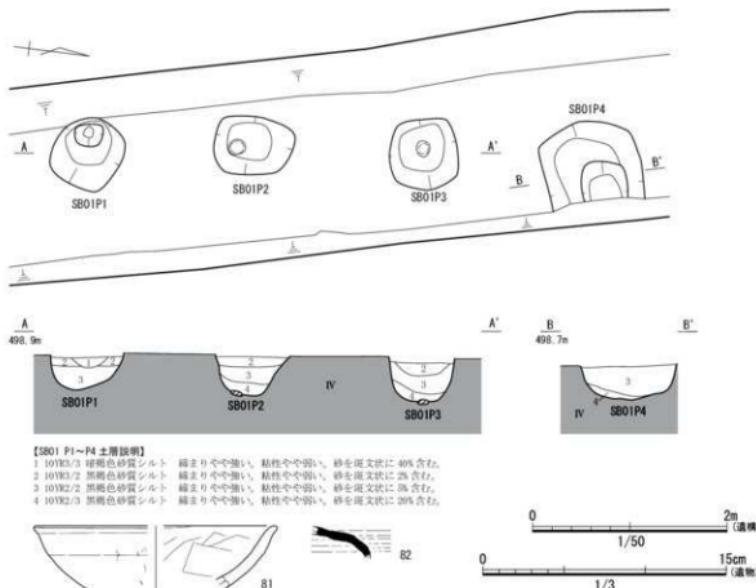
**出土遺物** 須恵器壺 G1 点・壺 B 盖 3 点・壺瓶 1 点、土師器破片 2 点、合計 7 点が出土した。78 は須恵器壺 B 盖であり、天頂部に回転ヘラケズリを施す。79 は壺 G であり、底部にヘラ切り痕が残る。80 は壺の胴部破片である。

**所 見** 須恵器壺 G79 と壺 B の年代観から、7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

### (3) その他の遺構

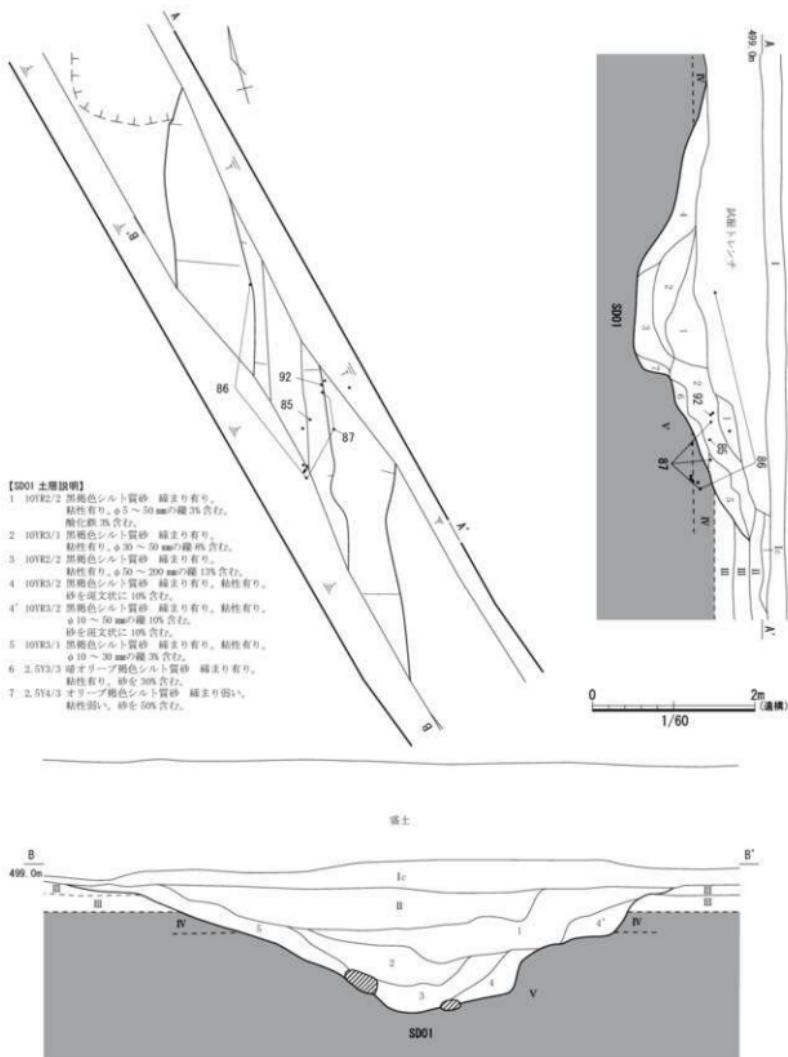
**掘立柱建物跡 SB01** (第18図、写真図版5・13) 6K・6Lにおいて、第IV層上面で確認した。4基の柱穴で構成されるが、東西南北の延長は調査区外に及ぶ可能性があり、全体形状を把握することはできない。柱間は1.8m等間であり、柱穴の深さはいずれも40cm程度である。主軸方位はN-0°-Eである。平面形状は方形に近い不整形を呈し、径はP4が1.0mを測るが、P1～3は0.7m程度である。遺物は、須恵器壺H蓋1点、土師器壺2点・壺2点・甕6点・破片14点、合計25点が出土した。P3から出土した土師器壺81、P4から出土した須恵器壺H蓋82を図示した。81の内面にはヘラナデが残る。82には稜を観察できる。遺構の年代は82を根拠とし、7世紀前半と考えられる。

**溝跡 SD01** (第19～21図、写真図版2・3・13・14) 7Q・7Rにおいて、第III層上面から掘り込むことを確認した。幅は3.45m、深さは1.42mを測る。南北は調査区外に及び、全体形状を把握する



第18図 SB01 平面・断面図、出土遺物図

ことはできない。主軸方位は N-14°-E であり、概ね南北方位の軸線が意識されている。断面からは2段の掘り込みを確認できる。このため4~7層が堆積した後、掘り直して1~3層が堆積した可能性も想定されたが、判断することはできなかった。

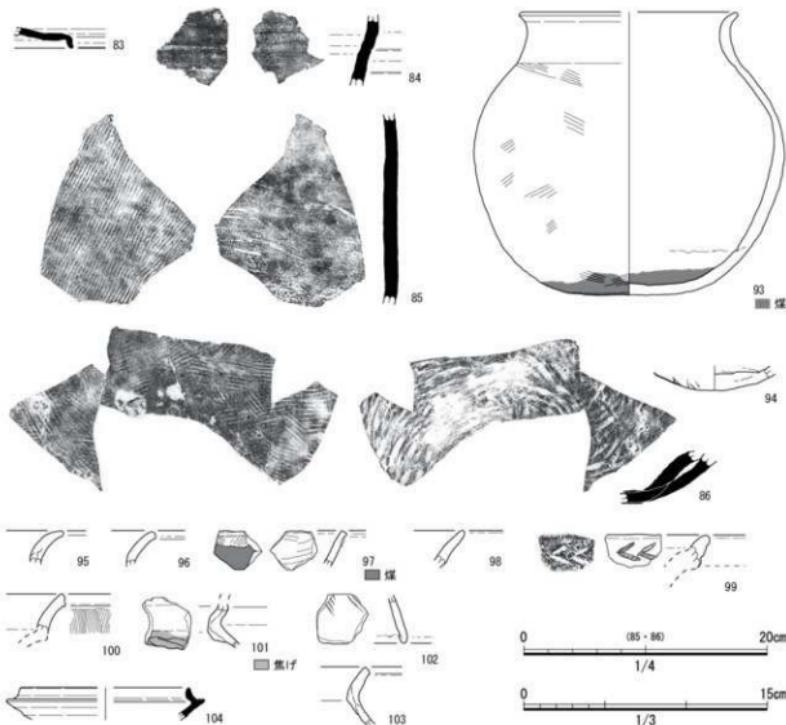


第19図 SD01 平面・断面図

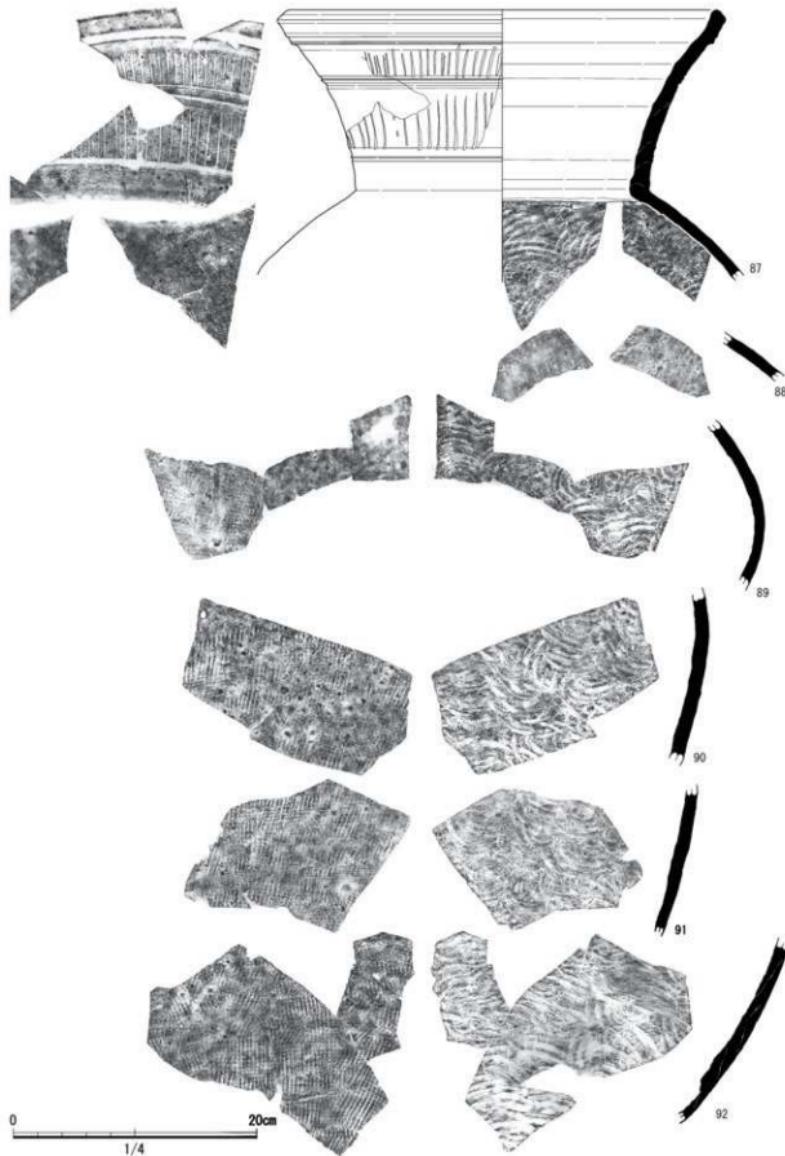
遺物は、須恵器坏H身1点・坏G身1点・坏類2点・蓋1点・鉢1点・壺瓶1点・甕39点・破片6点、土師器坏10点・鉢1点・壺2点・甕94点・破片14点、染付塊1点陶磁器1点、合計175点が出土した。87～92は同一個体と考えられる須恵器甕である。口縁部の横位沈線間に縦位の沈線を連続させる。頸部はぐの字状に屈曲し、開き気味に立ち上がった口縁端部は方形に仕上げられる。93は土師器甕である。頸部から口縁部にかけてゆるやかに外溝する。胴部の最大径は上部にある。外面に斜ハケメが若干残る。内外面底部に煤が付着しており、カマドで使用されたものと推測される。

遺構の時期は、III層から掘り込んでいること、灰釉陶器の出土がないことから、奈良時代のものと考えておきたい。

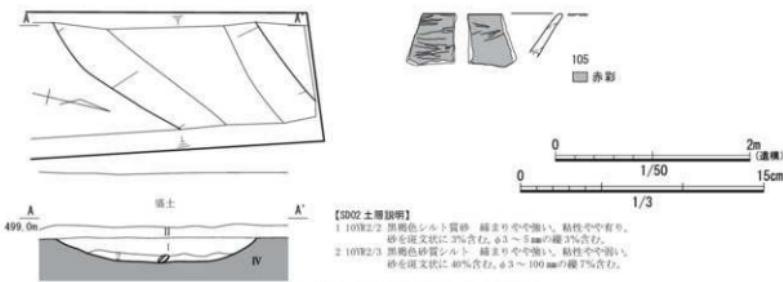
溝跡 SD02（第22図）3B・4Bにおいて、第IV層上面で確認した。最大幅1.6m、深さ0.25mを測る。東西は調査区外に及び、全体形状を把握することはできない。主軸方位はN・39°-Eである。断面形状は半円形である。遺物は須恵器破片1点、土師器坏1点・甕23点・破片6点が出土した。105は内外面にミガキと赤彩が施され、古墳時代初頭の小型壺の破片と考えられる。その場合、SD02は方形周溝墓の周溝の可能性を想定しておく必要がある。



第20図 SD01出土遺物図(1)



第21図 SD01出土遺物図(2)



第22図 SD02平面・断面図、出土遺物図

**柱穴 SP01 ~ 60** (第23~26図、写真図版5・13) 第27次調査では単独の柱穴を60基確認した。調査区の幅が狭小であったため、確実に並ぶと判断できずいたものの、SP08・09・16・17とSP39・40・41は軸線を揃えており、掘立柱建物になると想定することもできる。

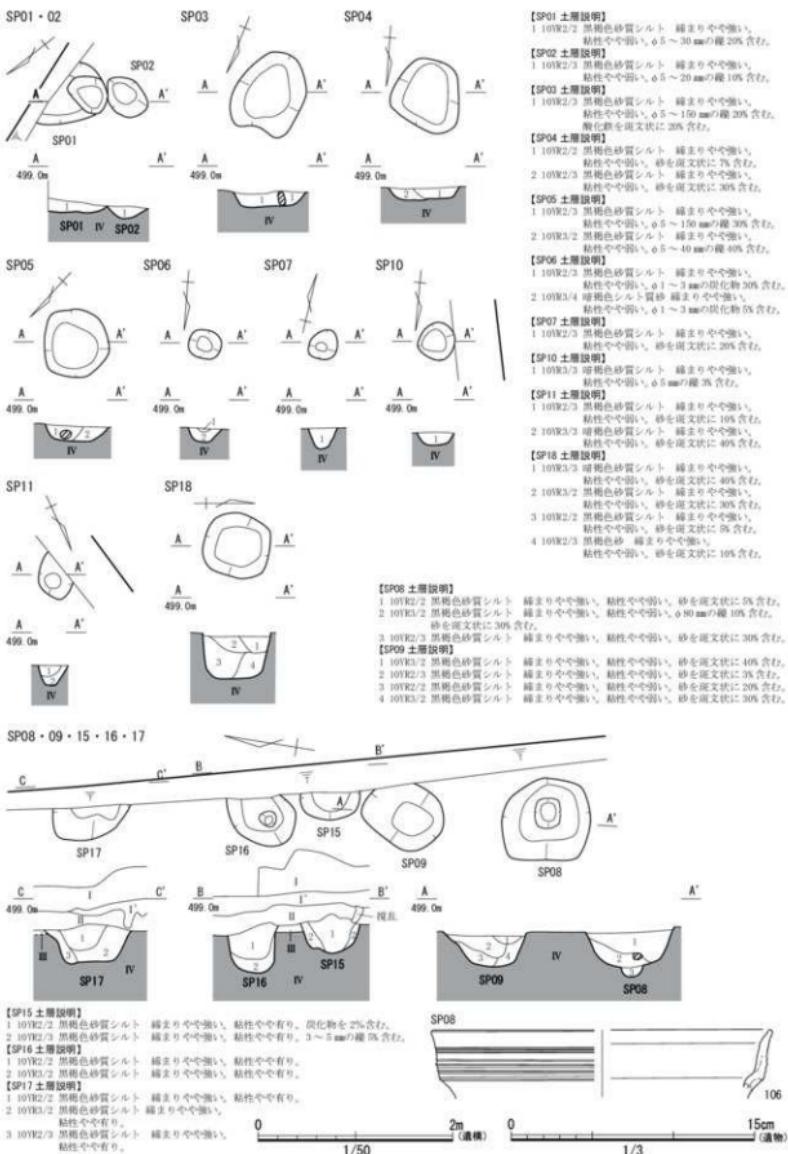
遺物は10点図示した。SP08から出土した106は有段口縁をもち、口縁部の立ち上り外面に擬回線文を施す。古墳時代前期の北陸系土器壺と考えられる。SP25からは土器壺の口縁部破片107、SP31からは須恵器壺か塊108・109、SP34からは内外面ハケメの土器壺110が出土した。SP35からは土器壺H身111が出土した。口縁端部は丸く仕上げられ、立ち上がりは外反する。SP45から出土した土器壺112は口縁部内外面をヨコナデで仕上げる。SP59から出土した須恵器壺G蓋114・115は返りが短く7世紀後半のものと考えられる。

#### (4) 遺構外出土遺物

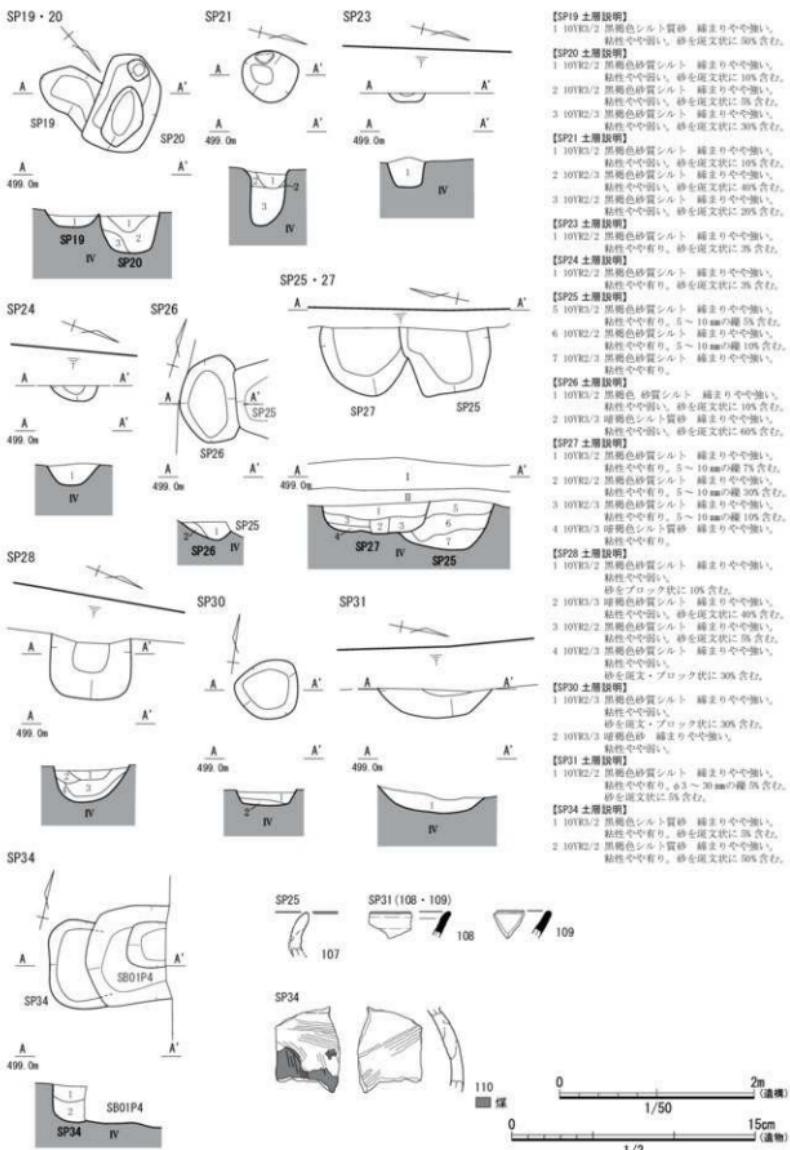
**包含層** (第27図、写真図版4・13) 116・117は須恵器壺H身である。いずれも7世紀前半のものであろうが、117は116に比べて径が小さく浅めであることから、116に先行するものと考えられる。118は漬戸美濃焼の鉢である。

**表土** (第27・28図、写真図版14) 133は端部外面に凹線を施し、内面に沈線1条を施す。斜めに立ち上がる脚部破片であり、円面観と考えられる。136~140は有段口縁をもち、口縁部の立ち上がり外面に擬回線文をもつ古墳時代前期の北陸系土器壺である。同一個体の可能性がある。141は内外面にヘラミガキと赤彩が施される高壺であり、古墳時代前期のものと考えられる。121・122・155・161・162などは須恵器壺H蓋である。162は天頂部と口縁部の境に明瞭な棱をもつ。120・146などは須恵器壺H身である。これらは7世紀前半のものと考えられる。119は須恵器壺G蓋で短い返りを持つ。7世紀後半に位置づけられる。123・124・125・156などは壺B身の底部破片であり、129~132は壺B蓋口縁部破片、144・148・149などは壺B蓋天頂部破片である。158・159は底部にヘラナデが施される壺Aである。169は回転糸切りの後に高台を貼付する塊Bである。これら壺A・壺B・塊Bは8世紀代のものと考えられる。150~152はSD01から出土した須恵器壺の同一個体である。154は丸瓦狭端部の破片であり、凸面はヘラケズリを施し、凹面には布目压痕が残る。157・170の須恵器壺は同一個体と考えられる。

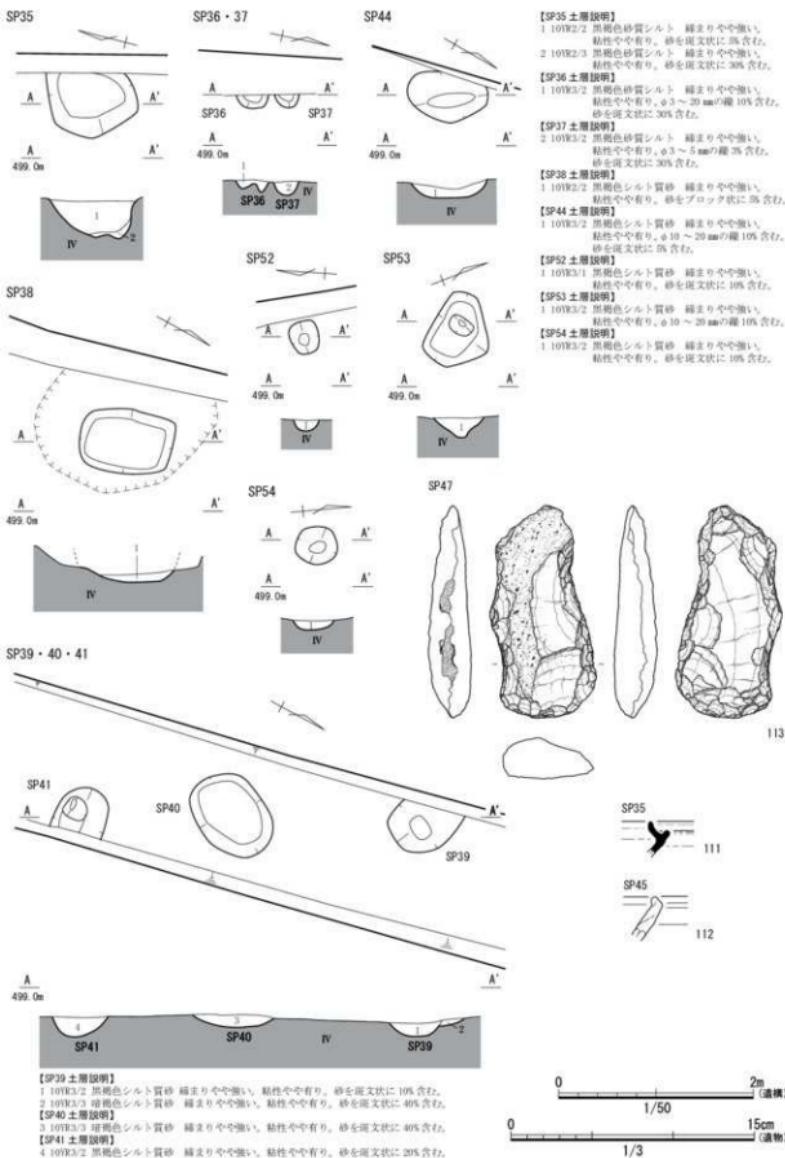
**表探** (第28図) 171・175は灰釉陶器の底部破片である。三日月形の高台が取り付き、黒窓90窓式に位置づけられ、9世紀後半のものと考えられる。



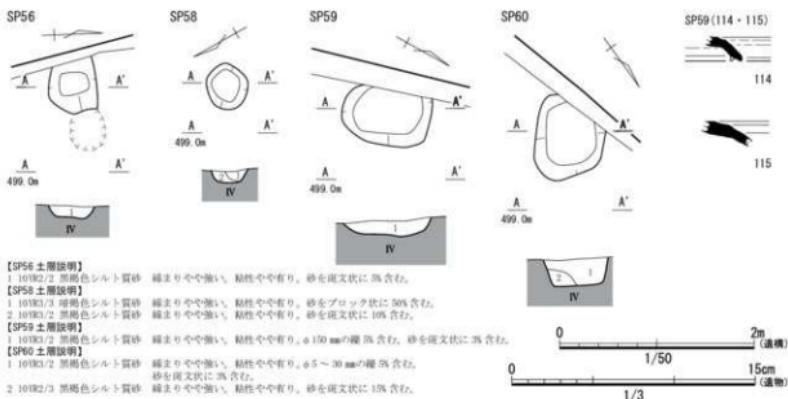
第23図 SP01～18 平面・断面図、出土遺物図



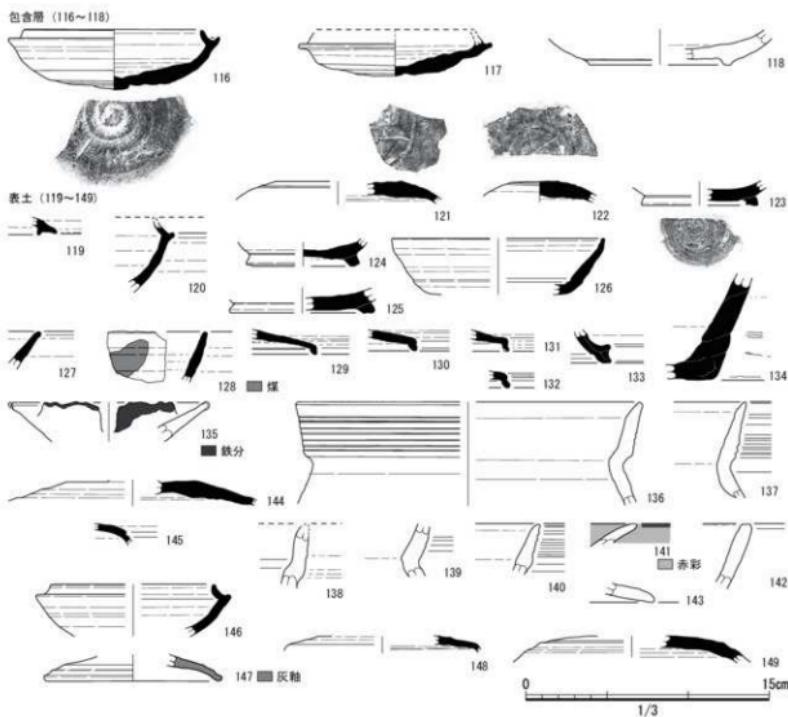
第24図 SP19~34 平面・断面図、出土遺物図



第25図 SP35~54 平面・断面図、出土遺物図

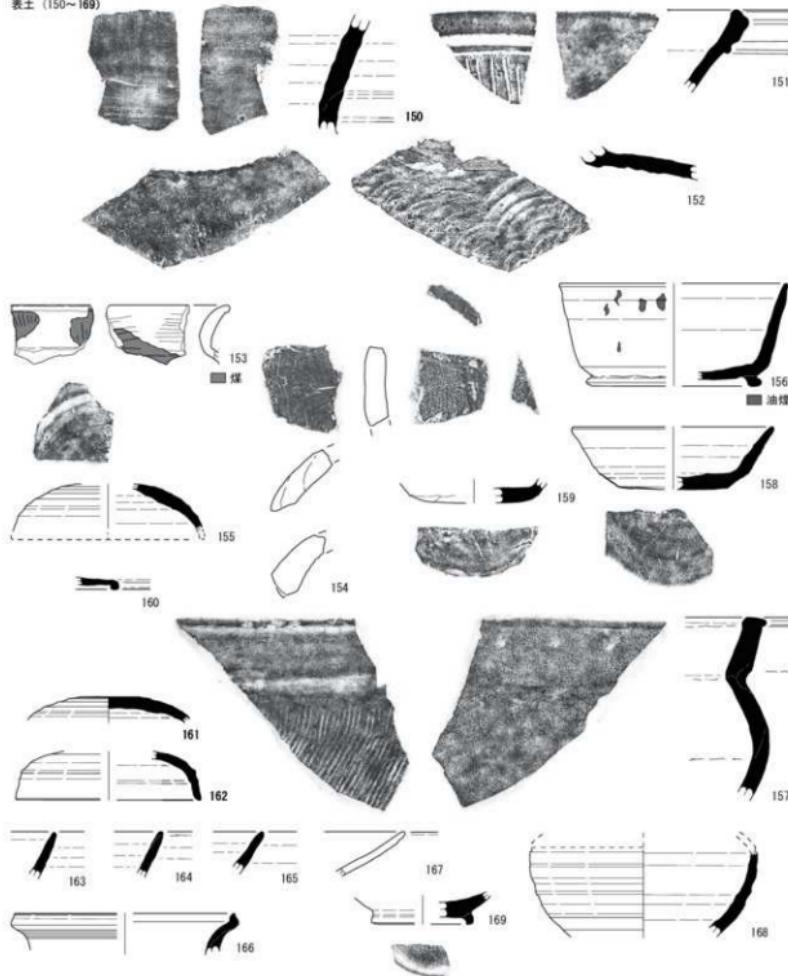


第26図 SP56~60 平面・断面図、出土遺物図

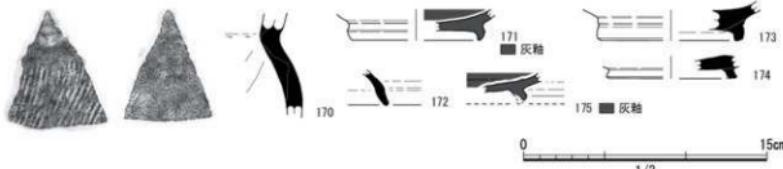


第27図 包含層・表土出土遺物図

## 表土 (150~169)



## 表採 (170~175)



第28図 表土・表採出土遺物図

0 1/3 15cm

第11表 第27次調査遺構一覧表

遺構名	グリッド	棟出面	堆積	形状			法量 (m)	出土遺物	備考
				平面	断面	長径	短径	深さ	
SI_01	IP	田	単	方形	透石膏	-	0.26		便孔上より出土されている。
SI_02	IP	田	単	方形	方筋	3.25	-	0.15	
施設 P1	6K, 6N	床	単	方形	方筋	0.39	-	0.25	瓦底器 (坪1面1・坪2面1・者1・築1・破片2), 土師器 (坪1面1・高坪1・者1・築1・破片2), 土師器 (坪1面1・高坪1・者1・築1・破片3), 土師器 (坪1面1・高坪1・築1・破片4), 土師器 (坪1面1), 瓦文土器 1
SI_03	P1	床	単	方形	方筋	5.09	-	0.12	
	P2	床	単	円形	方筋	0.51	0.50	0.42	
	P3	床	単	水平	円筋	0.49	-	0.18	
	SM1	床	単	円形	透石膏	-	0.29	0.46	瓦底器 (坪1面1・坪2面1・者1・築1・破片2), 土師器 (坪1面1・高坪1・者1・築1・破片3), 土師器 (坪1面1・高坪1・築1・破片4), 土師器 (坪1面1), 瓦文土器 1
	SM2	床	単	円形	透石膏	0.74	0.56	0.28	
SI_04	P1	IV	壁	方形	方筋	-	0.12		
	P2	床	単	円形	半円筋	0.38	-	0.26	
	P3	床	単	円形	透石膏	0.34	-	0.24	
	P4	床	単	方筋	-	0.29	0.25	-	
	P5	床	単	円形	-	0.23	0.20	-	
SI_05	P1	田	単	-	-	-	-	-	
	P2	田	単	その他	半円筋	0.73	0.68	0.38	
	P3	田	単	水平	透石膏	0.80	0.58	0.42	瓦底器 (坪1面1), 土師器 (坪1面1・築1・破片2)
	P4	田	単	レンズ	方筋	0.73	0.70	0.45	
	P5	田	単	壁	透石膏	0.98	-	0.35	
SB_01	TQ, T8	III	レンズ	-	二段	3.45	0.45	1.42	瓦底器 (坪1面1・坪2面1・者1・築1・高 筋1・築2・築3・破片6), 土師器 (坪1面1・築1・ 築2・築3・破片14), 壁付窓 1, 開閉窓 1
SB_02	8K, 8H	IV	レンズ	-	半円筋	1.60	0.90	0.20	南北廣・袖出長 2.45m,
SP_01	8S, 8H	(田)	単	円筋	透石膏	0.50	-	0.10	南北廣・袖出長 1.3m,
SP_02	8S	単	円筋	透石膏	0.50	0.37	0.14		
SP_03	7P	単	不規則	透石膏	0.80	0.70	0.14		
SP_04	7P	単	壁	透石膏	0.70	0.70	0.14		
SP_05	7P	単	壁	透石膏	0.68	0.65	0.17		
SP_06	7P	単	レンズ	透石膏	0.33	0.28	0.15		
SP_07	7P	単	円筋	透石膏	0.32	0.28	0.22		
SP_08	7P	単	壁	透石膏	0.88	0.82	0.51	土師器 (築1)	
SP_09	7P	単	方筋	透石膏	0.83	0.45	0.36		
SP_10	7P	単	円筋	透石膏	0.58	0.36	0.13		
SP_11	6K, 6H	田	壁	(円筋)	方筋	0.48	-	0.10	
	7P	田	円筋	透石膏	0.42	-	0.10		
	7P	田	壁	(円筋)	透石膏	0.42	-	0.22	
	7P	田	田	(円筋)	透石膏	0.49	-	0.09	
	7P	田	田	(円筋)	透石膏	0.62	-	0.23	
	7P	田	レンズ	(円筋)	透石膏	0.69	-	0.56	
	7P	田	田	(円筋)	透石膏	0.36	-	0.40	
	7P	田	その他	透石膏	0.67	0.65	0.49	土師器 (築6・破片2)	
	7P	田	その他	透石膏	0.62	0.50	0.19	土師器 (築1・築2・破片2)	
	7P	田	田	(円筋)	透石膏	1.03	0.63	0.53	SP20より古い。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.58	0.54	0.60	土師器 (築3・築1・築2・破片1)
	7P	田	田	(円筋)	透石膏	0.48	-	0.24	
	7P	田	田	(円筋)	透石膏	0.38	-	0.26	
	7P	田	田	(円筋)	透石膏	0.50	-	0.22	
	7P	田	田	水平	透石膏	1.15	-	0.50	土師器 (築2・築1・破片2)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.88	-	0.23	瓦底器 (坪1面1), 土師器 (築1・破片1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.83	-	0.36	S102及びSP25より新しい。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.58	-	0.13	S102及びSP25より新しい。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.67	-	0.49	土師器 (築1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.62	-	0.19	瓦底器 (坪1面1), 土師器 (築1・築2・破片1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.58	-	0.10	SP20より古い。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.42	-	0.10	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.42	-	0.22	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.49	-	0.09	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.62	-	0.23	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.69	-	0.56	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.36	-	0.40	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.67	-	0.49	土師器 (築1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.62	-	0.19	土師器 (築1・築2・破片2)
	7P	田	田	方筋	透石膏	1.03	0.63	0.53	SP20より古い。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.58	0.54	0.60	土師器 (築3・築1・築2・破片1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.48	-	0.24	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.38	-	0.26	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.50	-	0.22	
	7P	田	田	水平	透石膏	1.15	-	0.50	土師器 (築2・築1・破片2)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.88	-	0.23	瓦底器 (坪1面1), 土師器 (築1・破片1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.90	-	0.39	S102及びSP27より新しい。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.90	-	0.41	S102P4より古い。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.83	-	0.38	土師器 (築1・築3・築1・破片1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.35	-	0.09	S102及びSP25より新しい。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.65	0.58	0.17	S102及びSP25より新しい。
	7P	田	田	方筋	透石膏	1.18	-	0.26	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.33	-	0.15	瓦底器 (坪1面1・高坪1), 土師器 (築1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.45	-	0.21	
	7P	田	田	水平	透石膏	0.90	-	0.39	土師器 (築1)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.85	-	0.41	瓦底器 (坪1面1), 土師器 (築2・破片3)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.25	-	0.12	S102より新しい。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.33	-	0.15	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.96	0.63	0.25	S102P4より新しい。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.60	-	0.18	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.93	0.67	0.14	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.55	-	0.22	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.62	-	0.16	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.33	0.24	0.07	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.82	0.53	0.29	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.30	-	0.11	土師器 (坪1面1・築2)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.45	-	0.07	SP46より新しい。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.40	-	0.15	SP45より古い。
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.45	-	0.12	土師器 (築1), 瓦文土器 2, 打製石斧
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.48	-	0.17	瓦文土器 3
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.55	-	0.13	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.48	-	0.14	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.34	0.30	0.11	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.80	0.63	0.21	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.45	0.38	0.10	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.63	-	0.17	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.48	-	0.13	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.78	-	0.14	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.45	0.45	0.14	
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.92	-	0.16	瓦底器 (坪1面1・破片1), 土師器 (築1・破片9)
	7P	田	田	方筋	透石膏	0.70	-	0.29	S103より新しい。

第12表 第27次調査遺物観察表(1)

監査番号	層位	出土地点	種類	測量 (cm)	破片数	地土	埋成	色調		成形・調整等		備考	図面番号		
								外面		内面					
								外面	内面	外面	内面				
65 1層 S102	須恵器 JF-II番	(12.6)	-	-	1	面。直径1mm以下の長石 をわざかに含む。	普 通	55W/1 黄灰	55W/1 黄灰	回転ナダ。	回転ナダ。		13		
66 1層 S102	須恵器 灰	(12.0)	-	-	2	直径1mm以下の長石をわ ざかに含む。	普 通	55W/1 灰白	55W/1 灰白	回転ナダ。	回転ナダ。	口縁外外面に保付帯。 SP26と邊縁開削。	13		
67 1層 S102	土師器 焼	-	-	-	1	直徑2mm以下の長石・石英 を多く、雲母をわずかに含む。	普 通	55W/3 灰白	55W/2 灰白	ヘラナダ。	ナダ。	内面に切削材。	13		
68 1層 S102	土師器 焼	-	-	-	1	直徑3mm以下の長石・石英 を色鉻化土をわざかに含む。	普 通	55W/4 黄灰	55W/4 黄灰	ヘラナダ。	ヘラナダ。	口縁部ハケメ。頸 部ナダ。	13		
69 1層 S102	土師器 焼	-	-	-	1	直徑1mm以下の石英・石英 をわざかに含む。	普 通	10YR8/2 灰黄斑	10YR8/2 灰黄斑	頭部ハケメ。	ヘラナダ。		13		
70 1層 S102	土師器 焼	(15.0)	-	-	1	直徑2mm以下の石英・赤 色鉻化土をわざかに含む。	普 通	55W/3 灰黄	10YR8/3 灰黄	頭部ハケメ。	ナダ。		13		
71 1層 S102	土師器 高坪	(16.8)	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英 を色鉻化土をわざかに含む。	不 良	10YR8/3 良	10YR8/3 良	直徑1mm以下の長石・石英 をわざかに含む。	直徑1mm以下の長石・石英 を色鉻化土をわざかに含む。	外縁の所の直孔の粗面。	13		
72 1層 S102	文神文土器 深鉢	-	-	-	1	直徑1mm以下の石英・赤 色鉻化土を多く含む。	普 通	10YR6/2 黄灰	10YR6/2 黄灰	横方向に2条の浅 縦	ナダ。	調文時代後期。	13		
73 1層 S103	須恵器 片口蓋	(11.6)	-	-	1	直徑1mm以下の長石 をわざかに含む。	良	N4/ 好	N4/ 好	天頂回転ヘタケ ズリ。	回転ナダ。		13		
74 P1 S103	須恵器 高坪	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石 をわざかに含む。	良	N6/ 好	N6/ 好	回転ナダ。側面との対應 に2条の直孔の粗面。	回転ナダ。	外縁に自然輪。	13		
75 P2 S103	須恵器 片口	(10.8)	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英 をわざかに含む。	良	N6/ 好	N6/ 好	回転ナダ。	回転ナダ。		13		
76 1層 S103	土師器 焼	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英 を色鉻化土・陶隕 骨粉をわざかに含む。	不 良	55W5/2 灰鶏	55W6/3 灰鶏	口縁部回転ヘタケ ズリ。	回転ナダ。		13		
77 S103	土師器 焼	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石 英をわざかに含む。	普	55W6/6 灰	55W6/3 灰	ヘラナダ。	ヘラナダ。		13		
78 1層 S104	須恵器 片口	-	-	-	2	直徑1mm以下の長石・石 英をわざかに含む。	普	55W/6 灰	55W/1 灰	大頭部回転ヘタケ ズリ。	回転ナダ。		13		
79 1層 S104	須恵器 片G	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石 英を色鉻化土をわざかに含む。	普	N5/ 好	N5/ 好	底面回転ヘタク リ。	回転ナダ。		13		
80 1層 S104	須恵器 直G	-	-	-	1	直徑0.5mm以下の長石 をわざかに含む。	良	2.55W1/1 好	2.55W1/1 好	回転ナダ。	回転ナダ。	外縁に自然輪。	13		
81 P3 S801	土師器 焼	(15.0)	-	-	1	直徑2mm以下の長石・石 英・赤色鉻化土を多く含む。	普	55W7/2 灰黄	55W7/2 灰黄	回転ナダ。	ヘラナダ。		13		
82 P4 S801	須恵器 JF-II番	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石 英をわざかに含む。	良	N4/ 好	N4/ 好	回転ナダ。	回転ナダ。		13		
83 1層 S801	須恵器 JF-B番	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石 をわざかに含む。	良	7.55W3/1 好	7.55W3/1 好	回転ナダ。	回転ナダ。	外縁に自然輪。	13		
84 1層 S801	須恵器 片	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石 英をわざかに含む。	普	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	回転ナダ。	回転ナダ。	外縁に自然輪。	13		
85 1層 S801	須恵器 燒	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石 英を多く含む。	良	10YR7/1 好	10YR7/1 好	平行タキシ	平行タキシ。	下限心内に生きていた上 部ヘラクテ面にハタメ。	13		
86 1・2層 S801	須恵器 焼	-	-	-	4	直徑1mm以下の長石・石 英をわざかに含む。	良	10YR4/1 灰	10YR4/1 灰	平行タキシ。	平行タキシ。	限大大きい。西面に 自然輪。47と同一個体。	14		
87 1層 S801	須恵器 焼	(35.0)	-	-	15	直徑0.5mm以下の長石・石 英を多く含む。	好	灰白	灰白	口縁部回転波紋による 口縫部回転ナダ。	口縫部回転ナダ。	口縫内と脚部外 面に自然輪。	14		
88 1層 S801	須恵器 焼	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石 を石英を多く含む。	良	10YR2/1 好	10YR2/1 好	平行タキシ後にカ ベ。	平行タキシ後にカ ベ。	R7と同一個体。外 面に自然輪。	14		
89 1層 S801	須恵器 焼	-	-	-	4	直徑1mm以下の長石・石 英を多く含む。	良	7.55W3/2 好	7.55W3/2 好	平行タキシ後にカ ベ。	平行タキシ後にカ ベ。	外面上の自然輪。R7 と同一個体。	14		
90 1層 S801	須恵器 焼	-	-	-	2	直徑1mm以下の長石・石 英を多く含む。	良	10YR2/1 好	10YR2/1 好	平行タキシ後にカ ベ。	平行タキシ後にカ ベ。	R7と同一個体。外 面に自然輪。	14		
91 1層 S801	須恵器 焼	-	-	-	2	直徑1mm以下の長石・石 英を多く含む。	良	10YR2/1 好	10YR2/1 好	平行タキシ後にカ ベ。	平行タキシ後にカ ベ。	R7と同一個体。外 面に自然輪。	14		
92 1層 S801	須恵器 焼	-	-	-	5	直徑1mm以下の長石・石 英を多く含む。	良	N5/ 好	N5/ 好	平行タキシ後にカ ベ。	平行タキシ後にカ ベ。	R7と同一個体。外 面に自然輪。	14		
93 2層 S801	土師器 焼	(13.2)	7.4	(17.30)	31	直徑2mm以下の長石・石英 チャートを多く含む。	普	55W7/2 灰白	55W7/2 灰白	ハケメ。	ナダ。	底面内外面に埠 着。	13		
94 1層 S801	土師器 林	-	-	-	1	直徑1mm以下の葉状・赤 色鉻化土をわざかに含む。	不 良	7.55W7/4 灰白	7.55W7/4 灰白	ヘラクテリ。	ヘラナダ。	外縁面に削り付材。	13		
95 1層 S801	土師器 焼	-	-	-	1	直徑2mm以下の石英を多 く含む。	普	55W2/2 灰白	55W4/4 灰白	回転ナダ。頭部ヘ ラクテリ。	回転ナダ。		13		
96 1層 S801	土師器 焼	-	-	-	1	直徑2mm以下の石英を多 く含む。	普	2.55W3/2 灰白	2.55W3/2 灰白	平行タキシ後にカ ベ。	平行タキシ後にカ ベ。	-	-		
97 1層 S801	土師器 焼	-	-	-	1	直徑1mm以下の石英をわ ざかに含む。	普	7.55W6/6 灰白	7.55W6/6 灰白	ハケメ後にナダ。	ハケメ。	外縁に保付帯。古 墳時代前期。	-		
98 1層 S801	土師器 焼	-	-	-	1	直徑1mm以下の葉状・赤 色鉻化土を多く含む。	普	7.55W6/6 灰白	7.55W8/4 灰白	ハケメ。	ナダ。	古墳時代前期。	-		
99 1層 S801	土師器 焼	-	-	-	1	直徑2mm以下の石英を多 く含む。	普	7.55W8/2 灰白	7.55W8/2 灰白	頭部使用工具による 削り支度。	削り支度。	古墳時代前期。	13		
100 1層 S801	土師器 焼	-	-	-	1	直徑1mm以下の石英をわ ざかに含む。	普	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	回転ナダ。頭部バ ケメ。	回転ナダ。	古墳時代前期。	13		
101 1層 S801	土師器 焼	-	-	-	1	直徑2mm以下の石英をわ ざかに含む。	普	7.55W4/1 灰白	7.55W7/4 灰白	ナダ。	ナダ。頭部ヘラク テリ。	古墳時代前期。内 面に削り付材。	-		

第13表 第27次調査遺物観察表(2)

遺物番号	層位	生土・遺構	種類	剖面	法量(cm)	破片数	施土	色調				成形・調整等		備考	因縁番号				
								外面	内面	外面		内面							
										口径	底径	器高							
102	1層	SD01	土器器 灰	-	-	1	直径1mm以下の石英・赤色顔化物を多く含む。	普通	10107/4	7.5	87.6	10107/4	7.5	87.6	ハケメ後にナヂ。ナヂ。	台付灰甕。古墳時代前期。	-		
103	同	SD01	土器器 灰	-	-	1	直径2mm以下の石英を多く含む。	普通	2.517/3	10107/4	7.5	87.6	2.517/3	10107/4	7.5	87.6	-	-	
104	同	SD01	須恵器 灰 H	(10.2)	-	1	直径1mm以下の石英をわざかに含む。	普通	直径1mm以下の石英をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10107/4	7.5	87.6	回転ナヂ。	-	-	
105	1層	SD02	土器器 小型灰	-	-	1	直径1mm以下の石英をわざかに含む。	普通	2.515/6	2.5	87.6	2.515/6	2.5	87.6	ハラミガキ。	内外面削影。	-		
106	1層	SP08	土器器 灰	(20.6)	-	1	粗。直径2mm以下の石英を多く含む。	普通	7.515/3	7.5	87.6	7.515/3	7.5	87.6	側面研磨文。	ヨコナヂ。古墳時代前期。	13		
107	2層	SP25	土器器 灰	-	-	1	直径2mm以下の石英を多く含む。	普通	10108/3	10108/3	8.6	96.7	10108/3	8.6	96.7	ヨコナヂ。	-	-	
108	1層	SP31	須恵器 灰	-	-	1	直径1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直径2mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	口縁外に垂れ地き板。	-	
109	1層	SP31	須恵器 灰	-	-	1	直径1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直径2mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	-	
110	1層	SP34	土器器 灰	-	-	1	直径2mm以下の石英を多く含む。	普通	7.515/6	7.5	87.4	7.515/6	7.5	87.4	ハケメ。	ハケメ。	外面に揮材。		
111	1層	SP35	須恵器 灰 H	-	-	1	直径1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直径1mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	13	
112	1層	SP45	土器器 灰	-	-	1	直径1mm以下の赤色顔化物を多く含む。	普通	直径1mm以下の赤色顔化物を多く含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	ヨコナヂ。	ヨコナヂ。	-	
113	1層	SP47	打割石手	石26	長さ 幅 厚さ	13.1 6.6 2.6	重さ 235.54g。安山岩製。表面に縦皮理。左側面に彫。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13		
114	1層	SP59	須恵器 灰 G 盆	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	7.5	87.4	10108/4	7.5	87.4	ハケメ。	ハケメ。	-
115	1層	SP59	須恵器 灰 G 盆	-	-	1	直径1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	普通	直径1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	7.5	87.4	回転ナヂ。	回転ナヂ。	-	
116	瓦	須恵器 灰 H	II-10	-	3.7	1	直径1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直径1mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。底部外間に鉛孔。	底部外間に鉛孔。	13	
117	瓦	須恵器 灰 H	(9.6)	-	(2.6)	2	直径1mm以下の石英をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。底部外間に鉛孔。	回転ナヂ。底部外間に鉛孔。	底部外間に自然釉。	13		
118	瓦	瀬戸美濃 灰 G 盆	-	(8.7)	-	1	赤色化粧土をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	-	
119	瓦	須恵器 灰 G 盆	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	良好	10107/1	10107/1	10107/1	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	B-E4グリッピ。			
120	瓦	須恵器 灰 H	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	外面上に隕灰。B-E4グリッピ。		
121	瓦	須恵器 灰 H 盆	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	普通	10106/1	10106/1	10106/1	8.6	96.7	回転ナヂ。底部外間に鉛孔。	回転ナヂ。底部外間に鉛孔。	B-E4グリッピ。			
122	瓦	須恵器 灰 H 盆	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	外面上に隕灰。B-E4グリッピ。		
123	瓦	須恵器 灰 H	(7.2)	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英を多く含む。	普通	直徑1mm以下の長石・石英を多く含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。底部外間に鉛孔。	回転ナヂ。底部外間に鉛孔。	B-E4グリッピ。	
124	瓦	須恵器 灰 H	(6.0)	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	普通	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。高台點。行後に周縁ナズ。	回転ナヂ。高台點。行後に周縁ナズ。	内外面に鉛分付着。B-E4グリッピ。			
125	瓦	須恵器 灰 H 盆	(7.6)	-	-	1	直徑2mm以下の長石を多く含む。	普通	直徑2mm以下の長石を多く含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。高台點。行後に周縁ナズ。	回転ナヂ。高台點。行後に周縁ナズ。	内外面に鉛分付着。B-E4グリッピ。	
126	瓦	須恵器 灰 H	(12.8)	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良好	515/1	515/1	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。見込溝。外面上に隕灰。	回転ナヂ。見込溝。外面上に隕灰。	鉛分付着。B-E4グリッピ。	
127	瓦	須恵器 灰 H	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	普通	10108/1	10108/1	10108/1	8.6	96.7	回転ナヂ。直縁筒形。	回転ナヂ。直縁筒形。	断面に鉛分付着。B-E4グリッピ。			
128	瓦	須恵器 灰 H	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	外面上に揮材。B-E4グリッピ。	
129	瓦	須恵器 灰 H 盆	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	B-E4グリッピ。	
130	瓦	須恵器 灰 H 盆	-	-	-	1	直徑0.5mm以下の長石・石英を多く含む。	普通	直徑0.5mm以下の長石・石英を多く含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	B-E4グリッピ。	
131	瓦	須恵器 灰 B 盆	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	普通	10106/2	10106/2	10106/2	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	外面上に隕灰。B-E4グリッピ。			
132	瓦	須恵器 灰 B 盆	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	外面上に隕灰。B-E4グリッピ。	
133	瓦	須恵器 灰 B 盆	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。沈縁1個。	B-E4グリッピ。	
134	瓦	須恵器 灰	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石をわざかに含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	斜方ナヂ。	斜方ナヂ。	B-E4グリッピ。	
135	瓦	須恵器 灰	(12.0)	-	-	1	直徑1mm以下の長石・赤色顔化物をわざかに含む。	普通	10108/4	10108/4	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	口縁外に赤色顔化物。B-E4グリッピ。			
136	瓦	土器器 灰	(21.2)	-	-	1	直徑1mm以下の長石・赤色顔化物を多く含む。	普通	直徑1mm以下の長石・赤色顔化物を多く含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	回転ナヂ。	回転ナヂ。	口縁外に赤色顔化物。B-E4グリッピ。	
137	瓦	土器器 灰	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・赤色顔化物を多く含む。	普通	直徑1mm以下の長石・赤色顔化物を多く含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	口縁外に赤色顔化物。	口縁外に赤色顔化物。	古墳時代前期。B-E4グリッピ。	
138	瓦	土器器 灰	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石・赤色顔化物をわざかに含む。	普通	直徑1mm以下の長石・赤色顔化物をわざかに含む。	良好	515/2	515/2	10108/4	8.6	96.7	ヨコナヂ。	ヨコナヂ。	古墳時代前期。B-E4グリッピ。	

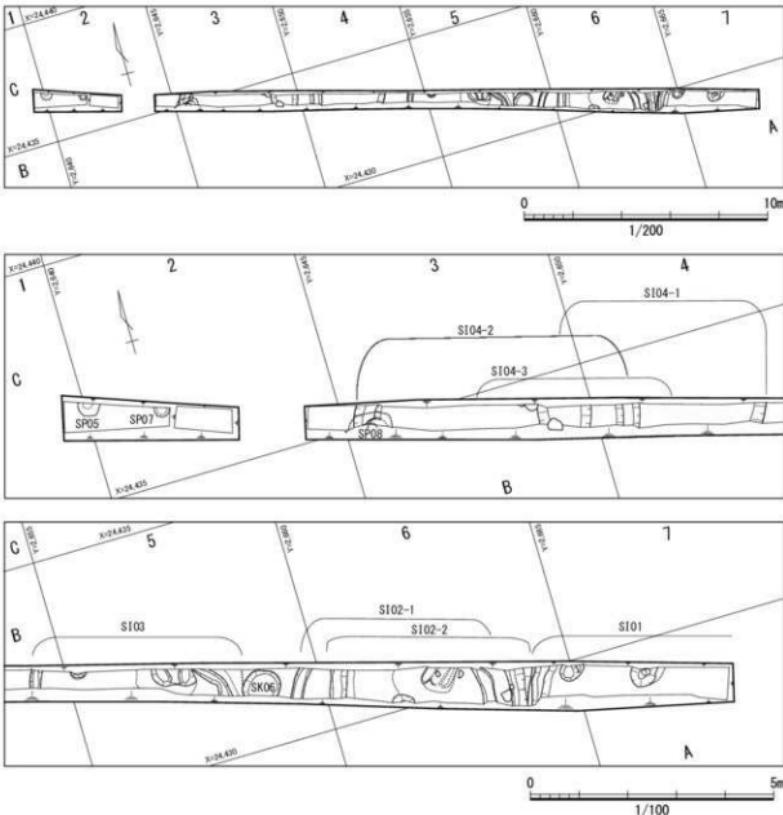
第14表 第27次調査遺物観察表(3)

遺物番号	層位	出土遺構	種類	測量 (cm)	破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		図面番号	
								外面		内面			
								外面	内面	外面	内面		
139	表土	土師器 甕	—	—	—	1	赤、直径 2 mm以下の長石・石英、半透明化土を多く含む。	青、5.386/4 通に赤い黄	7.188/4 通に淡黄色	口縁部凹凸線文、	古墳時代前期。D-E-4 グリッド。	—	
140	表土	土師器 甕	—	—	—	1	直径 1 mm以下の石英・赤色化土を多く含む。	青、7.085/4 通に赤い黄	5.055/6 通に淡黄色	口縁部凹凸線文、	古墳時代前期。D-E-4 グリッド。	—	
141	表土	土師器 壺	—	—	—	1	赤、直径 1 mm以下の長石・石英、をわずかに含む。	青、0.065/6 通に赤い黄	7.187/4 通に淡黄色	ハケ面後にハラミガキ、	外面部衝撃。古墳時代前 期。D-E-4 グリッド。	—	
142	表土	土師器 壺	—	—	—	1	直径 1 mm以下の長石をわざかに含む。	青、7.587/4 通に赤い黄	10.188/4 通に淡黄色	横方向ハケ面後に ハラミガキ。	口部に側面着、D-E-4 グリッド。	—	
143	表土	土師器 壺	—	—	—	1	赤、直徑 3 mm以下の黒色鉱をわざかに含む。	青、10.179/7 通に赤い黄	10.179/3 通に淡黄色	ハラミガキ。	古墳時代前 期。D-E-4 グリッド。	—	
144	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英、黒色鉱をわざかに含む。	良、5.38/4 好、灰	7.576/1 好、灰	回転ナデ、天頂部 回転ナデ。	外面部自然釉、K-L-6 グリッド。	—	
145	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。	青、10.179/1 通に赤い黄	7.573/1 白通	回転ナデ、天頂部 回転ナデ。	K-L-6 グリッド。	—	
146	表土	須恵器 片口壺	(10.0)	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の石英・石英をわずかに含む。	良、56/ 好、灰	56/ 灰	回転ナデ。	回転ナデ。K-L-6 グリッド。	—	
147	表土	灰陶器 壺	(10.6)	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の石英・石英をわずかに含む。	好、灰	57.171/1 灰自	回転ナデ。天頂部 回転ナデ。	K-L-6 グリッド。	—	
148	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良、55/ 好、灰	55/ 灰	回転ナデ。天頂部 回転ナデ。	K-L-6 グリッド。	—	
149	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわずかに含む。	青、56/ 好、灰	56/ 灰	回転ナデ。天頂部 回転ナデ。	K-L-6 グリッド。	—	
150	表土	須恵器 甕	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。白色鉱を多く含む。	良、5.38/6 灰自	5.376/1 灰自	回転ナデ。	口部凹、K-L-6 グリッド。	—	
151	表土	須恵器 甕	—	—	—	1	赤、直徑 2 mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良、7.573/2 灰自	7.513/4 灰自	回転ナデ。凸唇下 回転ナデ。	外面部自然釉、SD1出 口と同、K-L-6 グリッド。	14	
152	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 2 mm以下の長石・石英をわずかに含む。	良、7.573/2 灰自	10.179/2 灰自	平行タタキ後に方 孔。	外面部自然釉、SD1出 口と同、K-L-6 グリッド。	14	
153	表土	土師器 甕	—	—	—	1	赤、直徑 2 mm以下の石英を多 く含む。	青、10.179/4 灰自	5.373/4 灰自	横方向ハケ面後に ナデ。	外面部に側面着、K-L-6 グリッド。	—	
154	表土	瓦	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。白色鉱を多く含む。	良、10.179/6 灰自	10.176/1 灰自	凹面ナデ。抜 縫面ナデ。	K-L-6 グリッド。	—	
155	表土	須恵器 片口壺	(11.6)	—	(3.5)	1	赤、直徑 0.5 mm以下の石英をわざかに含む。	良、54/ 好、灰	54/ 灰	回転ナデ。天頂部 回転ナデ。	外面部他底面線、Q- K-T グリッド。	—	
156	表土	須恵器 片口壺	(13.8)	(9.6)	6.3	2	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。	不BP5/1 灰自	7.584/1 灰自	回転ナデ。底脚部 付近に縫隙。	外面部に側面着、Q-R-7 グリッド。	—	
157	表土	須恵器 甕	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英を多く含む。	青、K3/ 灰自	2.574/1 灰自	平行タタキ後に十 字ナデ。	外面部に縫隙。Q-R-7 グリッド。	—	
158	表土	須恵器 片口壺	(12.2)	(6.6)	3.7	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	青、57/1 灰自	57/1 灰自	回転ナデ。底脚回 転ナデ切り後にナ デ。	Q-R-7 グリッド。	—	
159	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。	青、10.179/3 灰自	10.179/1 灰自	底脚部ヘラ切り 後にヘナナデ。	外面部に側面着。Q- R-7 グリッド。	—	
160	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。	良、10.176/1 灰自	10.176/1 灰自	回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
161	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 2 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	青、5.38/3 灰自	5.376/1 灰自	回転ナデ。天頂部 回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
162	表土	須恵器 片口壺	(11.2)	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。	不、7.515/1 灰自	7.515/1 灰自	回転ナデ。天頂部 回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
163	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。	良、7.516/1 灰自	7.516/1 灰自	回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
164	表土	須恵器 片	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良、10.177/1 灰自	10.177/1 灰自	回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
165	表土	須恵器 片	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下のチャーチーをわざかに含む。	青、5.376/1 灰自	5.376/1 灰自	回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
166	表土	須恵器 甕	(13.2)	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良、5.377/1 灰自	5.377/1 灰自	回転ナデ。底脚部 キメ。	外面部自然釉。Q-R-7 グリッド。	—	
167	表土	土師器 壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。	不、10.177/2 灰自	10.177/2 灰自	横方向ハケズリ。推 論。	Q-R-7 グリッド。	—	
168	表土	須恵器 片	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良、55/2/ 灰自	55/2/ 灰自	回転ナデ。底脚回 転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
169	表土	須恵器 片	(5.6)	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石をわざかに含む。	良、54/ 灰自	54/ 灰自	回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
170	表土	須恵器 甕	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英を多く含む。	青、54/ 灰自	54/ 灰自	底脚部に縫隙。	Q-R-7 グリッド。	—	
171	表土	灰陶器 甕	(7.8)	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	青、10.175/3 灰自	10.175/3 灰自	回転ナデ。底脚回 転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
172	表土	須恵器 片口壺	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良、53/1/ 灰自	53/1/ 灰自	回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
173	表土	須恵器 片口壺	(8.0)	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	青、53/1/ 灰自	53/1/ 灰自	回転ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
174	表土	須恵器 片口壺	(6.8)	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	良、55/ 灰自	55/ 灰自	回転ナデ。高台部 付後に縫隙ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	
175	表土	灰陶器 甕	—	—	—	1	赤、直徑 1 mm以下の長石・石英をわざかに含む。	青、5.377/1 灰自	5.377/1 灰自	回転ナデ。底脚部 付後に縫隙ナデ。	Q-R-7 グリッド。	—	

## 第4節 第45次調査

## (1) 造構と遺物の概要

堅穴建物跡7軒、土坑1基、柱穴3基を確認した(第29図、第16表)。堅穴建物跡SI02・04は、平面では切り合いを確認できなかった。しかし、断面でSI02は2軒の重複もしくは拡張の可能性があり、SI04は3軒の堅穴建物跡が重複することを確認した。このため、ここではSI02-1・2及びSI04-1～3として報告する。遺物は、第I層表土掘削時から多くの遺物が出土し、堅穴建物跡からも時期決定が可能な遺物が出土した。合計で須恵器97点、土師器34点、灰釉陶器2点、合計133点を確認した(第15・17・18表)。また、SI02-2・SI03ではカマドを確認したため、炭化物の年代測定及び炭化物の材質分析等を実施した。今回の報告では、その結果のみ記している。



第29図 第45次調査区全体図

第15表 第45次調査出土遺物集計表

種別 器種	須恵器										土師器						灰陶陶器		その他		計	
	坏H 蓋・身		坏G 蓋・身		坏A 蓋・身		坏B 蓋・身		坏類		壺		高环		鉢		壺		破片			
	面	角	面	角	面	角	面	角	面	角	面	角	面	角	面	角	面	角	面	角		
S101	2	1	3	4	2	7			1	10						6	2				38	
S102-1																	1					1
S102-2		1		1	1				1							3					7	
S103															1		2					3
S104-1	1			1	1	4			1	10						5	1				24	
S104-3	1		3	1	1				2													8
SK00									1													1
遺構外 1層	2	2	1	6	1	6	1	1	1	4	9	2	1	1		10	1	2				51
器種計	5	5	0	0	8	11	5	19	1	0	1	1	7	32	2	1	2	0	0	0	0	133
割合	4%	4%	0%	0%	6%	8%	4%	14%	1%	0%	1%	1%	5%	24%	2%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	100%
標所計								97									34		2		0	133
割合								73%									26%		2%		0%	100%

## (2) 穫穴建物跡

S101 (第30図、写真図版15)

位置層位 6A・7A・6Bに位置し、第V層上面で確認した。

重複関係 確認はなかった。

遺存状況 西壁を確認したが北・南・東壁は確認しておらず大半が調査区外である。

平面形状 隅部を確認できなかつたため不明である。

規模 全容を把握できなかつた。

主軸方位 西壁より求めると、N-20°-Eである。

壁 開き気味に立ち上がる。

床 面 黒褐色細砂で貼床を施す。

柱 穴 2基を確認した。P2では平断面で柱痕跡を確認した。

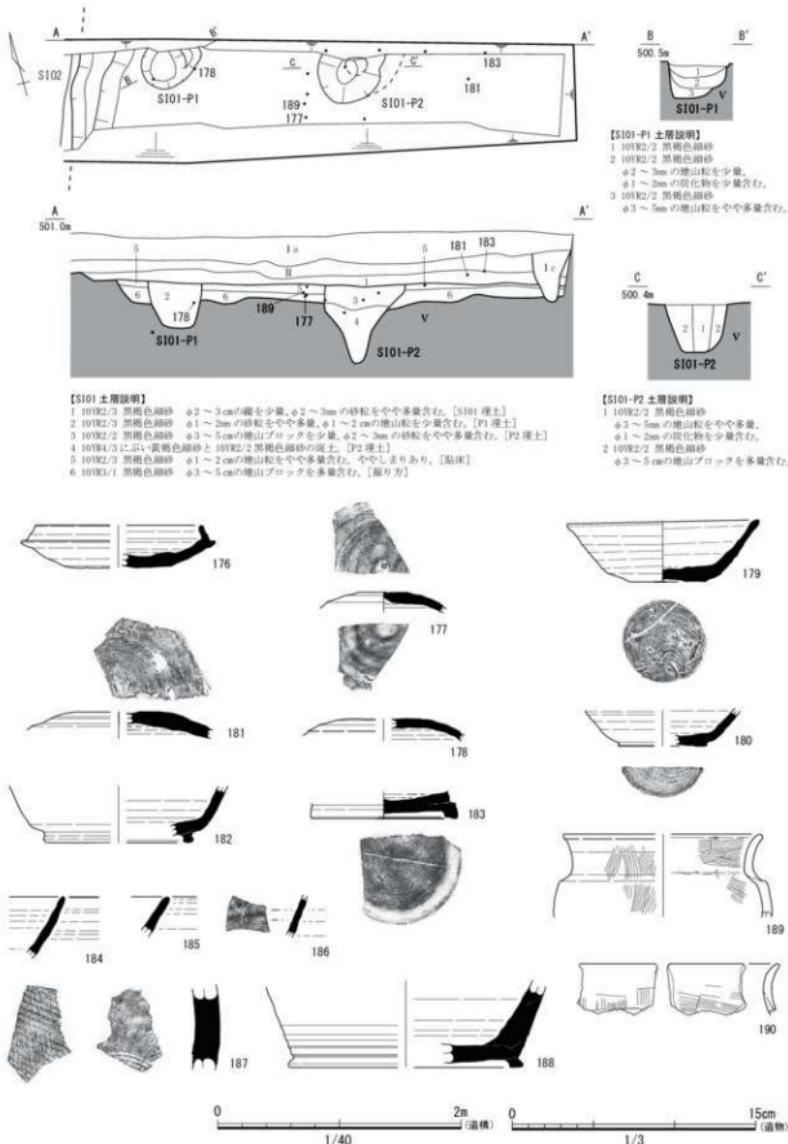
壁 溝 西壁より40cm内側に幅0.48m・高さ0.38mの壁溝が掘られる。

埋 土 黒褐色細砂単層である。

厨房施設 確認しなかつた。

**出土遺物** 須恵器坏H蓋2点・坏H身1点・坏A3点・坏B蓋4点・坏B身2点・坏類7点・壺瓶1点・壺10点、土師器甕6点・破片2点、合計38点が出土した。176は坏H身である。口縁部は外反し、立ち上がりが高く内傾する。179・180は塊Aで底部に回転糸切り痕が残る。182・183は坏Bであり、183の底部には刻線がある。186の外面にも線刻があるものの全体を認識できない。189・190は土師器甕である。外面に継ハケメ・内面に横ハケメが残る。

**所 見** 穫穴建物跡西壁では、壁溝が40cmほど建物内部側に寄って掘られている。全体の広がりを把握できなかつたが、テラス状に平坦地を設けている可能性がある。柱穴と掘方埋土の下層から坏H蓋177・178が出土し、埋土1層から坏A179・坏B蓋181・坏B身183が出土する。埋土の遺物の年代観から、時期は8世紀前半と考えられる。



第30図 S101 平面・断面図、出土遺物図

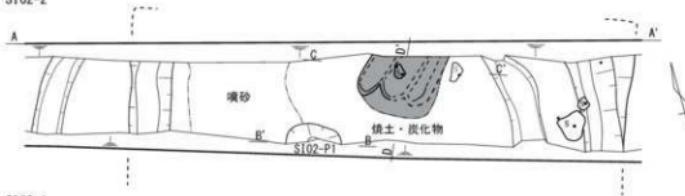
## S102-1・2 (第31図、写真図版7・15)

位置層位 6A・5B・6Bに位置し、第V層上面で確認した。

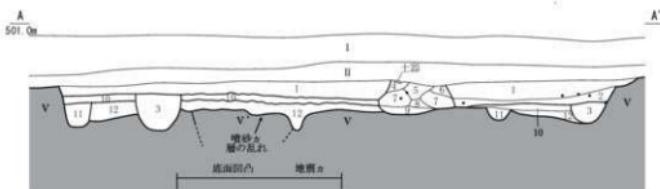
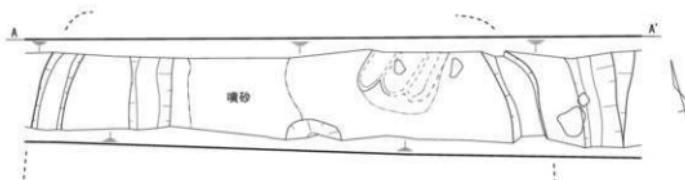
重複関係 断面で2軒の堅穴建物跡を確認した。

遺存状況 東・西壁を確認したが、大半が調査区外である。

S102-2



S102-1

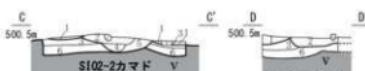


## 【S102 土層説明】

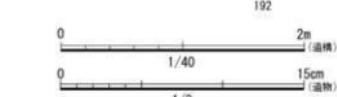
- |                    |   |
|--------------------|---|
| 1 10YR2/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 3mm の砂粒をやや多量含む。[S102-2 壁土]                        |
| 2 10YR2/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 2mm の砂粒を少量、φ 1 ~ 3mm の炭化物・塵土を少量含む。[S102-2 壁土]     |
| 3 10YR2/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 3mm の砂粒を少量。φ 1 ~ 2cm の地山砂粒を多量含む。[S102-2 壁土]       |
| 4 10YR2/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 3mm の砂粒を少量。φ 1 ~ 2cm の地山砂粒を多量含む。[S102-2 壁土]       |
| 5 10YR2/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 3mm の砂粒を少量。φ 1 ~ 2cm の地山砂粒を多量含む。[S102-2 壁土]       |
| 6 10YR3/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 5mm の塵土粒を少量含む。[S102-2 カマド壁土]                      |
| 7 10YR2/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 5mm の塵土粒を少量含む。[S102-2 カマド壁土]                      |
| 8 10YR2/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 2mm の塵土粒を少量含む。[S102-2 カマド床]                       |
| 9 10YR2/2 黒褐色細砂    | φ 1 ~ 2cm の地山砂粒を多量。φ 1 ~ 2cm の塵土粒をやや多量含む。[S102-2 カマド裏方] |
| 10 10YR3/2 増強黒褐色細砂 | φ 1 ~ 2cm の地山砂粒をやや多量含む。ややしまりあり。[S102-2 壁土]              |
| 11 10YR3/2 増強黒褐色細砂 | φ 1 ~ 2cm の地山砂粒を多量含む。[S102-2 壁土]                        |
| 12 10YR3/2 黑褐色細砂   | φ 2 ~ 5cm の地山ブロックを多量含む。[屋内]                             |

## 【S102-2 土層説明】

- 1 10YR2/2 黒褐色細砂 [表土]
- 2 剥離底面の鉄錆石
- 3 10YR2/2 黒褐色細砂 φ 1 ~ 3mm の砂粒をやや多量含む。[S102 壁土]
- 4 10YR2/2 黑褐色細砂 φ 2 ~ 3mm の地山砂粒を少量含む。[壁土]



## S102-2(154・155)

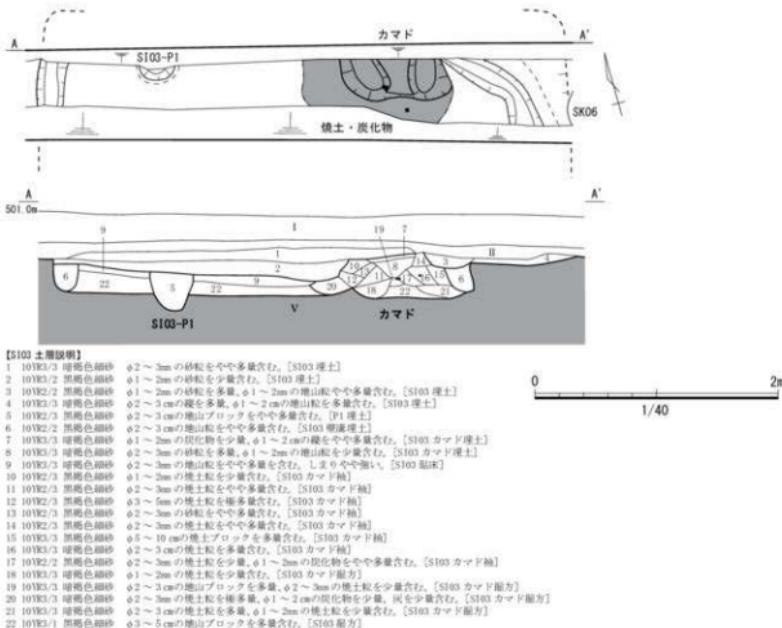


第31図 S102 平面・断面図、出土遺物図

<b>平面形状</b>	隅部を確認できなかつたため不明である。
<b>規 模</b>	長径はSI02-1が4.81m、SI02-2が4.74mであるが全容を把握できなかつた。
<b>主軸方位</b>	東壁より求めると、SI02-1はN-11°-E、SI02-2はN-20°-Eである。
<b>壁</b>	開き気味に立ち上がる。
<b>床 面</b>	SI02-2では暗褐色細砂で貼床を施す。SI02-1はSI02-2に切られて確認できない。
<b>柱 穴</b>	確認しなかつた。
<b>壁 溝</b>	東・西壁でSI02-1では幅0.19m、SI02-2では幅0.30mの壁溝が掘られる。
<b>埋 土</b>	黒褐色細砂單層である。
<b>厨房施設</b>	SI02-2ではカマドを確認した。なお、分析により出土炭化物がコナラ節と判明した。
<b>出土遺物</b>	SI02-1から土師器壺1点が出土したが細片のため図示できなかつた。SI02-2から須恵器 壺H身1点・壺B蓋1点・壺類1点、土師器甕3点、合計7点が出土した。191は須恵器 壺H身の底部破片、192は壺類の口縁部破片である。
<b>所 見</b>	SI02は平面では認識できなかつたものの、断面で重複を確認した。SI02-1段階で残存 している土層は壁溝埋土11層と掘方埋土12層のみである。SI02-1の埋土や貼床を削平 した上で、SI02-2貼床10層を施し、カマドを構築し(4~9層)、壁溝を掘り(3層)、 埋土1・2層が堆積したと判断した。SI02-2は出土遺物から8世紀代の堅穴建物跡と考え られ、SI02-1はそれ以前のものと考えられる。なお、カマド北側では噴砂を確認した。 その部分は床や掘方の土層に乱れがあることからも地震の痕跡と考えられる。

**S I 0 3 (第32図、写真図版7)**

<b>位置層位</b>	4B・5Bに位置し、第V層上面で確認した。
<b>重複関係</b>	SK06に切られる。
<b>遺存状況</b>	東・西壁を確認したが北・南壁を確認しておらず大半が調査区外である。
<b>平面形状</b>	隅部を確認できなかつたため不明である。
<b>規 模</b>	長径4.31mであるが全容を把握できなかつた。
<b>主軸方位</b>	西壁より求めると、N-15°-Eである。
<b>壁</b>	東壁は開き気味に、西壁はほぼ垂直に立ち上がる。
<b>床 面</b>	暗褐色細砂で貼床を施す。
<b>柱 穴</b>	1基を確認したのみで配置の検討に至らなかつた。
<b>壁 溝</b>	西壁では下端に、東壁では最大60cm内側に幅0.28m、深さ0.24mの壁溝が掘られる。
<b>埋 土</b>	黒褐色及び暗褐色細砂で水平に堆積する。
<b>厨房施設</b>	北壁にカマドを確認した。なお、分析により出土炭化物がクリであり、7世紀後半から9 世紀後半頃のものと判明した。
<b>出土遺物</b>	土師器壺類1点・甕2点が出土した。細片のため図示できなかつた。
<b>所 見</b>	堅穴建物跡東壁では、壁溝が最大60cm・最少28cmほど建物内部側に寄って掘られている。 全体の広がりを把握できなかつたが、カマドの東側で建物跡北東隅に、三角形のテラス状 に平坦地を設けている可能性がある。出土遺物から年代に言及できないものの、テラスを 設ける構造がSI01と同じであることから、8世紀前半の可能性がある。



第32図 SI03 平面・断面図

**S I 0 4 - 1 ~ 3 (第33図、写真図版15)**

位置層位 SI04-1は3B・4B・3Cに位置し、SI04-1・2は第V層、SI04-3はIII a層上面で確認した。

重複関係 SI04-1がSP8に切られる。

遺存状況 SI04-1は東・西壁を確認したが北・南壁は確認しておらず、SI04-2は東壁を確認したがSI04-1に切られ、SI04-3は東・西壁を確認したが北・南壁は確認しておらず、それぞれの大半が調査区外である。

平面形状 隅部を確認できなかつたため不明である。

規模 全容を把握できなかつた。

主軸方位 東壁より求めると、SI04-1及びSI04-2はN-25°-E、SI04-3はN-30°-Eである。

壁 それぞれ開き気味に立ち上がる。

床面 SI04-1は3層上面、SI04-2は3層上面、SI04-3は10層上面を床面とした。

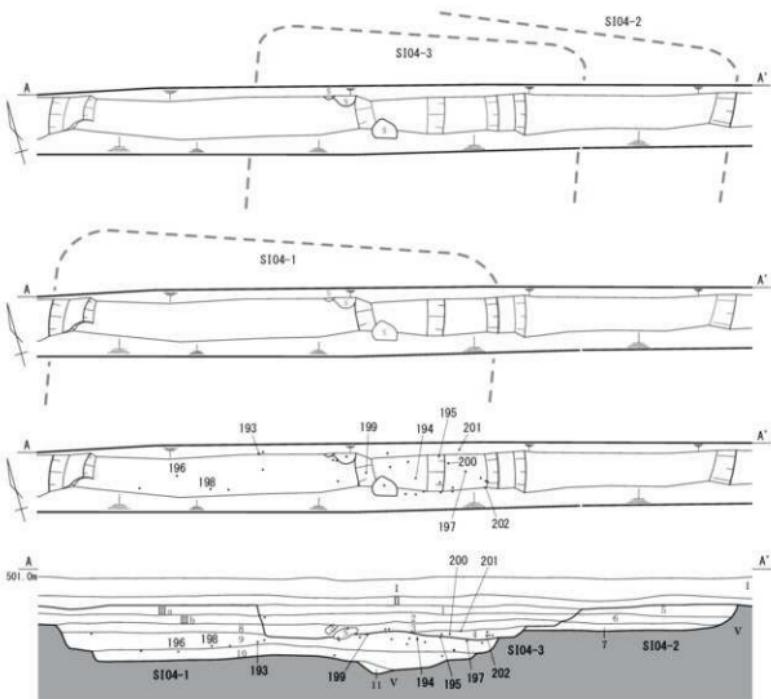
柱穴 確認しなかつた。

壁溝 確認しなかつた。

埋土 いづれも暗褐色～黒褐色細砂である。

廚房施設 確認しなかつた。

出土遺物 SI04-1からは須恵器壺H蓋1点・壺A1点・壺B身1点・壺瓶1点・甕10点・土器瓶甕5点・破片1点が出土した。193は壺H蓋であり、天頂部と口縁部の境に回線を引く。194



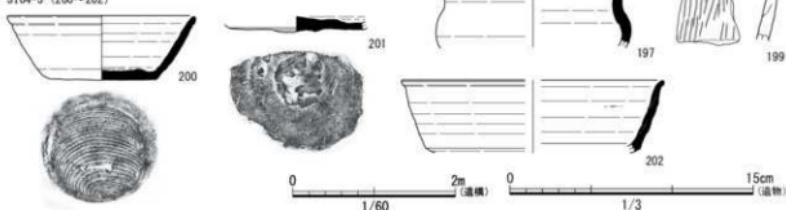
## [S104 土層説明]

- 1 10W3/3 黒褐色細砂 φ3～3cmの塊山ブロックを中心多量含む。[S104-3 墓土]
- 2 10W3/3 黒褐色細砂 φ2～3cmの炭化物・土を少量含む。[S104-3 連土]
- 3 10W2/3 黒褐色細砂 φ1～2cmの炭化物・土を少量含む。[S104-3 斜方]
- 4 10W2/3 黒褐色細砂 φ3～5cmの塊山ブロックを少量含む。[S104-3 斜方]
- 5 10W3/3 黒褐色細砂 上面に鉢分、φ2～3cmの塊を少量含む。[S104-2 墓土]
- 6 10E3/2 黒褐色細砂 φ3～5cmの炭化物・土を少量含む。[S104-2 斜方]
- 7 10E2/2 黒褐色細砂 φ1～2cmの炭化物・土を少量含む。[S104-2 墓土]
- 8 10E2/3 黒褐色細砂 φ2～3cmの砂粒やや少含む。[S104-1 墓土]
- 9 10E3/2 黒褐色細砂 φ2～3cmの塊を中心多量含む。[S104-1 斜方]
- 10 10E3/3 黒褐色細砂 φ3～5cmの塊山ブロックを多量含む。[S104-1 斜方]
- 11 10E3/3 黒褐色細砂 φ2～3cmの塊山ブロックをやや多量含む。[S104-1 斜方]

## S104-1 (193～199)



## S104-3 (200～202)



第33図 S104 平面・断面図、出土遺物図

0 2m (道幅) 0 15cm (道幅)  
1/60 1/3

は体部が直線的に立ち上がる坏、195は坏か塊である。196は坏B身の底部破片である。197は小型鉢である。SI04-2から遺物は出土しなかった。SI04-3からは須恵器坏H身1点・坏A3点・坏B身1点・坏類1点・甕2点が出土した。200は底部回転糸切り痕跡が残る塊Aである。201は底部回転ヘラ切り痕が残る坏H身である。202は口縁部が外反する塊Aである。

**所見** SI04-1・SI04-3は断面で径より小さめの掘方に床面を設けていることを確認できる。SI04-1の時期は194・195・196の年代観より、8世紀中葉と考えられる。SI04-3の時期は202より8世紀後葉～9世紀初頭と考えられる。SI04-2は出土遺物がないものの、上記の成果より8世紀後半代と考えられる。

### (3) その他の遺構（第34図）

**土坑SK06** 5Bにおいて、第V層上面で確認した。径0.8mの楕円形を呈する。切り合いはSI03を切る。このため、時期は8世紀後半以降と考えられる。

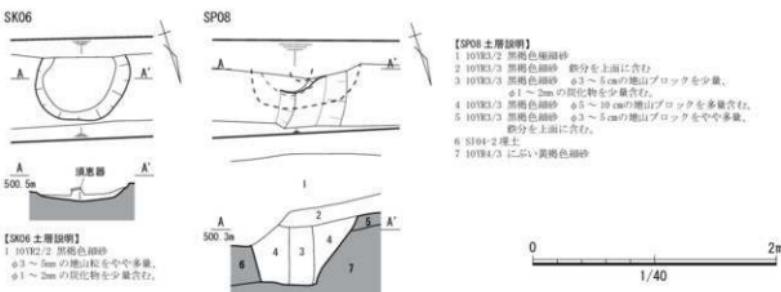
**柱穴SP05・07・08** 柱穴は3基を確認した。SP05・07は断面でのみ確認した。SP08は20cmの柱痕跡を確認できる。平面図作成前に壁面が崩落してしまったものの、検出時に平面形は楕円形を呈していた。III b層から掘り込み、SI04-1を切る。このため時期は8世紀後葉以降と考えられる。

### (4) 遺構外出土遺物（第35図、写真図版15）

I層から須恵器坏H蓋2点・坏H身2点・坏A1点・坏B蓋6点・坏B身1点・坏類6点・塊1点・盤1点・鉢1点・壺瓶4点・甕9点・破片2点、土師器赤彩土器1点・坏類1点・甕10点・破片1点、灰釉陶器碗皿2点、合計51点が出土した。

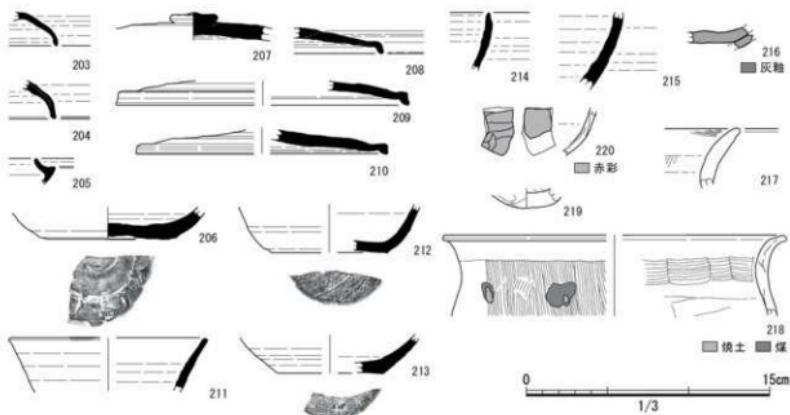
203・204は坏H蓋である。ともに口縁部と天頂部の境に明瞭な稜を持たない。205・206は坏H身である。205は口縁端部を丸くおさめ、立ち上がりは内傾して立ち上がる。206は底部に回転ヘラ切り痕跡が残る。

207～210は坏B蓋である。207は扁平な摘みが付き、208～210は口縁部で垂下し、端部がゆるく外反する。211は体部が直線的に立ち上がる坏である。212・213は底部に回転糸切り痕が残る塊Aである。214は鉢の口縁部破片であり、鉄鉢形の可能性もある。



第34図 SK06・SP08 平面・断面図

217~219は土師器甕である。218は外面に縦ハケメ、内面の頸部に横ハケメ、体部に横板ナデを施す。  
220は壺であり、内外面に赤彩を施す。



第35図 遺構外出土遺物図

第16表 第45次調査遺構一覧表

遺構名	グリッド	機出面	堆積	形状			法量 (m)	出土遺物	備考
				平面	断面	長径			
SI-01	P1	6A, 7A, 6B	V	単方	逆台形	-	0.11	須恵器 (坪B1・坪A2・坪A3・坪B2・坪B3・坪C1・坪C2・赤彩盤1・鏡10)、土師器 (墨)	
	P2		KE	円形	2段	0.01	0.29	0.27	
		KE	その他の	円形	逆台形	0.73	0.45	0.64	
SI-02-1	V	-	方盤	逆台形	4.81	-	0.23		
	P1	6A, 9B, 6B	KE	単	-	半円形	0.01	0.34	0.19
		KE	単	方盤	逆台形	4.74	-	0.19	土師器 (要1)
SI-02-2	V	-	方盤	逆台形	-	0.58	-	0.26	
	P2	6A, 9B, 6B	KE	レンズ	-	-	-	須恵器 (坪B1・坪A2・坪C1・赤彩盤1)、土師器 (要3)	
		KE	単	円形	逆三角形	0.46	-	0.34	
SI-03	V	-	方盤	逆台形	-	0.34	0.20		
	P1	6B, 9B	KE	その他の	方盤	4.31	-	0.21	
		KE	水平	-	-	0.88	-	0.38	SI04-1に切られる。
SI-04-1	V	水平	KE	単	方盤	0.36	-	0.31	
	P1	6B, 9B	KE	水平	-	半円形	0.28	0.24	SI04-3に切られる。SI04-2に切られる。
		KE	水平	-	方盤	-	-	-	
SI-04-2	KE	6B, 9B	V	水平	方盤	5.45	-	0.70	須恵器 (坪B1・坪A1・坪B1・坪B2・坪B3・坪C1・坪C2)、土師器 (要5・破片1)
		KE	水平	-	方盤	-	-	0.33	SI04-3に切られる。
		KE	水平	-	方盤	1.01	-	0.44	須恵器 (坪B1・坪A3・坪B1・坪B2・坪C1・要2) SI04-1とSI04-2を切る。
SI-06	6B	V	6B	楕円形	半円形	0.80	-	0.20	須恵器 (要1)
SP-05	IC, 2C	IV-a	単	楕円形	半円形	0.46	-	0.37	SI03を切る。
SP-07	2C	IV-c	単	楕円形	半円形	0.31	-	0.28	
SP-08	3B, 3C	III-b	その他の	楕円形	半円形	0.89	-	0.55	SI04-1を切る。

第17表 第45次調査遺物観察表(1)

遺物番号	層	出土遺構	種別	法量 (cm)		破片数	胎 土	焼成	色調		成形・調整等		備考	因縁番号	
				口径	底径				外面	内面	外面	内面			
176	I層	SI01	須恵器 坪B	(10.2)	(6.6)	2.6	1	無、直径1mm以下の石英、斜 ナットをわずかに含む。	灰	灰白	SY7/2	SY7/2	回転ナダ、直腹回転へ ラタケリ。	外底面に自 然釉。	15
177	埋	SI01	須恵器 坪B	-	-	-	1	無、直径1mm以下の良 石をわずかに含む。	灰	灰白	SY7/1	N/A	大腹部回転 ヘラタケリ。	外面上に隕。	15
178	P1	SI01	須恵器 坪B	-	-	-	1	無、直径1mm以下の良 石をわずかに含む。	灰	NS	SY8/1	回転ナダ、大腹部回転 ヘラタケリ。	回転ナダ。	15	
179	I層	SI01	須恵器 坪A	(11.8)	4.7	3.8	3	直径3mm以下の石英を わずかに含む。	普通	暗灰黄 火サリーブ	2. SY8/2	7. SY8/2	回転ナダ、直腹回転 ヘラタケリ。	内外面に隕 分付釉。	15
180	I層	SI01	須恵器 坪A	-	(5.4)	-	1	直径1mm以下の石英を わずかに含む。	普通	NS	SY8/2	SY8/2	回転ナダ、直腹回転 ヘラタケリ。	回転ナダ。	15
181	埋	SI01	須恵器 坪B	-	-	-	1	直径1mm以下の石英を わずかに含む。	灰	灰	N/A	回転ナダ、天腹部回転 ヘラタケリ。	外面上に隕。	15	

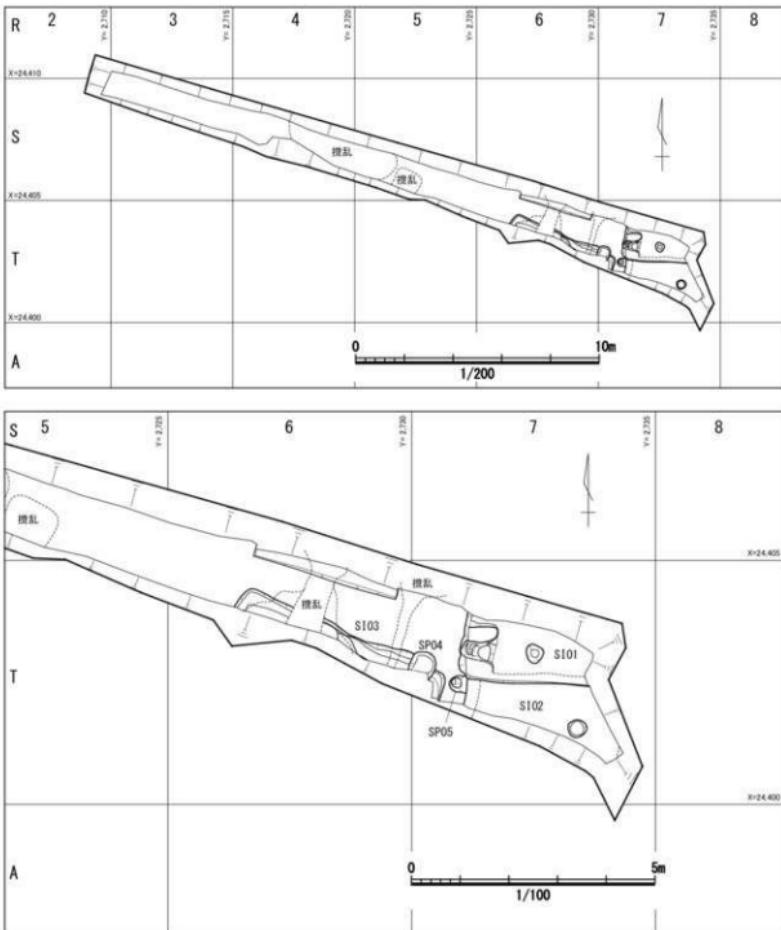
第18表 第45次調査遺物観察表(2)

遺物番号	層位	出土遺構	種類	法量(cm)			破損部	地成	色調		形態・調整等		因变量番号			
				口径	底径	高さ			外側	内面	外側	内面				
				底径	3cm以下の石英を含む	底径			青白	7.596/1 灰白	7.597/1 灰白	回転ナヂ。底部回転へ タ切り壁に回転ナヂ。	回転ナヂ。	15		
182 1層	S101	須恵器 灰白	—	(9.0)	—	1 底径3cm以下の石英を 含む			良	10.95/1 好	10.95/1 好	回転ナヂ。底部回転へ タ切り壁に回転ナヂ。	回転ナヂ。	15		
183 1層	S101	須恵器 灰白	—	(9.0)	—	1 底径3cm以下の石英を含む			好	7.596/1 灰白	7.597/1 灰白	回転ナヂ。底部回転へ タ切り壁に回転ナヂ。	回転ナヂ。	15		
184 1層	S101	須恵器 灰白	—	—	—	1 底径3cm以下の石英を含む			不	7.596/1 好	7.598/1 好	回転ナヂ。底部回転へ タ切り壁に回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
185 1層	S101	須恵器 灰	—	—	—	1 底径3cm以下の石英を含む			良	7.596/1 好	7.598/1 好	回転ナヂ。底部回転へ タ切り壁に回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
186 1層	S101	須恵器 灰	—	—	—	1 底径3cm以下の石英を含む			良	5.95/1 好	5.95/2 灰白リブ	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
187 1層	S101	須恵器 灰	—	—	—	1 底径3cm以下の石英を含む			良	7.595/1 好	7.595/1 好	平行タキ。	同心円文当て其後にナ ヂ。	—		
188 1層	S101	須恵器 灰	(14.4)	—	—	底径1cm以下の長石。 石英をわずかに含む。			良	10.94/1 好	7.595/1 好	底部下部～底部回転へ タケリズ。高台船伏張。	回転ナヂ。	内部部と斜 外部に自然 軸。		
189 地 土	S101	土器部 陶	(12.2)	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			普通	7.597/2 青	7.597/1 青	口縁部～腹部横方向へ タケリズ。	口縁部～腹部横方向へ タケリズ。	15		
190 1層	S101	土器部 陶	—	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			普通	5.95/2 青	5.95/2 青	口縁部ヨコナヂ。腹部 横方向へタケリズ。	口縁部ヨコナヂ。腹部 横方向へタケリズ。	15		
191 1層	S02/2	須恵器 灰白	—	(6.0)	—	底径1cm以下の石英を 含む			良	7.596/2 好	7.596/2 好	回転ナヂ。底部回転へ タケリズ。	回転ナヂ。内底部不 定方角ナヂ。	15		
192 1層	S02/2	須恵器 灰	—	—	—	底径1cm以下の長石。 石英をわずかに含む。			良	7.596/2 好	7.597/2 好	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
193 —	S04/1	須恵器 灰白	(12.8)	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			良	8.95/1 好	8.95/1 好	回転ナヂ。	回転ナヂ。	15		
194 —	S04/1	須恵器 灰	(16.6)	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			良	7.595/2 好	7.595/2 好	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
195 —	S04/1	須恵器 灰白	(12.4)	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			良	7.597/2 好	7.597/2 好	回転ナヂ。	回転ナヂ。	15		
196 —	S04/1	須恵器 灰白	(11.2)	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			良	2.97/1 青	2.97/1 灰白	回転ナヂ。底部回転へ タケリズ。	回転ナヂ。	15		
197 —	S04/1	須恵器 小切迹	(11.2)	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			良	2.95/1 青	2.95/1 青	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
198 —	S04/1	須恵器 灰	—	—	—	底径1cm以下の長石。 石英を多く含む			良	2.95/1 好	2.95/1 好	平行タキ。	ナヂ。	15		
199 —	S04/1	土器部 陶	—	—	—	底径1cm以下の長石。 石英を多く含む			良	2.95/1 好	2.95/1 好	鏡面方向へカメ。	ナヂ。	—		
200 —	S04/2	須恵器 灰	11.6	6.6	4.0	2 底径1cm以下の長石。 石英を多く含む			良	7.598/4 好	7.598/6 好	回転ナヂ。底部回転へ タケリズ。	回転ナヂ。	15		
201 —	S04/2	須恵器 灰	—	8.4	—	底径2cm以下の長石。 石英を多く含む			普通	5.95/2 青	5.95/2 青	底部回転へタケリズ。	回転ナヂ。	15		
202 —	S04/2	須恵器 灰	(16.0)	—	—	底径2cm以下の長石。 石英を多く含む			普通	5.95/3 青	5.95/3 青	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
203 1 通	須 灰白	—	—	—	—	底径1cm以下の長石。 石英を多く含む			良	10.95/1 好	7.598/2 灰白	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
204 1 通	須 灰白	—	—	—	—	底径2cm以下の長石。 石英をわずかに含む			普通	7.594/1 青	7.594/1 青	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
205 1 通	須 灰	—	—	—	—	底径1cm以下の長石。 石英をわずかに含む			良	7.595/1 好	7.596/1 好	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
206 1 通	須 灰	—	(8.4)	—	—	底径2cm以下の長石。 石英をわずかに含む			良	2.95/2 青	2.95/2 青	回転ナヂ。底部回転へ タケリズ。	回転ナヂ。	15		
207 1 通	須 灰	—	—	—	—	底径1cm以下の長石。 石英をわずかに含む			良	2.95/1 好	2.95/1 好	回転ナヂ。天頂部回転 ヘラカケリ。	回転ナヂ。	15		
208 1 通	須 灰	—	—	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			良	NA/4 好	NA/4 好	回転ナヂ。天頂部回転 ヘラカケリ。	回転ナヂ。	15		
209 1 通	須 灰白	(18.0)	—	—	—	底径2cm以下の石英を 含む			普通	10.98/3 青	7.598/3 青	回転ナヂ。天頂部回転 ヘラカケリ。	回転ナヂ。	—		
210 1 通	須 灰	(15.6)	—	—	—	底径1cm以下の石英。 赤色顔化土をわずかに含む			普通	7.598/6 青	7.598/6 青	回転ナヂ。天頂部回転 ヘラカケリ。	回転ナヂ。	—		
211 1 通	須 灰	(11.8)	—	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			普通	5.97/1 青	5.97/1 青	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
212 1 通	須 灰	(7.2)	—	—	—	底径1cm以下の長石。 石英をわずかに含む			普通	10.98/6 青	10.98/6 青	回転ナヂ。底部回転へ タケリズ。	回転ナヂ。	15		
223 1 通	須 灰	(6.6)	—	—	—	底径2cm以下の長石。 石英を多く含む			普通	7.594/1 青	7.594/1 青	回転ナヂ。底部回転へ タケリズ。	回転ナヂ。	15		
224 1 通	須 灰	—	—	—	—	底径1cm以下の石英を 含む			普通	NA/2 好	2.95/4 好	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
225 1 通	須 灰	—	—	—	—	底径1cm以下の長石。 石英をわずかに含む			良	2.95/3 好	10.98/4 好	回転ナヂ。	回転ナヂ。	—		
226 1 通	灰陶器 灰	—	—	—	—	底径2cm以下の長石。 石英を多く含む			良	2.97/1 好	7.598/2 好	回転ナヂ。底部回転へ タケリズ。	回転ナヂ。	—		
227 1 通	土器部 陶	(29.8)	—	—	—	底径1cm以下の石英。 赤色顔化土をわずかに含む			普通	10.97/1 青	10.98/2 青	ロ繩目ヨコナヂ。脚部横 方向へカメ。	脚部横方向へカ メ。	—		
228 1 通	土器部 陶	—	—	—	—	底径2cm以下の石英。 赤色顔化土をわずかに含む			普通	NA/6 青	NA/6 青	ハラカケリ。	ハラナヂ。	—		
229 1 通	土器部 陶	—	—	—	—	底径1cm以下の石英。 赤色顔化土をわずかに含む			普通	NA/6 青	NA/6 青	ハラカケリ。	ハラナヂ。	—		
230 1 通	土器部 陶	—	—	—	—	底径1cm以下の石英。 赤色顔化土を含む			普通	NA/6 青	NA/6 青	ハラカケリ。	ハラナヂ。	—		

## 第5節 第49次調査

## (1) 造構と遺物の概要

堅穴建物跡3軒、柱穴2基を確認した(第36図、第20表)。遺物は、第I層表土掘削時から多くの遺物が出土し、堅穴建物跡からも時期決定が可能な遺物が出土した。合計で須恵器98点、土師器15点、磁器8点、瓦1点、金属製品1点を確認した(第19・21・22表)。また、SI01カマド・SI02掘方・SI03カマド出土の炭化物について自然科学分析を実施した。今回は結果のみ同様(5)に記す。



第36図 第49次調査区全体図

第19表 第49次調査出土遺物集計表

種別 器種	須恵器										土師器					灰陶陶器			その他		計
	坏B 蓋	坏G 身	坏A 身	坏B 底	坏 縁	蓋 坏	鉢 底	甕 底	壺 底	壺 縁	壺 蓋	高 环	低 环	鉢 縁	壺 縁	破 片	瓶 底	瓶 縁	点数	種類	
SI01		2	5	5	3	1	1	6	2						9				34		
SI02		2	5	3	11	4		3	8	2					4	1		1	刀子1	44	
SI03				1			1												2		
SI04							2												2		
遺構外 I-Ⅱ層			1	4			2	5	5						1			9	磁器8、 瓦1	27	
遺構外 Ⅲ層			2	1	4		1	6											14		
器種計	0	0	0	0	2	10	9	25	7	0	1	0	7	28	9	0	0	0	0	10	123
割合	0%	0%	0%	0%	2%	8%	7%	20%	6%	0%	1%	0%	6%	23%	7%	0%	0%	0%	0%	8%	100%
堆積計						96										15		0	10	123	
割合						80%										12%		0%	8%	100%	

## (2) 積穴建物跡

SI01 (第37・38図、写真図版9・16)

位置層位 7Tにおいて、第IV層上面から掘り込むことを確認した。

重複関係 SI02を切る。

遺存状況 南西隅1/3を確認し、それ以外は調査区外である。

平面形状 方形を呈する。

規模 全容を把握することはできなかった。

主軸方位 南壁から求めると、N-8°-Eである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がり、深さ0.28mを測る。

床面 青灰色シルトで貼床を施す。

柱穴 1基確認した。P1は径0.37m、深さ0.29mを測り、円形を呈する。4隅に配置された柱穴の一つと想定される。

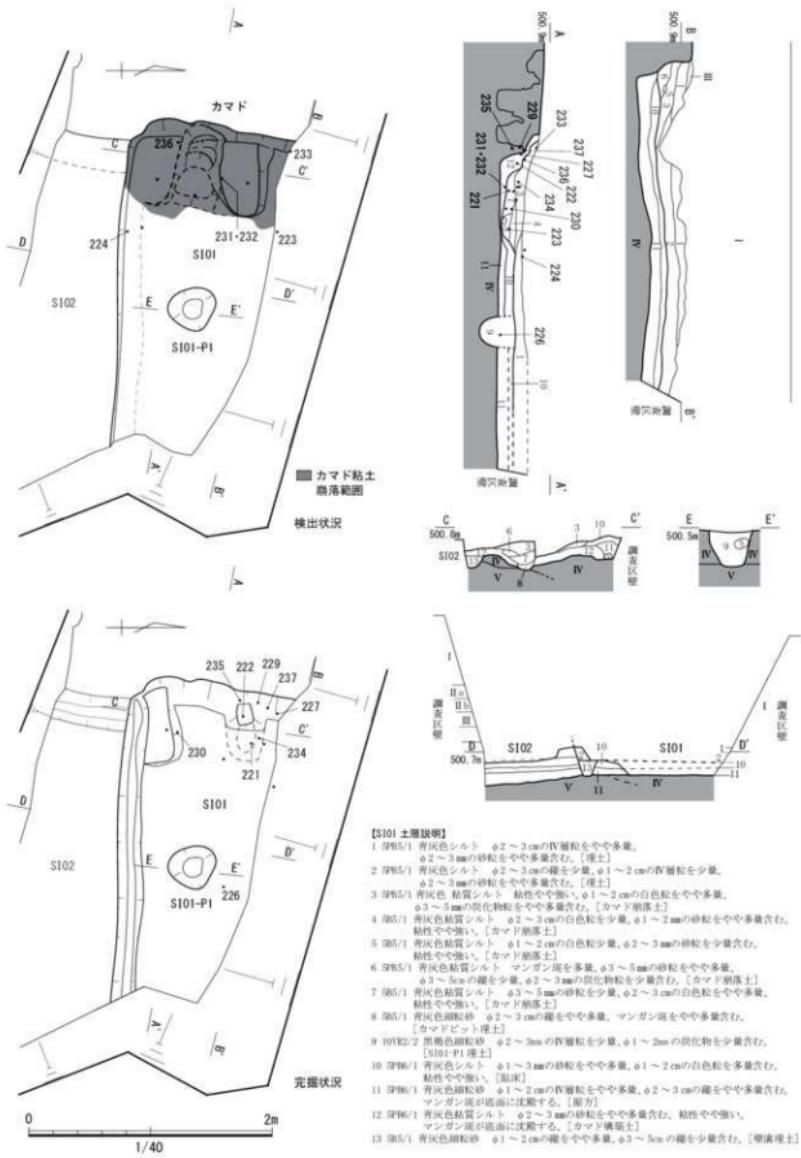
壁溝 南壁で幅0.21m、深さ0.12m、逆台形を呈する壁溝を確認した。

埋土 カマドが崩落した後に水平堆積を呈する。

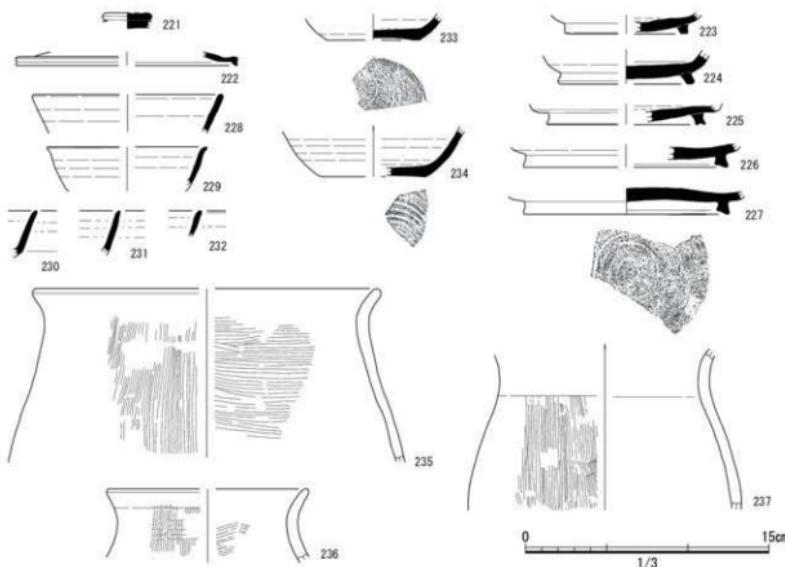
廚房施設 南西隅でカマドを確認した。炭化物が出土したため自然科学分析を実施した。

出土遺物 須恵器坏B蓋2点・坏B身5点・坏類5点・塊3点・高坏1点・壺瓶1点・甕6点・破片2点、土師器甕9点、合計34点出土した。221・222は坏B蓋である。221は扁平な擴み部分の破片、222は口縁部破片で先端が短く折れる。端部はゆるやかに外反し三角形を呈する。223～227は坏B身である。225～227は高台から平坦面を設けて体部を立ち上げる。228・230～232は体部が直線的に立ち上がる坏である。229は口縁端部が外反する塊である。233・234は底部に回転糸切り痕跡が残る塊Aである。235～237は土師器甕である。体部で最大径をもち、頭部から口縁部にかけてゆるやかに外反する。全て体部外面には縦ハケメを施す。235・236は内面に横ハケメを施す。

所見 全体の1/3程度しか確認できなかったものの、4本の主柱穴を設け、南西隅にカマドを設ける積穴建物跡と想定された。時期は、坏B身225・227、塊229の年代観から、8世紀後葉と考えられる。



第37図 S101 平面・断面図



第38図 SI01出土遺物図

## SI02 (第39・40図、写真図版10・16)

**位置層位** 7Tにおいて、第IV層上面から掘り込む。

**重複関係** SI01を切る。

**遺存状況** 東西の下端で幅を確認できたが、北側はSI01に切られ、南側は調査区外に及ぶ。

**平面形状** 確認できなかった。

**規模** 確認できなかった。

**主軸方位** 西壁から求めると、N-10°-Eである。

**壁** 西壁はほぼ垂直に立ち上がり、0.33mを測る。

**床面** 暗灰色シルトで貼床を施す。

**柱穴** 1基確認した。P1は径0.37m、深さ0.32mを測り、円形を呈する。

**壁溝** 西壁で、幅0.26m、深さ0.19mを測る壁溝を確認した。東壁では確認しなかった。

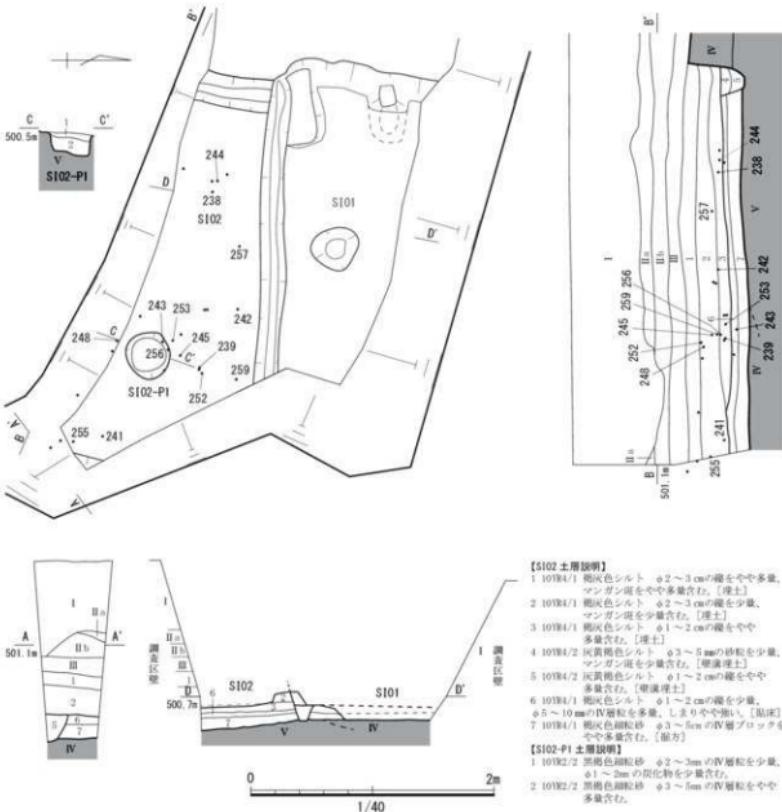
**埋土** 暗灰色シルトの3層が水平に堆積する。

**厨房施設** 確認しなかった。

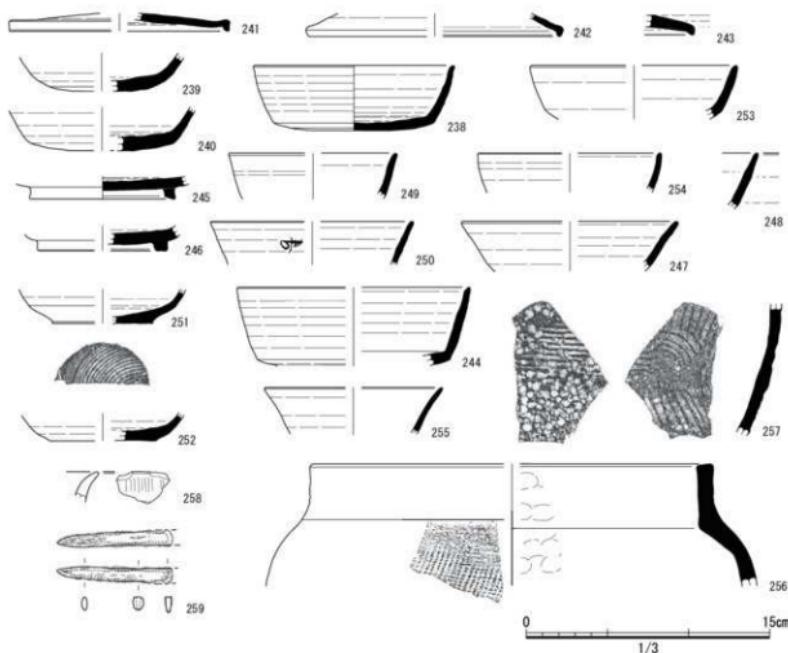
**出土遺物** 須恵器壺A2点・壺B蓋5点・壺B身3点・壺類11点・塊4点・壺瓶3点・甕8点・破片2点、土師器甕4点・破片1点・刀子1点・合計44点が出土した。238～240は底部に回転ヘラケズリを施す壺Aである。238の色調は明赤褐色を呈する。241～243は壺B蓋である。241は端部が外反し、三角形を呈する。242・243は端部を丸く仕上げる。244～

246は壺B身である。244は高台周縁のナデ部分で破損している。高台は245が逆三角形を、246が方形を呈する。247～250は体部が直線的に立ち上がる壺である。250の体部外面には墨書「寺カ」がある。251～253は壺Aであり、251・252は底部外面に回転糸切り痕跡が残る。254は体部が内湾し、壺か塊である。255は体部が緩やかに外反し、器壁が薄く、瓶類の口縁部破片と推測される。256・257は甕である。257の外面には小さな凹み状の剥離が著しい。液体が凍結を繰り返すことによりできた可能性がある。259は刀子の刃部である。鞘の木部が残存している。

**所 見** SI01と調査区壁に挟まれて全容は知りえないものの、遺物の出土は多かった。時期は壺A・壺B・壺Aから8世紀中葉と考えられる。なお掘方出土炭化物の自然科学分析を実施した。



第39図 SI02平面・断面図



第40図 SI02出土遺物図

## SI03 (第41図、写真図版11)

**位置層位** 6T・7Tにおいて、第IV層上面から掘り込むことを確認した。

**重複関係** SP04に切られる。

**遺存状況** 北壁周辺1/6を確認し、大半が調査区外である。

**平面形状** 方形を呈する。

**規模** 東西壁から径は4.59mを測る。

**主軸方位** 北壁から求めると、N-20°-Eである。

**壁** ほぼ垂直に立ち上がり、0.27mを測る。

**床面** しまりがやや強い灰黄褐色シルトで貼床を施す。

**柱穴** 確認しなかった。

**壁溝** 北壁に沿って、幅0.30m、深さ0.14mの壁溝を確認した。

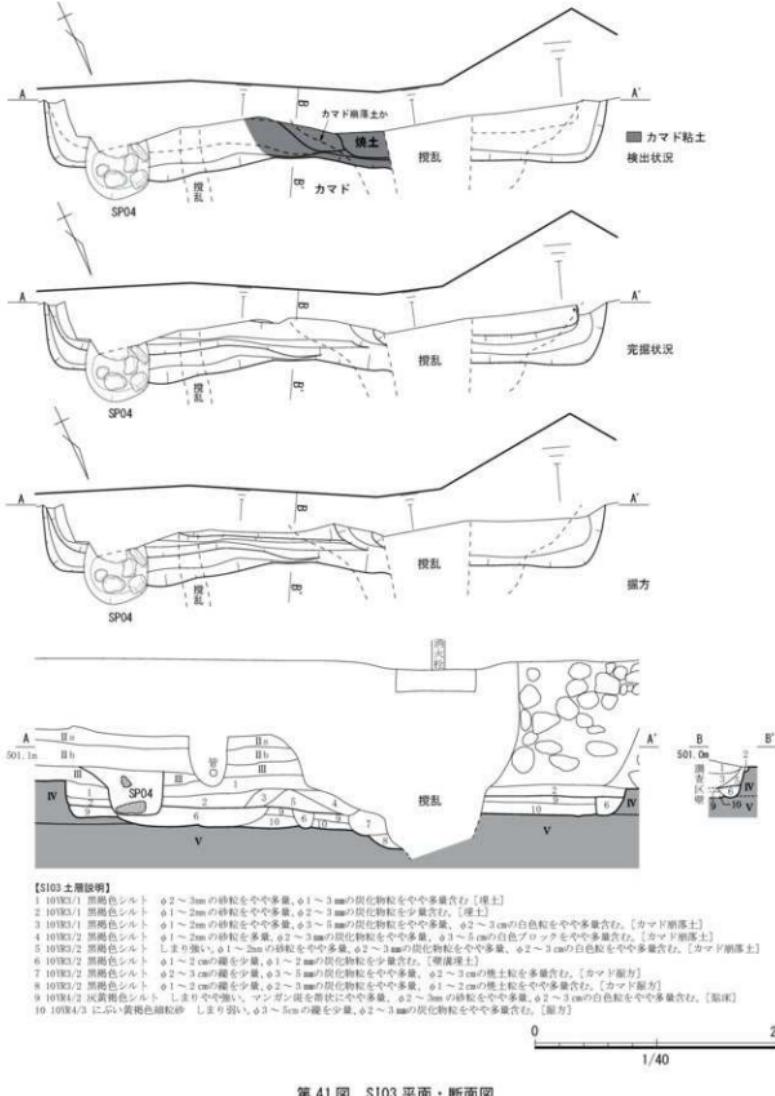
**埋土** 2層の黒褐色シルトが水平に堆積する。

**厨房施設** 北壁中央にカマドを設ける。炭化物が出土したため自然科学分析を実施した。

**出土遺物** 須恵器壺類1点・甕1点が出土した。細片のため図示しなかった。

**所見** 北壁周辺のみと検出範囲は限られていたものの、カマドや壁溝、貼床など堅穴建物跡と認識できる関連遺構を確認することができた。カマドは、多くが調査区外に及び搅乱層も及

んでいたため焼土の範囲を認識するに留まり、袖などの構築土層を確認することはできなかった。出土遺物はないが、自然科学分析より6世紀中葉から7世紀前葉のものと考えられる。



第41図 S103 平面・断面図

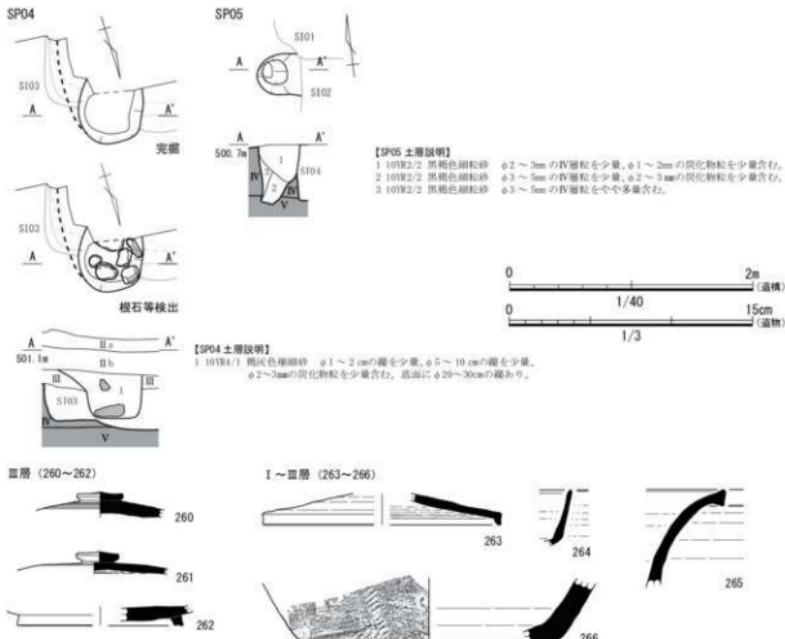
## (3) その他の遺構 (第42図、写真図版11)

**柱穴** SP04・SP05の2基を確認した。SP04は6T・7Tに位置し、第Ⅲ層上面より掘り込む。径0.5mで、方形を呈する。15cm大以上の礫が5点検出され、底面には30cm大で上面を平らに据えた礫も見つかり、礎盤石と想定された。今回の調査区内には対応する柱穴が見つからなかったものの、重量物を支える据立柱建物跡を構成する柱穴と考えられる。SP05はSI01・02に切られる。断面では東側から柱を斜めに差し込んだようにに観察できる。対応する柱穴はないものの、柱の残りから作業用に据えられたもの可能性を想定しておく。

## (4) 遺構外出土遺物 (第42図、写真図版16)

**Ⅲ層** 須恵器壺B蓋2点・壺B身1点・壺類4点・壺瓶1点・甕6点、合計14点が出土した。260・261は壺B蓋である。扁平な摘みを有する。262は壺B身であり、方形の高台をもつ。全て8世紀前半代のものと考えられる。

**I～Ⅲ層** 須恵器壺B蓋1点・壺類4点・壺瓶2点・甕5点・破片5点、土師器甕1点、磁器8点、瓦1点、合計27点が出土した。263は壺B蓋である。口縁端部はゆるやかに外反し、三角形を呈する。264は体部が直線的に立ち上がる壺である。265は甕の口縁部破片、266は甕の体部から底部にかけての破片である。



第42図 SP04・05 平面・断面図、遺構外出土遺物図

第 20 表 第 49 次調查遺構一覽表

遺構名	グリッド	棟出番	堆積	形状			法量 (m)			出土遺物	備考
				平面	断面	長径	短径	深さ			
SI_01	TT	IV	水平	方形	逆台形	-	-	0.28	遺跡部 (坪85・坪II層2・坪類5・埴3・高坪1・逆台形1・便1・便2)、土師器 (便9)	SI02を切られる。	
カマド			IK	壁面	-	1.17	0.71	0.22			
施設		P1	IK	単	円形	逆台形	0.37	-	0.29		
壁塗		IK	単	-	逆台形	-	0.21	0.12			
SI_02	TT	IV	水平	方形	逆台形	-	-	0.33	遺跡部 (坪42・坪II層3・坪類5・坪類11・埴4・逆台形3・便2・便3)、土師器 (便4・便5・便6)、鉄製品 (刀子1)	SI01に切られる。	
施設			P1	水平	円形	方形	0.37	-	0.32		
壁塗		IK	レンド	-	逆台形	-	0.26	0.19			
SI_03	6T, TT	IV	水平	方形	逆台形	4.59	-	0.27			
カマド			IK	その他の	-	-	1.15	0.23	-		
壁塗		IK	単	-	平行四辺形	-	0.30	0.14	遺跡部 (便1・便1)	SI04に切られる。	
SP_04		6T, TT	III	単	橢円形	方形	0.50	-	0.49	遺跡部 (便2)	
SP_05	TT	IV	その他	円形	平行四辺形	0.50	-	0.48	SI02に切られる。	SI02に切られる。	

第 21 表 第 49 次調查遺物觀察表 (1)

固有種 名	固有種 名	固有種 名	法量 (cm)			磚 片數	胎 土	色調		成形・調整等		備考			
			口径	底径	基盤			外顔	内顔	外顔	内顔				
								底径1mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	底径1mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	底径1mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	底径1mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。				
221 製 瓦	SI01	重恵器 杯 B	-	-	-	1	直 径1 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	普通 灰白	N5/ R5	7.5/14 1/4	回転ナギ。 灰白	回転ナギ。	-		
222 カツジ ン	SI01	重恵器 杯 B 基	(13.4)	-	-	1	直 径1 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	普通 灰白	2.5/5/ 1	10/17/ 2	回転ナギ。	回転ナギ。	外面に重ね焼き 痕。内部焼痕。		
223 地 土	SI01	重恵器 壺	-	(7.0)	-	1	直 径1 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	5/5/1 良	5/14/ 1	回転ナギ。 底部切り離し 後、回転ヘラタキ。	回転ナギ。	外側の一部に 鉄筋分付有。		
224 地 土	SI01	重恵器 壺	-	(8.2)	-	1	直 径1 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	2.5/7/ 1	2.5/7/ 1	回転ナギ。	回転ナギ。	外側の一部に 鉄筋分付有。		
225 カツジ ン	SI01	重恵器 杯 B	-	(9.6)	-	1	直 径1 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	10/17/ 2	10/17/ 2	回転ナギ。底部回転ヘラ タキ。高台貼付後に潤滑 ナギ。	回転ナギ。	-		
226 製 瓦	SI01	重恵器 杯 B	-	(12.6)	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	5/5/1/4 良	10/17/ 2	回転ナギ。底部切り離し 後、回転ヘラタキ。	回転ナギ。	227と同一個 体。		
227 カ ツジ ン	SI01	重恵器 杯 B	-	(12.6)	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	2.5/5/1/ 1	2.5/5/1/ 1	回転ナギ。底部切り離し 後、回転ヘラタキ。	回転ナギ。	228と同一個 体。		
228 暖 器	SI01	重恵器 杯 B	(11.6)	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	2.5/7/ 1	2.5/7/ 1	回転ナギ。	回転ナギ。	外側の一部に 鉄筋分付有。		
229 カ ツジ ン	SI01	重恵器 杯 B	(0.8)	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	普通 灰白	2.5/5/1/ 1	2.5/5/1/ 1	回転ナギ。	回転ナギ。	-		
230 カ ツジ ン	SI01	重恵器 杯 B	-	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	普通 灰白	3/3/6/6 3/3/6/6	5/16/6 6	回転ナギ。	回転ナギ。	-		
231 カ ツジ ン	SI01	重恵器 杯 B	-	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	2.5/5/1/ 1	10/17/ 2	回転ナギ。	回転ナギ。	-		
232 カ ツジ ン	SI01	重恵器 杯 B	-	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	5/5/1/ 1	5/5/1/ 1	回転ナギ。	回転ナギ。	外面に自然軋 痕。		
233 地 土	SI01	重恵器 壺 A	-	(5.8)	-	1	直 径1 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	10/15/2 良	10/16/3 1	回転ナギ。底部回転名知 り。	回転ナギ。	-		
234 カ ツジ ン	SI01	重恵器 壺 A	-	(6.4)	-	1	直 径1 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	2.5/8/8 良	2.5/8/8 1	回転ナギ。底部回転急切 り。	回転ナギ。	-		
235 カ ツジ ン	SI01	土師器 傳	(21.0)	-	-	3	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	10/18/4 良	10/18/5 3	ロ繩部コナギ。胴部綻 口縁部コナギ。	ロ繩部コナギ。	外面に使士と保 付有。		
236 カ ツジ ン	SI01	土師器 傳	(12.2)	-	-	2	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	10/18/6 良	10/18/5 2	ロ繩部コナギ。胴部綻 口縁部コナギ。	ロ繩部コナギ。	側面機構丸ヘタケ 方向ハタキ。		
237 カ ツジ ン	SI01	土師器 傳	-	-	-	2	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	10/18/6 良	10/18/5 3	ロ繩部コナギ。胴部綻 口縁部コナギ。	ロ繩部コナギ。	外面に使士。內 面に保付有。		
238 土	SI02	重恵器 杯 A	(11.2)	(9.0)	4.0	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	2.5/6/6 良	2.5/6/6 1	回転ナギ。底部切り離し 後、回転ヘラタキ。	回転ナギ。	-		
239 土	SI02	重恵器 杯 A	-	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	2.5/7/1 良	2.5/7/1 1	回転ナギ。底部回転ヘラ タキ。	回転ナギ。	-		
240 土	SI02	重恵器 杯 A	-	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良好 灰白	2.5/7/1 良	2.5/7/1 1	回転ナギ。底部回転ヘラ タキ。	回転ナギ。	-		
241 土	SI02	重恵器 杯 B	(13.4)	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	5/5/4/1 良	5/5/4/1 1	回転ナギ。	回転ナギ。	外面に重ね焼き 痕。		
242 土	SI02	重恵器 杯 B	(15.4)	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英をわざわざに含む。	良好 灰白	2.5/5/6 良	2.5/5/6 1	回転ナギ。	回転ナギ。	-		
243 土	SI02	重恵器 杯 B	-	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良好 灰白	5/5/6/6 良	10/17/3 1	回転ナギ。	回転ナギ。	内面に薄い擦 痕。		
244 土	SI02	重恵器 杯 B	(14.2)	-	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良好 灰白	7.5/4/1 良	2.5/5/1 1	回転ナギ。	回転ナギ。	-		
245 土	SI02	重恵器 杯 B	-	(8.8)	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良好 灰白	2.5/5/5 良	2.5/5/5 1	回転ナギ。高台貼付後に潤 滑ナギ。	回転ナギ。	内面平滑。外 面に自然軋痕。		
246 土	SI02	重恵器 杯 B	-	(7.7)	-	1	直 径2 mm以下の長石・ 石英を多く含む。	良好 灰白	5/5/1 良	5/5/1 1	回転ナギ。底部回転ヘラ タキ。	回転ナギ。	-		

第22表 第49次調査遺物観察表(2)

遺物番号	層位	出土位置	種類	質地	法量(cm)	研磨度	施土	被成		色調		成形・調整等		備考	図版番号		
								外面		内面		外面					
								外面	内面	外面	内面	外面	内面				
247 球 土器	SI02	須恵器 灰	(13.2)	-	-	1	直径1mm以下の長石 石英を多く含む。	普通	SIV/1	2.0IV/1	黒灰	回転ナダ。	回転ナダ。	-	-		
248 球 土器	SI02	須恵器 灰	-	-	-	1	直径2mm以下の長石 石英を多く含む。	普通	SIV/1	3.0IV/1	黒灰	回転ナダ。	回転ナダ。	-	-		
249 球 土器	SI02	須恵器 灰	(10.2)	-	-	1	直径2mm以下の長石 石英をわずかに含む。	普通	10IV/6/3	10IV/7/3	黒灰	回転ナダ。	回転ナダ。	外山に薄く煤け る。	-		
250 球 土器	SI02	須恵器 灰	(12.4)	-	-	1	直径1mm以下の長石 石英を多く含む。	普通	2.5IV/6	2.5IV/1	黒灰	回転ナダ。	回転ナダ。	外山に墨書き。	-		
251 球 土器	SI02	須恵器 灰	-	(6.2)	-	1	直径1mm以下の長石 石英を多く含む。	良好	2.5V/2	3.5V/2	黒灰 暗紅色	回転ナダ。底部回転糸切 り。	回転ナダ。	16	-		
252 球 土器	SI02	須恵器 灰	-	(6.6)	-	1	直径2mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	2.5V/2	2.5V/1	黒灰	回転ナダ。底部回転糸切 り後ナダ。	回転ナダ。	16	-		
253 球 土器	SI02	須恵器 灰	(12.6)	-	-	1	直径2mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	10IV/8/1	10IV/8/1	黒白	回転ナダ。	回転ナダ。	16	-		
254 球 土器	SI02	Hgor 様	(11.2)	-	-	1	直径2mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	2.5V/7/4	10IV/7/4	黒白 暗紅色	回転ナダ。	回転ナダ。	-	-		
255 球 土器	SI02	須恵器 灰	(10.8)	-	-	1	直径1mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	2.5V/7/2	2.5V/2	黒灰	回転ナダ。	外山に隕。	-	-		
256 球 土器	SI02	須恵器 灰	(24.4)	-	-	1	直径2mm以下の長石 石英を多く含む。	良好	10IV/5/3	10IV/5/2	黒白 暗紅色	口縁部ヨコナダ。脚部格 子ナダ。脚部底座ナダ。子持タキ。	外山に隕。	16	-		
257 球 土器	SI02	須恵器 灰	-	-	-	1	直径1mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	10IV/6/1	2.5IV/1	黒灰	平行タキと同心 舟形にあはた状	円文で其の 斜削。	16	-		
258 球 土器	SI02	土器漆 器	-	-	-	1	直徑3mm以下の長石 石英をわざかに含む。	普通	2.5IV/5/4	10IV/6/2	黒白 暗紅色	口縁部ヨコナダ。脚部格 子方向ハケメ。	口縁部ヨコナダ。	-	-		
259 球 土器	SI02	鉄製品 刀子	精良 7.1	幅1.0 0.35	厚3.0	1	直さ6.26cm精良木質残存。	-	-	-	-	-	-	-	-		
260 III	-	須恵器 灰	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	10IV/7/1	10IV/7/1	灰白	回転ナダ。大頭部回転ヘ タケツリ。	回転ナダ。	16	-		
261 III	-	須恵器 灰	-	-	-	3	直徑1mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	10IV/5/2	10IV/5/2	灰白	回転ナダ。大頭部回転ヘ タケツリ。	回転ナダ。	16	-		
262 III	-	須恵器 灰	-	(10.2)	-	1	直徑2mm以下の長石 石英を多く含む。	良好	5IV/1	2.5IV/1	好 黒灰	回転ナダ。底面部回転ヘ タケツリ。高台付後に周 縁ナダ。	回転ナダ。	16	-		
263 I	-	須恵器 灰	(14.6)	-	-	1	直徑1mm以下の長石 石英を多く含む。	良好	3IV/5/4	3IV/5/4	好 黒灰	回転ナダ。	外山に重ね黒 底。	16	-		
264 I	-	須恵器 灰	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	2.5IV/4	2.5IV/1	好 黒灰	回転ナダ。	-	-	-		
265 I	-	須恵器 灰	-	-	-	1	直徑1mm以下の長石 石英をわずかに含む。	良好	10IV/6/1	10IV/7/1	好 黒灰	回転ナダ。	外山・断面に 砂礫付着。	16	-		
266 I	-	須恵器 灰	-	(15.6)	-	1	直徑1mm以下の長石 石英を多く含む。	良好	5IV/1	2.5IV/1	好 黒灰	脚部平行タキ後にナ ダ。	ナダ。	16	-		

## (5) 自然科学分析の成果

今回、須恵器との年代の整合性を確かめるために年代測定を、古代の木材利用の実態を把握するために炭化材の樹種同定を、カマド構築材の原材料を把握するために袖部粘土の組成調査を実施した。

年代測定では、SI01で7世紀後葉から8世紀後葉、SI02で7世紀中葉から後葉、SI03で6世紀中葉から7世紀前葉の年代を示した。SI01 カマド試料では約100年の開きがある。遺物で最も新しい229等から遺構の時期を8世紀後葉と考えたが、221のような8世紀頃の遺物も出土する。遺物でも炭化材でも約100年の開きがある。SI02は遺物の年代から8世紀中葉と考えたため、測定結果とは約50年の開きが生じる。これは試料採取が掘方であったため、堅穴建物構築時に古材が混入したと判断する。SI03は遺物の出土がなかったため、現状では測定結果を遺構の年代と考えておく。

樹種同定は、カマド試料ではSI01がクリ、SI03がクヌギ節であった。クヌギは長時間燃焼する材として現在でも使用する。クリは建築材の廃材などが燃やされた可能性がある。クヌギは燃やすと灰になってしまい、クリは炭化材として残る。このためSI03がクリだけを燃やしていたかは事例の増加を待って検討する必要がある。なお、SI02掘方試料はモクレン属であった。現在でも植生が見られるホウノキの可能性が高い。

SI01 カマド袖材料の組成調査では、周辺の岩石学的特徴と一致することが判明した。堅穴建物を構築する際には、近辺の材料を用いたものと考えられる。

## 第4章 総 括

今回の4次にわたる調査で発見した遺構では、古代の堅穴建物跡16軒と第27次調査のSD01など上町遺跡にとって重要な知見がいくつかあった。それぞれ詳しく見ていく総括としたい。

今回の調査の大きな特徴は、最も遠い27次調査地点49次調査地点で直線距離500mを測るなど、上町遺跡を縦断する調査対象地となったことである。このため、第25Ⅰ・Ⅱ及び第41次の試掘確認調査で、広範囲の遺構の有無を検討することができた。結果として、遺構を発見した範囲が本発掘調査対象地となったが、遺構が無い範囲も明らかにすることができた。すなわち、上町遺跡は広範囲で遺物の散布が認められるものの、遺構が満遍なく広がるわけではない。第1章で述べたとおり、遺構が無かったトレンチでは、旧耕作に関わる土壌の下層が地山第V層であった。これは、土地改良時等に地山まで削平を受けていたか、宮川と荒城川から時折流入する氾濫原の堆積物として第V層を確認している可能性がある。後者の場合、上町遺跡が立地する低位段丘の中でも、宮川と荒城川の活動によって形成された第IV層が堆積する微高地にのみ遺構が展開していた可能性がある。今後の調査でも、遺構検出面を第IV層になるのか第V層になるのかを見極めて、検証する必要がある。

このような広範囲の調査区を前提として、さらに26・45・49次調査地点は上町遺跡が立地する低位段丘の段丘崖に面し、直線で350mの距離である。古代には段丘端に断続的に堅穴建物が広がっていたものと推測できる。

次に、第27次調査の溝跡SD01である。27SD01は、上端3.45m、深さ1.42mを測り、時期は8世紀代と推測される。上町遺跡の古代の溝跡では最大規模である。また、主軸方位も南北を意識しているものと推測できた。さらにその位置は、上町遺跡が郡衙関連遺跡と推測される根拠である大型掘立柱建物跡群から200m離れている。このような状況から、郡衙関連施設が一町を意識して配置され、その東端の区画が27SD01であった可能性を指摘できる。近辺の調査の際には、この可能性にも注意しなければならない。

調査地点と出土遺物に注意を要するものとして、49次調査の墨書き器も挙げられる。49次調査位置は、上町廃寺跡推定地から西100mの距離である。その位置から、検出した3軒の堅穴建物跡は広い意味での寺域の中で営まれていた可能性も想定しておく必要がある。49次調査では外面に「寺カ」と墨書きされた須恵器壺250も出土している。周辺の調査の際には、古代寺院関連遺構にも注意しながら進める必要がある。

最後に、自然化学分析についても触れておく。まず、年代測定では45SI03・49SI01・49SI02・49SI03で発掘調査所見を検討しうる数値を示した。上町遺跡出土遺物については、これまでの報告書で相対編年の検討がなされるが、実年代については猿投窓編年などを援用している。資料の増加に伴う相対編年の検討継続と共に、今回のように絶対年代の参考資料も明示しておく必要があると考えられる。

以上、今回の調査成果のうち、これまでの調査成果と今後の調査課題に関わることを述べた。つまり、遺構が無い部分の第V層地山からは地形と遺跡の成り立ちに注意する必要があること、上町遺跡が立地する低位段丘崖周辺に堅穴建物跡が断続的に広がる景観、27SD01が官衙関連の区画溝の可能性があること、49次調査周辺では古代寺院の遺構に注意する必要があること、上町遺跡での絶対年代の例示の5点である。大規模な上町遺跡を理解するために、今後も検証を継続する必要がある。

## 引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2010『愛知県史』(史料編4 考古4 飛鳥～平安) 愛知県
- 大阪府教育委員会 1978『陶邑III』
- 大阪府立近つ飛鳥博物館 2006『年代のものさし』(陶邑の須恵器)
- 上町遺跡金子地点・氷見地点発掘調査団 2001『上町遺跡金子地点・氷見地点発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第6集 古川町教育委員会
- 上町遺跡C地点遺跡発掘調査団 1989『上町遺跡C地点発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 上町遺跡C地点遺跡発掘調査団 1991『上町遺跡D地点発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 上町遺跡トヨタ地点・O地点・栗原センター地点発掘調査団 1994『上町遺跡トヨタ地点・O地点・栗原センター地点発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第4集 古川町教育委員会
- 岐阜県 2003『岐阜県史』(考古資料)
- 岐阜県土木部・財団法人岐阜県文化財保護センター 1995『岡前遺跡』
- 岐阜県博物館 1992『特別展 飛驒のあけぼの』
- 岐阜県博物館 1995『特別展 美濃・飛驒の古代史発掘－律令国家の時代－』
- 建設省・財団法人岐阜県文化財保護センター 1992『国道41号線改良工事に伴う発掘調査報告書』
- 国府町教育委員会 1993『岐阜県国府町遺跡地図』
- 国府町史刊行委員会 2007『国府町史』(考古・指定文化財編)
- 国府町史刊行委員会 2011『国府町史』(通史編1)
- 小瀬忠司 2011「飛驒の須恵器と灰釉陶器」『研究事業報告』(平成22年度版) 岐阜県ミュージアム  
飛驒
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平  
遺跡・大洞平5号古墳』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2002『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2005『太江遺跡II』
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2006『下老子篠川遺跡発掘調査報告』(能越自  
動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告V)
- 齊藤孝正・後藤健一 1995『須恵器集成図録』(第3巻 東日本編I) 雄山閣出版
- 高橋浩二 2000「古墳出現期における越中の土器様相—弥生時代後期から古墳時代前期前半土器の編  
年的位置付け—」『庄内式土器研究』XX II 庄内式土器研究会
- 東海土器研究会 2000『須恵器生産の出現から消滅』(猿投窯・湖西窯編年の再構築)
- 中村 浩 2001『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』 芙蓉書房出版
- 西 弘海 1986『土器様式の成立とその背景』西弘海遺稿集刊行会
- 八賀 晋 2004『信包八幡神社古墳測量調査報告書』飛驒市教育委員会
- 飛驒市教育委員会 2013『上町遺跡向町地点』飛驒市文化財調査報告第6集
- 飛驒市教育委員会 2016『上町遺跡第28～33・37次』飛驒市文化財調査報告第9集



第 26 次 竪穴建物跡 SI01 遺物出土状況（北から）



第 26 次 SI01- 柱穴 P1 遺物出土状況（北東から）



第 26 次 竪穴建物跡 SI01 床面検出状況（北から）



第 26 次 竪穴建物跡 SI01・02 完掘状況（北から）



第 26 次 完掘状況（北西から）

図版 2



第 27 次 完掘状況（北から）



第 27 次 溝跡 SD01 完掘状況（北から）



第 27 次 溝跡 SD01 断面層位（北東から）



第 27 次 溝跡 SD01 遺物No. 85・86・87・92 出土状況（南東から）

図版 4



第 27 次 遺物№.117 出土状況（東から）



第 27 次 竪穴建物跡 S103 遺物№.74・75 出土状況（南から）



第 27 次 竪穴建物跡 S102 完掘状況（北から）



第 27 次 竪穴建物跡 S104 検出状況（北から）



第 27 次 竪穴建物跡 S103 完掘状況（南から）



第 27 次 竪穴建物跡 SI04 完掘状況（北から）



第 27 次 掘立柱建物跡 SB01 完掘状況（南から）



第 27 次 竪穴建物跡 SI01、柱穴 SP03・04・05 完掘状況（南西から）

図版 6



第 45 次 遺構検出状況（西から）



第 45 次 積穴建物跡 SI02-1・2 完掘状況（南東から）

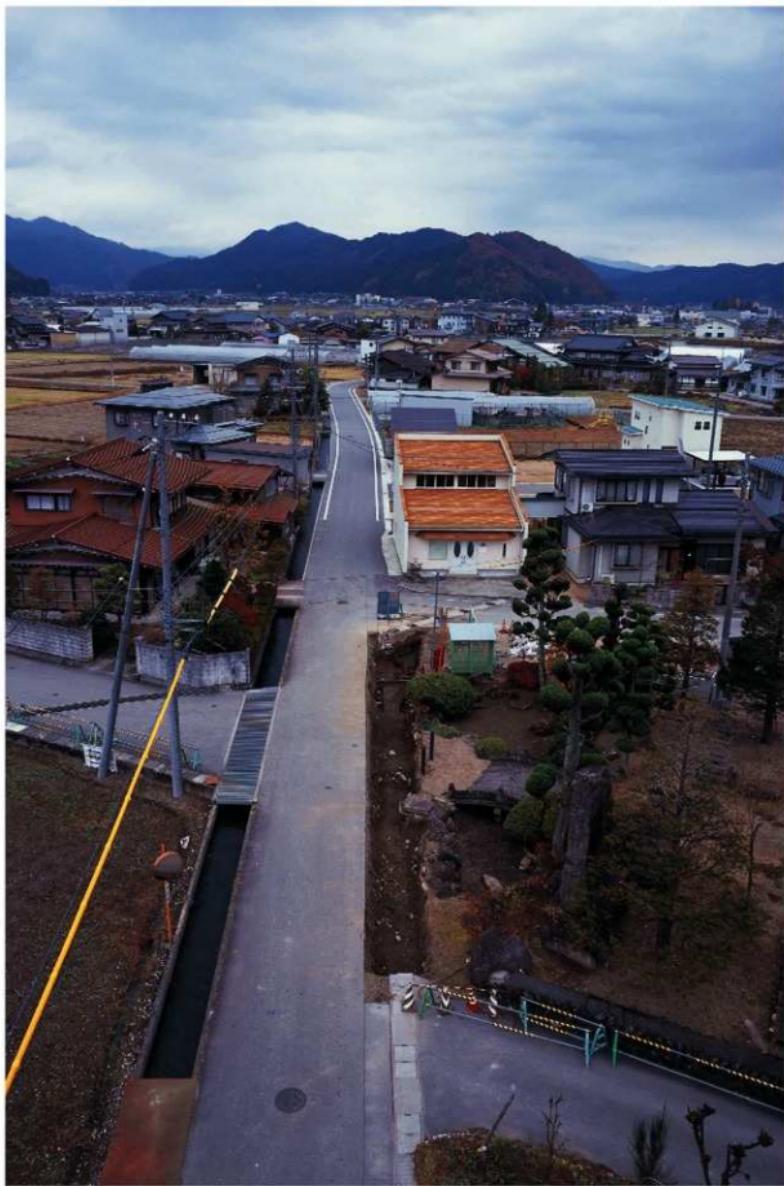


第 45 次 竪穴建物跡 S102-2 カマド断面層位（東から）



第 45 次 竪穴建物跡 S103 完掘状況（南東から）

図版 8



第 49 次 全景（西から）



第49次 竪穴建物跡が切り合う状況（東から）



第49次 竪穴建物跡 SI01 カマド完掘状況（東から）



第49次 竪穴建物跡SI01カマド遺物221・222・227・229・237出土状況（東から）



第49次 竪穴建物跡 SI01 完掘状況（東から）

図版 10



第 49 次 壁穴建物跡 SI02 完掘状況（東から）



第 49 次 壁穴建物跡 SI02 遺物出土状況（北から）



第 49 次 壁穴建物跡 SI02 断面層位（北から）



第49次 壁穴建物跡SI02遺物No.245出土状況近接（北から）



第 49 次 壁穴建物跡 SI02 遺物 No. 241 出土状況（北から）



第 49 次 竪穴建物跡 SI03 完掘状況（北から）



第 49 次 竪穴建物跡 SI03 カマド検出状況（北から）



第 49 次 柱穴跡 SP04 稲出土状況（北から）



第 49 次 竪穴建物跡 SI03 カマド完掘状況（北から）



第 49 次 柱穴跡 SP04 完掘状況（北から）

圖版 12



試據確認調查 第25次Ⅰ・Ⅱ、第41次 出土遺物

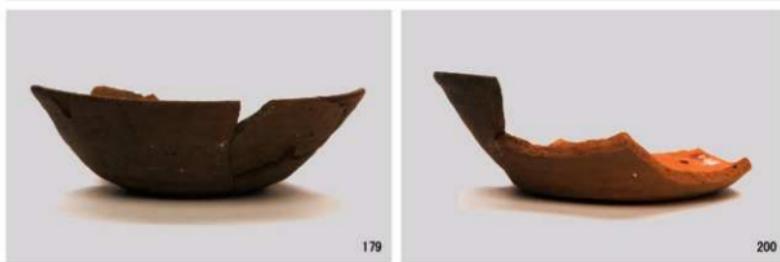


第26次調査 出土遺物



第 27 次調査 出土遺物 (1)





第 45 次調査 出土遺物

179

200

圖版 16



第 49 次調查 出土遺物

報告書抄録

飛驒市文化財調査報告書 第13集

## 上町遺跡7

発行日 平成30（2018）年3月2日

編集・発行 飛驒市教育委員会

〒509-4292 岐阜県飛驒市古川町本町2番22号

TEL 0577-73-7496 FAX 0577-73-7497

印刷・製本 有限会社 毛野考古学研究所 富山支所

〒939-0351 富山県射水市戸磯1679番地3

太閤山荘番館4号室

TEL/FAX 0766-57-1618

毎日印刷社

〒506-1161 岐阜県飛驒市神岡町船津1152番地1

TEL 0578-82-0447 FAX 0578-82-5101